長崎県埋蔵文化財センター調査報告書　第38集

中　島　遺　跡

主要地方道路福江富江線改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２１

長 崎 県 教 育 委 員 会

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書　第38集

中　島　遺　跡

主要地方道路福江富江線改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２１

長崎県教育委員会

写真 1　遺跡遠景（香珠子浜・御手洗崎の上空から東方。遺跡地、小泊集落、鬼岳を望む）

写真 2　遺跡遠景（遺跡奥の谷部上空から南方。富江湾・富江半島を望む）

8 月 22 日、富江湾奥部の大浜に南西からの波浪が届く。富江半島が防波堤さながらとなるため、半島より西側の福江島南西岸に比べウネリは和らぐ。湾の対岸には宮下貝塚が所在する。中央付近のソーラーパネルと自動車学校が大浜遺跡、左側の住宅地が小泊集落。

写真 3　遺跡遠景（鬼岳山頂から西方の遺跡地を望む）

写真 4　遺跡近景（大浜遺跡上空から東方を望む）

溶岩台地の縁を 20 mほど下った裾部に遺跡は立地する。溶岩台地の地下を流れる水が伏流水となって湧き出す。

写真 5　調査区全景（左が北）

写真 6　Ⅱ層完掘状況（北から。Gr7 ～ 13。水田の右側がドングリ貯蔵穴の検出地点）

写真 7　Gr8 ベルト土層断面状況（北から。手前はⅢ・Ⅳ層上面）

写真 8　SL1 炉跡半裁状況（西から）

刊行にあたって

本書は、主要地方道路福江富江線改良工事に伴い、令和元年度に実施した中島遺跡の発掘調査報告書です。

五島列島最南端の福江島南岸にある遺跡で、福江島のシンボルとも言える鬼岳から流れ出た溶岩台地の縁辺に立地します。富江湾奥部の入江に所在し、目の前には美しい青緑色の大浜海水浴場がひろがっています。隣接する大浜遺跡は、弥生時代の墳墓や奈良・平安時代の馬・牛の骨、中央政権との関係を示す土器の出土で古くから有名ですが、中島遺跡は縄文時代のドングリ貯蔵穴が発見されたことで知られています。

この度の発掘調査区は、かつてドングリ貯蔵穴が発見された場所の東側にあたります。縄文時代後期を主とした土器片や磨石・敲石・台石・石斧等の石器が多く出土しました。珍しいものでは、緑白色の石材で製作された装飾品も見付かっています。

特に多く出土した磨石・敲石・台石は、ドングリなどの木の実を磨り潰したりする「堅果類加工石器」と呼ばれるものです。今回の調査地点はおそらく、貯蔵穴に一時保管していたドングリを加工する場所であったと考えられ、縄文時代の生業活動をより鮮明にする調査成果を得ることができました。

この発掘調査にあたってご協力いただいた多くの関係者の皆様方に深く感謝を申し上げますとともに、この調査成果が学術的に広く活用され、さらには地域の方々の郷土を理解する資料として役立てていただければ幸いです。

令和３年３月

長崎県教育委員会

教育長　池松　誠二

例　言

1．本書は、主要地方道路福江富江線改良工事に伴い、令和元年度に実施した中島遺跡の発掘調査報告書である。

2．本書は主要地方道路福江富江線改良工事に伴う中島遺跡発掘調査報告書作成費にもとづいて発行した。

3．本事業は長崎県五島振興局建設部道路課が事業主体となり、発掘調査主体は長崎県教育委員会が、発掘調査は長崎県教育庁長崎県埋蔵文化財センターが担当した。発掘調査の長崎県遺跡調査番号はNKS201902 である。

4．発掘調査及び報告書作成において下記の業務委託を行なった。

発掘調査支援：中島遺跡特定埋蔵文化財発掘調査共同企業体（国際文化財株式会社・株式会社三基）

石器実測委託：国際文化財株式会社

放射性炭素年代測定：株式会社古環境研究所

5．発掘調査及び報告書作成に係る指導、情報・資料提供など以下の方々に御指導・御協力いただいた（敬称略、所属順）。

出口健太郎・野茂正範（五島市教育委員会）、木口榮（五島文化協会）

川道寛・村川逸朗（長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所）

6．平面直角座標は世界測地系を、方位は座標北を用いている。

7．本書に掲載した地質図は、産業技術総合研究所地質調査総合センターウェブサイトの 20 万分の 1 地質図幅「福江及び富江」データを使用し加工して作成したものである。

8．本書に掲載した周辺遺跡分布図は、国土地理院ウェブサイトの標準地図・傾斜量図タイルを使用し加工して作成したものである。

9．本書に掲載した地形断面図は、国土地理院ウェブサイトの傾斜量図タイル及び断面図ツールを使用し加工して作成したものである。

10．本書に収録した遺物の実測および製図は、一部の石器を除き長崎県埋蔵文化財センターが行った。

11．金属製品の透過エックス線撮影及び保存処理は、長崎県埋蔵文化財センター調査課・片多雅樹係長、近藤佳恵文化財調査員が行った。

12．黒曜石の産地推定分析･執筆は長崎県埋蔵文化財センター調査課･岩佐朋樹文化財保護主事が行った。

13．本書の執筆・編集は松元が行った。

14．本書に収録した遺物 ID 番号は収蔵登録 ID「NKS201902- □□□」の枝番号部分と一致する。また、収蔵登録 ID は遺物へ注記し収蔵台帳に記載している。

15．本書に収録した遺物・図面・写真類は長崎県埋蔵文化財センターに保管している。

本文目次

Ⅰ．遺跡の環境 …… 1
1．地理的環境 …… 1
2．歴史的環境 …… 2

Ⅱ．調査に至る経緯 …… 4
1．調査履歴 …… 4
（1）福江市緊急調査
（2）県内重要遺跡範囲確認調査
（3）熊本大学調査
2．調査要因 …… 5
3．範囲確認調査 …… 6
（1）調査期間と面積
（2）調査体制
（3）範囲確認調査の概要

Ⅲ．調査の概要 …… 7
1．調査期間と面積 …… 7
2．調査体制 …… 7
3．発掘調査の流れ …… 7
4．層序と地形 …… 7
（1）基本層序
（2）旧地形の推定
5．本調査の概要 …… 9
（1）遺構
（2）遺物
6．現地説明会・発掘体験 …… 10
7．整理作業・報告書作成 …… 10

Ⅳ．縄文時代の遺構と遺物 …… 11
1．遺構 …… 11
（1）炉跡
2．遺物 …… 11
（1）土器
（2）石器

Ⅴ．弥生時代の遺物 …… 28
1．遺物 …… 28
（1）土器

Ⅵ．古墳時代・古代・中世の遺構と遺物 …… 30
1．遺構 …… 30
（1）焼土・炭化物分布
2．遺物 …… 30
（1）土器

遺物一覧 …… 32

Ⅶ．自然科学分析 …… 37
1．放射性炭素年代測定（古環境研究所） …… 37
2．黒曜石産地推定（岩佐） …… 39

Ⅷ．総括 …… 43
【引用・参考文献】 …… 44

図目次

図 1　表層地質図 …… 1
図 2　周辺遺跡分布図 …… 3
図 3　中島遺跡調査履歴図 …… 4
図 4　ドングリ貯蔵穴 …… 5
図 5　調査区全体図及び土層断面図 …… 8
図 6　地形断面図 …… 9
図 7　SL1 実測図 …… 11
図 8　遺物実測図［縄文時代］ …… 12
図 9　遺物実測図［縄文時代］ …… 13
図 10　遺物実測図［縄文時代］ …… 14
図 11　遺物実測図［縄文時代］ …… 15
図 12　遺物実測図［縄文時代］ …… 16
図 13　遺物実測図［縄文時代］ …… 18
図 14　遺物実測図［縄文時代］ …… 19
図 15　遺物実測図［縄文時代］ …… 20
図 16　遺物実測図［縄文時代］ …… 21
図 17　遺物実測図［縄文時代］ …… 22
図 18　遺物実測図［縄文時代］ …… 23
図 19　遺物実測図［縄文時代］ …… 24
図 20　遺物実測図［縄文時代］ …… 25
図 21　遺物実測図［縄文時代］ …… 26
図 22　遺物実測図［縄文時代］ …… 27
図 23　遺物実測図［弥生時代］ …… 28
図 24　遺物実測図［弥生時代］ …… 29
図 25　遺物実測図［古墳時代・古代・中世］ …… 31
図 26　暦年較正図 …… 38
図 27　五島列島内縄文遺跡と黒曜石出土遺跡 …… 40
図 28　中島遺跡出土黒曜石の判別図 …… 41

表目次

表 1　周辺遺跡一覧 …… 2
表 2　遺物一覧 1（土器・陶磁器） …… 32
表 3　遺物一覧 2（土器・陶磁器） …… 33
表 4　遺物一覧 3（土器・陶磁器） …… 34
表 5　遺物一覧 4（土器・陶磁器） …… 35
表 6　遺物一覧 5（石器） …… 35
表 7　遺物一覧 6（石器） …… 36
表 8　測定試料及び処理 …… 37
表 9　測定結果 …… 38
表 10　黒曜石分析結果一覧 …… 42

写真目次

【巻頭図版】
巻頭図版 1
写真 1　遺跡遠景
写真 2　遺跡遠景
巻頭図版 2
写真 3　遺跡遠景
写真 4　遺跡近景

巻頭図版 3
写真 5　調査区全景
写真 6　Ⅱ層完掘状況
巻頭図版 4
写真 7　Gr8 ベルト土層断面状況
写真 8　SL1 炉跡半裁状況

【本文写真】
写真 9　出土遺物の展示・解説
写真 10　発掘体験の様子

【写真図版】
写真図版 1
写真 11　Gr6 ベルト土層断面状況
写真 12　Gr12 ベルト土層断面状況
写真 13　Gr1 ～ 6 Ⅰ層下面検出状況
写真 14　Gr11 ～ 13 Ⅰ層下面検出状況
写真 15　Gr8 Ⅱ層掘削状況
写真 16　Gr13 Ⅱ層掘削状況
写真 17　Ⅱ層遺物出土状況
写真 18　Ⅱ層遺物出土状況
写真図版 2
写真 19　SL2 検出状況
写真 20　SL2 検出状況
写真 21　Gr12 トレンチ焼土分布検出状況
写真 22　Gr1 ～ 6 Ⅱ層完掘状況
写真 23　Gr7 ～ 10 Ⅱ層完掘状況
写真 24　Gr11 ～ 13 Ⅱ層完掘状況
写真 25　SL1 検出状況
写真 26　SL1 検出状況
写真図版 3
写真 27　Ⅲ層掘削状況
写真 28　Gr1 ～ 6 Ⅲ層完掘状況
写真 29　Gr7 ～ 10 Ⅲ層完掘状況
写真 30　Gr11 ～ 13 Ⅲ層完掘状況
写真 31　出土土器（縄文時代）
写真図版 4
写真 32　出土土器（縄文時代）
写真 33　出土土器（縄文時代）
写真図版 5
写真 34　出土土器（縄文時代）
写真 35　出土土器（縄文時代）
写真図版 6
写真 36　出土石器（縄文時代）
写真 37　出土石器（縄文時代）
写真図版 7
写真 38　出土石器（縄文時代）
写真 39　出土石器（縄文時代）
写真図版 8
写真 40　出土石器（縄文時代）
写真 41　出土土器（弥生時代・古墳時代・古代・中世）

Ⅰ．遺跡の環境

1．地理的環境

中島遺跡の所在する福江島は五島列島最南端の島で、東西・南北とも直線距離で 20km 前後、面積は 326.43km^2 で列島の中では最大である。島のほとんどを新第三期の五島層群や福江流紋岩類で形成される山地が占め、その周囲にとりつくように更新世後期の福江火山群が半島をなしている。島南東部の鬼岳火山群は鬼岳を中心に玄武岩質溶岩流で形成された低平な台地が広がる。これより西方、島南部の富江半島もまた、只狩山火砕丘を中心に低平な台地地形をなしている。同様に島北西部には三井楽火山が形成した三井楽半島や岐宿火山が位置している。鬼岳火山群からなる半島と付け根付近は谷底平野となって沖積層で覆われている。この谷底平野の南端で、鬼岳の低平な溶岩台地が落ち込む海岸付近が遺跡地となる。

この海岸は鬼岳の半島と富江半島が囲む富江湾の東奥部にあたり、現在では遠浅の砂浜が特徴的な大浜海水浴場となっているが、縄文時代後期段階では岩礁性の環境であり、縄文時代晩期から弥生時代にかけての寒冷化初段階において砂丘が形成されたという（福田 1998）。現在の富江湾沿岸における他の砂浜は、西の御手洗崎を挟んで隣接する香珠子浜や湾中央付近の田尾浜が挙げられる。また富江湾は南・南西からの波浪に対して富江半島がブロックとなってうねりを和らげるようで、湾外に比べ海況は穏やかである。

これまでの調査でもよく指摘されてきたように、遺跡地が鬼岳の溶岩台地縁辺の低地部にあることから、台地下を流れる伏流水の湧出が環境的特性として挙げられる（村川 1987 ほか）。また、中島遺跡

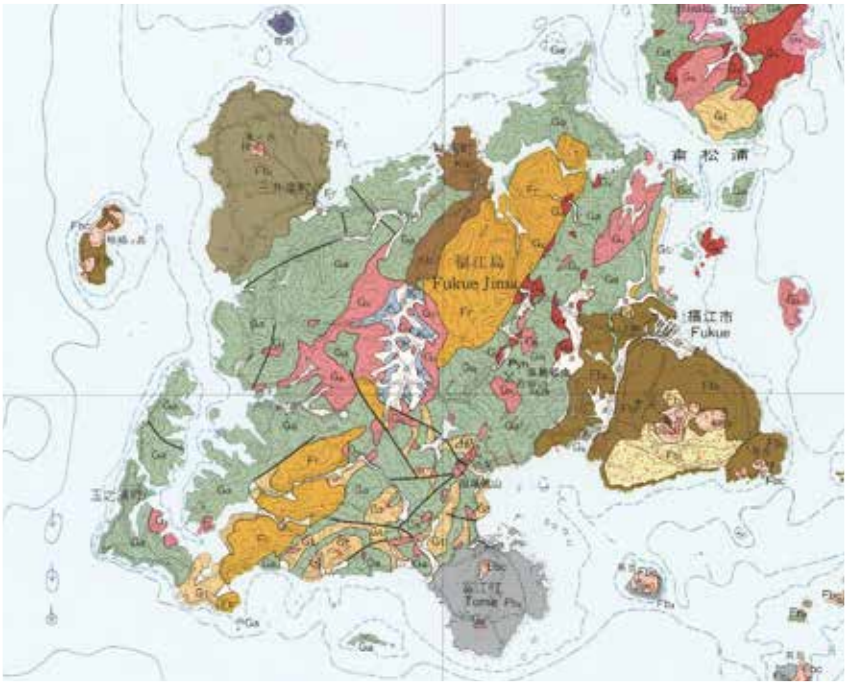
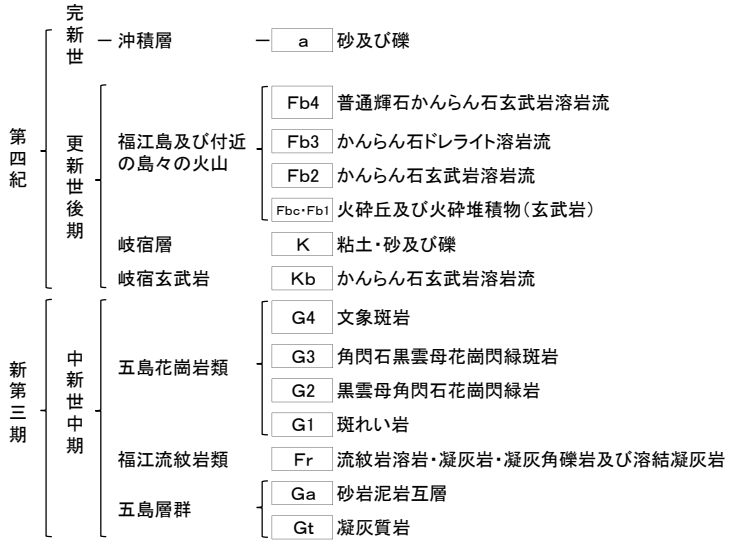


図１　表層地質図
（産業技術総合研究所地質調査総合センターウェブサイトの 20 万分の 1 地質図幅「福江及び富江」データを使用し加工して作成）



と大浜遺跡について、立地的な違いに着目した通時的な遺跡形成過程が復元されている。縄文時代後期にドングリ貯蔵穴の構築など低地部の利用が開始されて中島遺跡が形成され、縄文時代晩期以降に砂丘が発達、この砂丘上に弥生時代の墳墓や沼地利用、古代の遺物を遺す大浜遺跡が展開したという(福田 1998)。

2．歴史的環境

以下では遺跡の所在する福江島南東部を中心に各時代の遺跡を概観する。

五島列島における旧石器時代の遺跡は、宇久・小値賀・中通の北部 3 島に集中する傾向があり（小畑・塚原 2001)、福江島では鬼岳周辺で主に確認されている。中島遺跡近くの丘陵部にある浜野西野遺跡では畑でナイフ形石器が採集されている。

縄文時代の遺跡は数多く島の海岸部に集中し東半の比重がやや高い。江湖貝塚や白浜貝塚、大板部洞窟等が知られる。大板部洞窟遺跡は溶岩で形成された周囲 3km ほどの小さな島で、上下 2 つに分かれる長さ 130m の洞窟が調査されている。洞窟では轟Ｂ式や塞ノ神式土器が出土しており、下の洞窟でアワビ等の貝塚が検出されている。江湖貝塚は曽畑式期の貝塚が確認された前期の潮間帯遺跡である。富江湾を挟んだ対岸に位置する宮下貝塚は、当遺跡と同様に前期から晩期までの遺物が確認されており、後期に盛行する点も他の縄文遺跡と共通する。石斧の埋納遺構や埋葬人骨、多量の骨角器等

表 1　周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	中島遺跡	遺物包含地	平地	縄･弥
2	大浜遺跡	遺物包含地	平地	弥･墳
3	元享寺遺跡	遺物包含地･社寺跡	台地	縄･中
4	堂園遺跡	遺物包含地	平地	縄･弥
5	浜野西野遺跡	遺物包含地	丘陵	旧･縄
6	外輪遺跡	遺物包含地	台地	墳
7	野々切遺跡	遺物包含地	台地	
8	皆塚遺跡	遺物包含地	台地	弥
9	赤島遺跡	遺物包含地	砂浜	縄
10	崎山積石塚	墳墓	海岸	墳
11	大板部洞窟遺跡	貝塚	海底	縄
12	泊崎遺跡	遺物包含地	海岸	縄
13	向郷遺跡	遺物包含地	平野	
14	白浜貝塚	遺物包含地･貝塚	砂丘	縄･弥
15	崎山渡船場上遺跡	遺物包含地	台地	
16	白浜浦遺跡	遺物包含地	海岸段丘	縄･弥
17	長手遺跡	遺物包含地	台地	旧･縄
18	荒神社遺跡	墳墓	丘陵	
19	五社の上遺跡	遺物包含地	台地	旧･縄･墳
20	橘遺跡	遺物包含地	台地	弥
21	一本木遺跡	遺物包含地	平地	弥
22	江湖貝塚	遺物包含地	海岸	縄
23	水の窪遺跡	遺物包含地	台地	縄･弥
24	天神社遺跡	遺物包含地	平地	
25	鷲の浦遺跡	遺物包含地	平地	
26	石田城跡	城館跡	平地	近
27	福江武家屋敷跡	屋敷跡	平地	近
28	住吉神社遺跡	遺物包含地	台地	
29	五島家墓地	墳墓	平地	近
30	荒神岳嘯月園	城館跡	台地	近

番号	遺跡名	種別	立地	時代
31	轡口坂遺跡	遺物包含地	丘陵	旧･縄･墳
32	瀬戸遺跡	遺物包含地	台地	縄
33	皿山窯跡	窯跡	丘陵	近
34	毘沙門天神社経塚	遺物包含地	台地	中
35	志田遺跡	遺物包含地	台地	縄
36	下越地遺跡	遺物包含地	台地	縄
37	中尾墓地(経塚･六地蔵)	その他の遺跡	平野	近
38	八本木窯跡	窯跡	丘陵	近
39	道蓮寺跡	社寺跡	丘陵	近
40	高照寺跡	社寺跡	丘陵	近
41	皿山窯跡	窯跡	丘陵	近
42	宮下貝塚	貝塚	丘陵	縄
43	富江陣屋跡	城館跡	平野	近
44	集月寺跡	社寺跡	丘陵	近
45	宝塔山経塚	その他の遺跡	丘陵	近
46	宝合寺跡	社寺跡	丘陵	近
47	舩森遺跡	遺物包含地	台地	旧･縄
48	女亀遺跡	遺物包含地	台地	縄
49	勘次ヶ城跡	石塁	台地	中
50	山崎遺跡	遺物包含地	平野	縄
51	井坑遺跡	遺物包含地	台地	縄
52	野坑遺跡	遺物包含地	台地	縄
53	坪遺跡	遺物包含地	平地	縄
54	美江原遺跡	遺物包含地	丘陵	縄
55	天保遺跡	遺物包含地	台地	縄
56	黒瀬遺跡	遺物包含地	台地	縄
57	魚見岳遺跡	遺物包含地	丘陵	縄
58	腐水遺跡	遺物包含地	平野	縄
59	村中遺跡	社寺跡	平野	近

の出土は特筆される。

弥生時代では隣接する大浜遺跡で中・後期の甕棺墓や石囲い墓などの埋葬遺構が検出されている。墓坑で人骨とともに出土した牛歯は特に有名である。一本木遺跡は後期の墳墓遺跡で、甕棺墓のほか配石を伴う集石墓も検出されている。

古墳時代では集落遺跡等の顕著な遺跡は希薄で、遺物包含地の遺跡が散見されるのみである。積石塚とされる外輪遺跡も実態は不明瞭で、福江島での高塚古墳は確認されていない。

古代の遺跡は少ないが、大浜遺跡では越州窯系青磁・緑釉陶器・墨書土器や新羅系の印花文土器が出土しており、馬骨の出土と合わせ「牧」の存在した可能性や官衙的性格が提起されている。

中世以降では五島列島北端の宇久島で宇久氏の館跡と目される宇久山本遺跡が知られるが、福江島への移入後の状況を示すような遺跡は確認されていない。

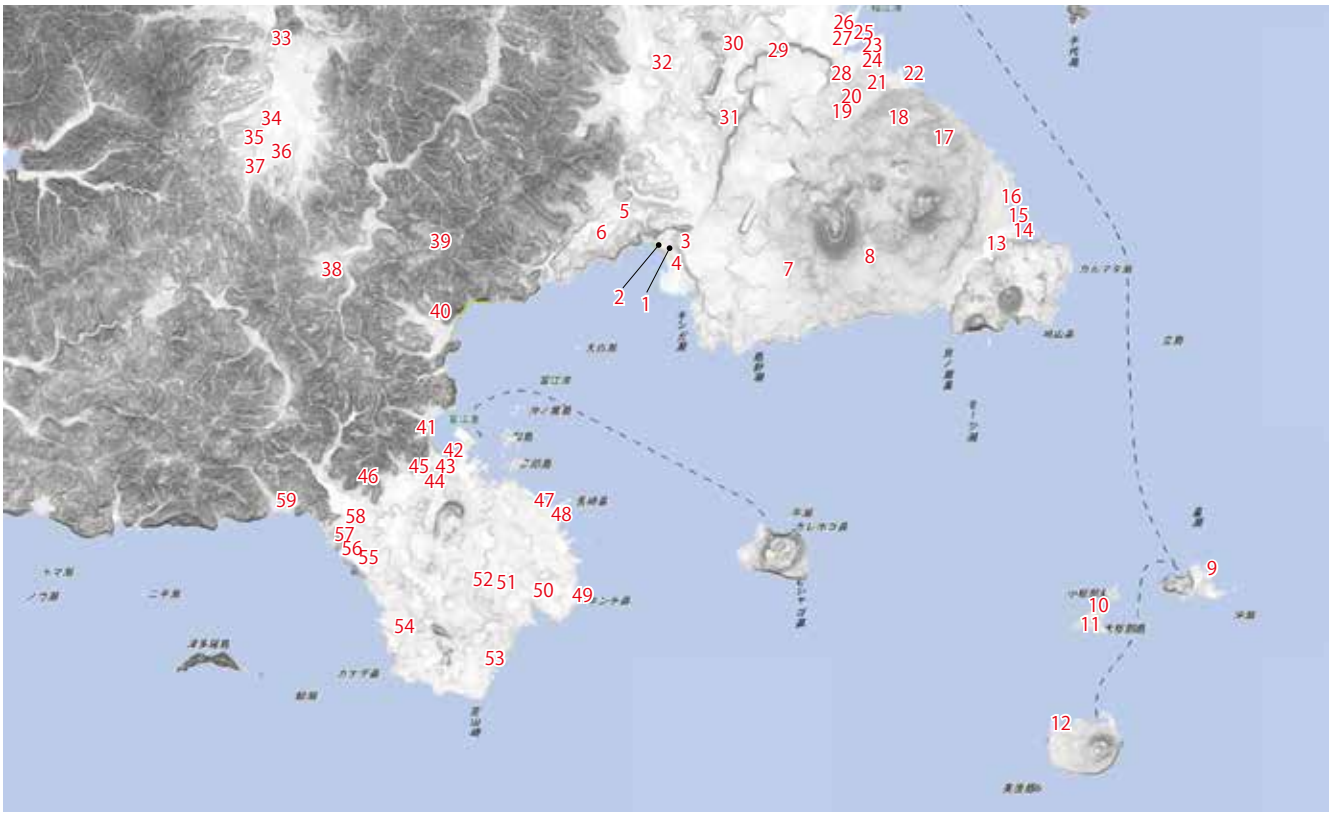


図 2　周辺遺跡分布図(1/150, 000)(国土地理院ウェブサイトの標準地図・傾斜量図タイルを使用し加工して作成)

Ⅱ．調査に至る経緯

中島遺跡に隣接する大浜遺跡は戦前から弥生時代の墳墓遺跡として広く知られていた。その経緯は既往調査の報告書に詳しいが（川道 1997、福田 1998 など）、大正 14（1925）年の台風の折に砂丘から甕棺や貝輪が出土したことに端を発する。昭和 10（1935）年には桑山龍進氏により発掘調査が行われた。昭和 37・38（1962・63）年に長崎県教育委員会は五島遺跡総合調査会を編成し、五島列島全域の考古学的調査を実施した。その一環として同志社大学の酒詰仲男氏を中心に大浜遺跡の発掘調査が行われ、弥生時代の埋葬人骨 9 体や牛の歯を含む墳墓群が検出されたという。大浜遺跡が弥生時代の埋葬人骨や牛骨の出土する墳墓遺跡として知られる一方、中島遺跡は縄文時代の遺物散布地として遺跡地図に登載されてはいたものの実態は不明確であった（村川 1987）。

1．調査履歴

（1）福江市緊急調査（村川・正林 1987）

昭和 60（1985）年に浜地区で実施された「新農政推進特別対策事業」における水田嵩上げ整備工事の最中に須恵器等の遺物が出土した。これを受け福江市教育委員会と長崎県文化課（当時）は、嵩上げ工事がほぼ完了し水路部分の素掘り段階で緊急発掘調査を実施することとなった。

10 日間の短期調査であったが、縄文時代後期を中心に前期後半から晩期の土器・石器が多量に出土し、弥生時代中期、古墳時代後期の土器も少量出土した。なかでも 12 基ものドングリ貯蔵穴が検出されたことは特筆され、生業や低湿地利用など縄文時代の調査研究において今もなお貴重な資料となっている。ドングリ貯蔵穴は 4 基が完掘され、木蓋や重石、澱粉の存在などが後にも議論された（川道 1997 など）。

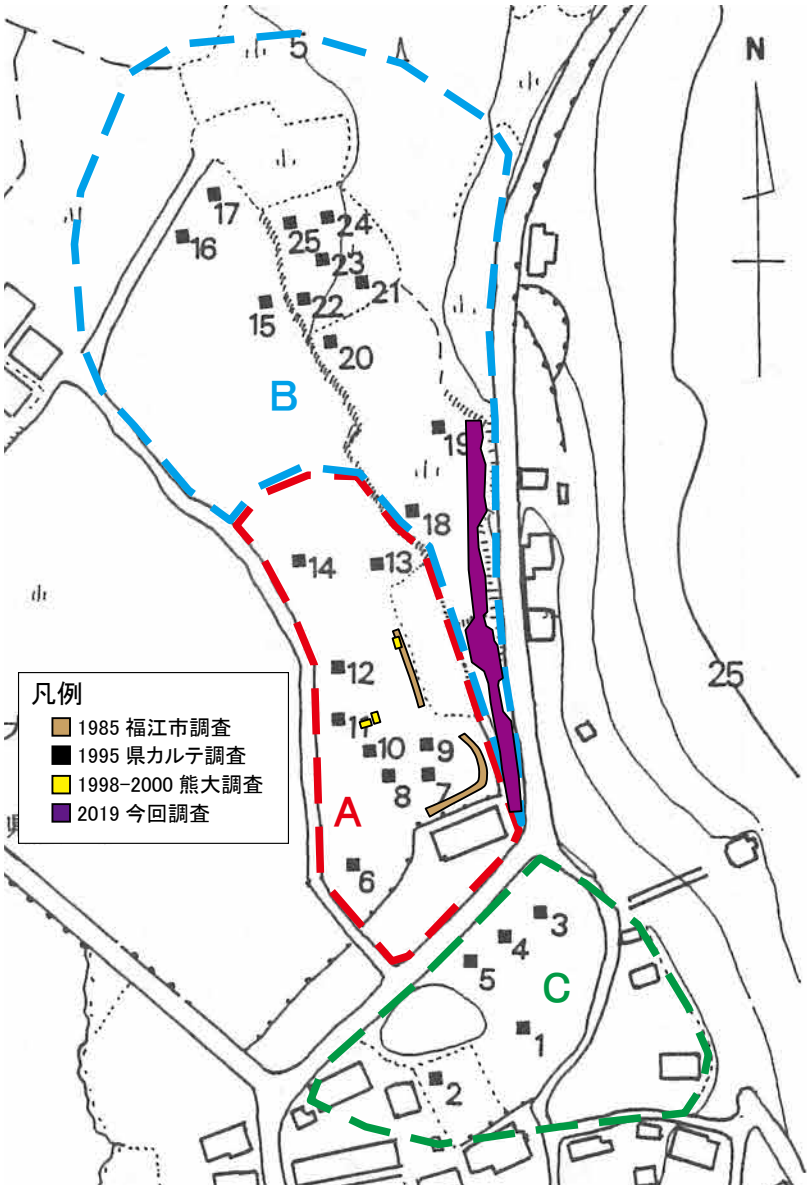


図 3　中島遺跡調査履歴図（川道 1997 第 2 図を一部改変）

（２）県内重要遺跡範囲確認調査（川道 1997）

平成 3（1991）年から 5 か年計画で始まった長崎県教育委員会の「重要遺跡範囲確認調査（カルテ事業）」において平成 7（1995）年に調査対象に選定され、同年 6・7 月中の 1 か月間で旧水田部と低丘陵部を中心に 25 か所のトレンチ調査が実施された。その結果、ドングリ貯蔵穴の分布域の把握や水田中央部の貝塚が発見され、立地による包含層の時期や性格についてゾーニングが設定された（図 3）。遺跡の中心部である標高 3m ほどの低湿地部（第 6 ～ 14 試掘坑）で縄文時代後期のドングリ貯蔵穴や貝塚、多量の遺物が出土するＡゾーン、これに繋がる標高 3 ～ 7m の低丘陵部（第 18 ～ 25 試掘坑）で縄文時代前期・中期の遺物が出土する B ゾーン、県道より南側の低地部（第 1 ～ 5 試掘坑）で表土直下に溶岩か風化粘質土層が検出される無遺物の C ゾーン、の 3 ゾーンである。

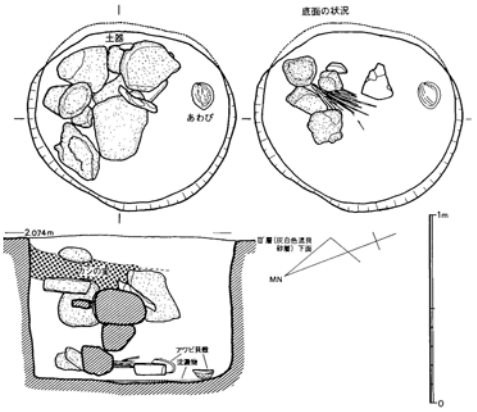


図 4　ドングリ貯蔵穴（村川 1997 第 9 図を一部改変）

（３）熊本大学調査（甲本編 2000・2001）

科学研究費特定領域研究（A）考古学研究班（研究代表者：春成秀爾国立歴史民俗博物館教授（当時））の分担研究として、「環東中国海沿岸地域の文化交流」研究に関し基礎資料を集成することを目的に、熊本大学考古学研究室を中心に平成 10（1998）年から平成 12（2000）年にかけて 3 次にわたる発掘調査が実施された。いずれも小規模なトレンチ調査であるが、緻密な発掘調査によって縄文時代前期・後期の包含層を確認し、貝層の形成や分離過程を復元した。また、水洗選別法による動植物遺存体等の微細遺物の検出に努め、それらの組成から古環境や生業活動を推定するなどの成果をあげている。岩礁性の貝類の多さ等から、縄文時代の中島遺跡は大浜砂丘が形成される以前であった可能性や、イノシシに比べシカの利用が多いことなどが提示された。

２．調査要因

主要地方道路福江富江線（県道 49 号線）改良工事での浜町工区（工事延長 800m）において、工事予定範囲内に埋蔵文化財包蔵地（元享寺遺跡、中島遺跡）が掛かるとのことで平成 27（2015）年度の県内公共工事分布調査の対象に上がり、同年 8 月 7 日に事業課である五島振興局道路課と埋蔵文化財センターの担当者が現地協議を行った。この時点では、同年 12 月に地元住民への工事説明会を開き、年度内に詳細設計、平成 28（2016）年秋に着工という計画であった。

元享寺遺跡は遺跡範囲縁辺部の法面で切土工を行い、遺跡本体である平坦地部分での工事はないため慎重工事での対応となった。中島遺跡に掛かる範囲の工事内容は、遺跡範囲の東側縁辺となる斜面裾部での盛土工で、カルテ事業調査のＢゾーンに該当していた。Ｂゾーンの特徴である縄文時代前・中期の遺物や遺構の存在する可能性が考えられたため、該当範囲の用地買収が完了した後に範囲確認調査を実施することとなった。進捗があったのは翌々年度の 5 月で、平成 31（2019）年度竣工を前提として、記録保存調査となる可能性も踏まえ 7 月に範囲確認調査を実施した。

３．範囲確認調査

（１）調査期間と面積

期間：平成 29（2017）年 7 月 31 日（月）～同年 8 月 1 日（火）

面積：8 ㎡

（２）調査体制

所長	石橋　明
総務課長	田川正明
調査課長	川道　寛
調査課　主任文化財保護主事	松元一浩
調査課　調査員	千原和己

（３）範囲確認調査の概要

① 調査方法

盛土工で被覆される範囲のうち拡幅幅が比較的広く、現代の斜面造成のない地点を選び、2m × 3m と 1m × 2m のトレンチを設定し、作業員約 10 人の人力掘削により調査を行った（図 5）。

② 基本層序

1 層：　灰黄褐色～にぶい黄褐色砂質シルト土（10YR4/2 ～ 4/3）。10cm 長未満の溶岩由来礫を 5%未満含む。現表土・旧耕作土。

2 層：　褐色細砂質シルト土（10YR4/4）。30 ～ 40cm 長の溶岩由来礫を 2 割含む。岩盤風化土が再堆積したものか。土器片の摩滅は弱い。遺物包含層（縄文時代後期、弥生時代中期）。

3 層：　黄褐色礫質土（2.5Y5/4）。溶岩基盤の風化層か。

現況は水田より一段高い狭小な畑面となっているが、表土下は周辺地形のとおり西に下る斜面となっており、既往調査にみる黄褐色風化土層が厚く堆積している（2 層）。基盤である溶岩由来の礫が混じり、下位ほど礫質となる（3 層）。2 層は縄文時代・弥生時代の土器片を含む二次堆積層と考えられる。調査日程の都合でその下層まで掘削できず、既往調査で縄文時代後期の包含層とされる青灰色砂層や基盤の溶岩は確認できなかった。

③ 調査結果

表土下の 2 層で土器片が 26 点出土した。大きさのあるものはないがあまり摩滅していない。15 点が縄文土器で､胎土に滑石粒を含むものが多く後期が主である。石器では緑白色石材製の大珠未成品、磨石も出土している。ほか 11 点は弥生土器でハケ目のある胴部片等がある。遺構は検出できなかったが 2 層は後世の削平等を受けておらず、その下に縄文時代の文化層や遺構の存在する可能性が考えられた。

④ 協議

工事による埋蔵文化財への影響があると判断され、設計変更が不可能な場合は記録保存調査が必要であるとした。調査規模や予算について協議を行った結果、翌々年度に記録保存調査を実施することとなった。

Ⅲ．調査の概要

１．調査期間と面積

期間：　令和元（2019）年 6 月 27 日（木）～同年 9 月 20 日（金）

面積：　671 ㎡

２．調査体制

所長		石橋　明
総務課長		加治直美
調査課長		寺田正剛
調査課	係長	松元一浩
調査課	文化財保護主事	岩佐朋樹

＜調査支援＞　中島遺跡特定埋蔵文化財発掘調査共同企業体（国際文化財株式会社・株式会社三基）

現場代理人	青山宗靖
調査主任	川田秀治
調査員	新平直彦
調査員	梅木信弘

３．発掘調査の流れ

6 月下旬、調査区南側から重機による表土掘削を開始し、順次発掘作業員約 25 人による発掘調査を行った。北側では耕作等による削平のためⅡ層が失われており、表土直下がⅢ層となっている。国土座標に基づき 10m 単位のグリッド（Gr）を設定、Gr1・4・6・8・12 にトレンチを掘削し、土層堆積や遺物包含量、地下水位、ドングリ貯蔵穴の存在可能性等の確認に努めた。7 月下旬から 8 月下旬にかけてⅡ層の掘削調査を行った。調査区幅の広い Gr8・9 で特に多くの遺物が出土した。Ⅱ層下面での空撮・測量を行った後、9 月上旬までⅢ層の掘削調査を行った。Ⅲ層完掘段階での空撮・測量を終え 9 月下旬までに埋め戻しを完了した。

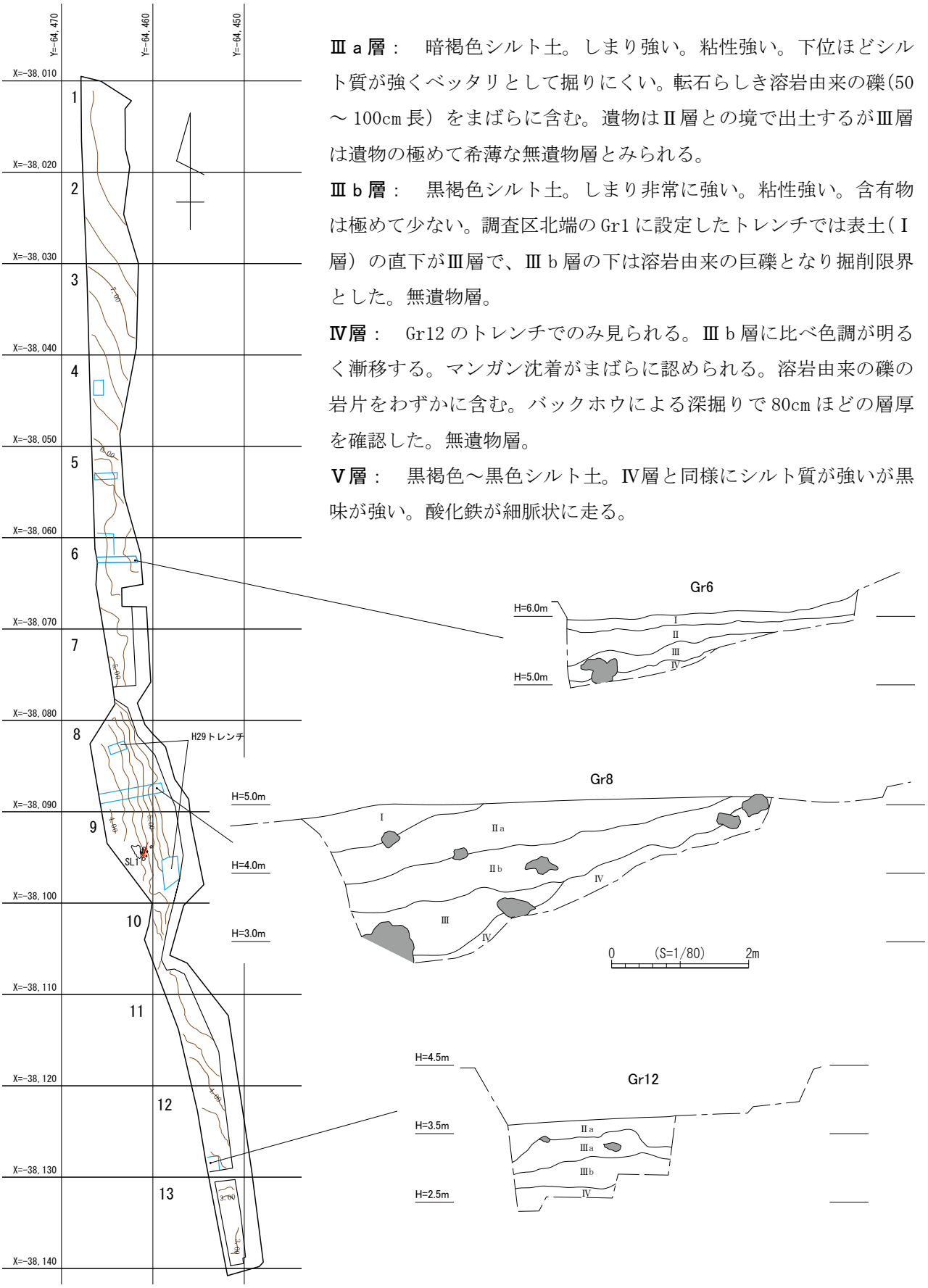
４．層序と地形

（１）基本層序

Ⅰ層:　暗褐色～黒褐色砂質シルト土。しまりやや弱い。粘性弱い。3cm 長以下の小礫を 1 ～ 2 割含む。調査区南半では下層ほど貝殻（ニナ等の巻貝）を含む。Gr10 付近では道路から下るコンクリート貼りスロープの下がⅠ層を含む栗石層となっていた。栗石は溶岩や円礫が主で磨石も少なからず認められた。表土・耕作土。

Ⅱａ層：　暗褐色～黒褐色細砂質シルト土。しまりやや弱い。粘性やや弱い。小礫や溶岩由来の礫・火山弾を含む。遺物包含層（縄文時代後期～古代）。

Ⅱｂ層：　暗褐色細砂質シルト土。しまりやや強い。粘性やや強い。小礫や溶岩由来の礫・火山弾を含む。Ⅱａ層に比べこれら礫や遺物が明らかに多い。遺物包含層（縄文時代後期～古代）。



Ⅲａ層：　暗褐色シルト土。しまり強い。粘性強い。下位ほどシルト質が強くベッタリとして掘りにくい。転石らしき溶岩由来の礫(50～100cm 長）をまばらに含む。遺物はⅡ層との境で出土するがⅢ層は遺物の極めて希薄な無遺物層とみられる。

Ⅲｂ層：　黒褐色シルト土。しまり非常に強い。粘性強い。含有物は極めて少ない。調査区北端の Gr1 に設定したトレンチでは表土（Ⅰ層）の直下がⅢ層で、Ⅲｂ層の下は溶岩由来の巨礫となり掘削限界とした。無遺物層。

Ⅳ層：　Gr12 のトレンチでのみ見られる。Ⅲｂ層に比べ色調が明るく漸移する。マンガン沈着がまばらに認められる。溶岩由来の礫の岩片をわずかに含む。バックホウによる深掘りで 80cm ほどの層厚を確認した。無遺物層。

Ⅴ層：　黒褐色～黒色シルト土。Ⅳ層と同様にシルト質が強いが黒味が強い。酸化鉄が細脈状に走る。

図５　調査区全体図（S=1/600）及び土層断面図（S=1/80）　　コンタラインはⅡ層下面

（２）旧地形の推定

中島遺跡の範囲東辺にあたる調査区は、鬼岳の山裾から広がる溶岩台地の縁辺に位置し、台地の際を下った斜面裾部に立地する（図 6）。この溶岩台地は、鬼岳の山裾から約 2 ～ 3km ほぼ平坦に広がり、海岸付近で 30 ｍほど急激に下って海に没する。調査区の基盤は台地末端の溶岩であり、溶岩の風化層・二次堆積層が縄文時代以降の遺物包含層となっている。

調査区より標高で 1.5m ほど下方が既往調査でドングリ貯蔵穴が検出された低湿地である（写真 5）。この低湿地から斜面裾部を少し登った部分が今回調査区の立地となる。既往調査では台地落ち際の裾部に湧水点のあることが指摘されている（村川・正林 1987 ほか）。また調査区南端にある熊野神社の入り口付近には湧水を溜め洗い場として利用した施設が見受けられる。

既往調査の基本層序との共通点は、基盤層である溶岩の上に風化粘土層が発達する点だが、相違点として風化粘土層の上で複数確認されている砂層が見られない点や、縄文時代後期の生活面に相当するⅢ層（＝茶色粘土層）が湧水浸水標高より高い点が挙げられる。1997 年調査でのＢゾーンに相当し、Ａゾーンの低湿地部に接続する緩やかな斜面地であったと推定できる。

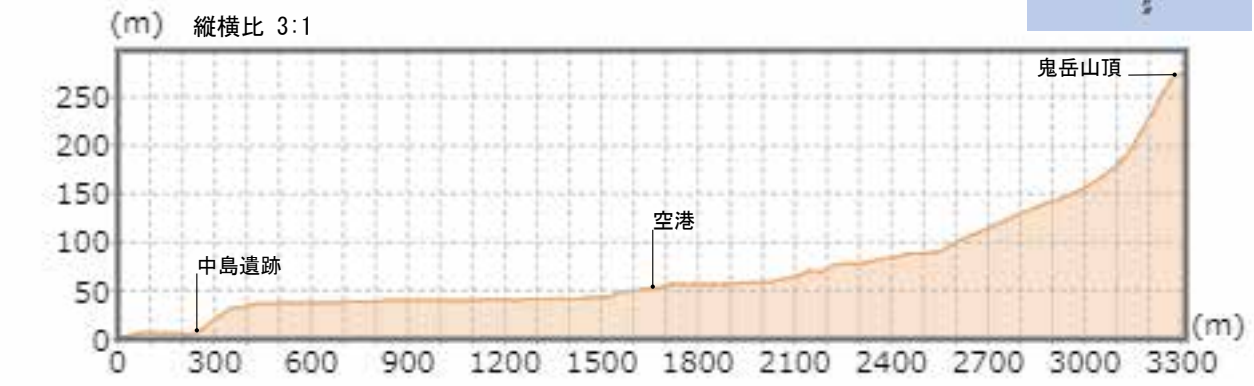


図 6　地形断面図（国土地理院ウェブサイトの傾斜量図タイル・断面図ツールを使用し加工して作成）

５．本調査の概要

（１）遺構

Gr9 のⅢ層上面で炉跡 1 基（SL1）が検出された。SL1 は平面円形・直径約 30cm の焼土集中部を有し、そこから楕円状の範囲に焼土・炭化物がまばらに分布する。その他、焼土・炭化物の分布範囲を Gr5･Gr12 の 2 箇所で検出した。明確な被熱面等は確認できないが、撹乱を受けた炉跡等の遺構であった可能性は残る。炭化物の AMS 年代測定結果から、SL1 が縄文時代晩期（紀元前 9 世紀末～紀元前 8 世紀中頃）の、Gr5 の焼土分布（SL2）が古代（10 世紀後半～ 11 世紀前半）の所産と推定される。

（２）遺物

中深型のコンテナケースで 15 箱の遺物が出土した。内訳は土器･陶磁器が 7 箱、石器が 8 箱である。

遺物包含層のⅡ層で出土した土器では、縄文時代後期前葉（阿高式系）を主として、後期中葉（北久根山式や市来式等）から後期後葉（太郎迫式・鳥井原式）、晩期（黒川式）にかけての縄文時代土

器が量的に最多で 8 割強を占める。石器はほぼ縄文時代のものである。

ついで弥生時代中期の土器片が多く約 1 割、古墳時代から古代の須恵器が少量、中世の貿易陶磁等が極少量で 1 割に満たない。須恵器では壺甕片のほか完形のハソウ体部や坏蓋ツマミ部等がある。層位的にはⅡ層の上部・下部にわたり古墳時代～古代の須恵器片が混じっており、各時代の文化層として分離できる状況にはなかった。

特筆すべきものでは、範囲確認調査で出土した大珠未成品や本調査で出土した古墳時代後期の須恵器ハソウ等が挙げられる。

6．現地説明会・発掘体験

発掘調査中の 8 月 25 日（日）の午後に調査成果を公開するための現地説明会を開催し、不安定な天候のなか約 50 名の参加者があった。現場事務所のプレハブ内で遺跡の説明や出土品の展示・解説、パネル展示を行い、多数の質問があがるなど興味・関心の高さが覗えた。このほか雨天の様子を見ながら調査区内で発掘体験を行い、大人から子どもまで土器片を見付けては歓声を上げ楽しむ様子があった。

写真 9　出土遺物の展示・解説

写真 10　発掘体験の様子

7．整理作業・報告書作成

出土遺物の一部は発掘調査と並行して水洗を行った。現地での発掘調査を終え、同年 11 月から翌年にかけて、埋蔵文化財センターにおいて報告書作成に向けた整理作業を実施した。遺物の整理は、水洗、接合、ID 番号付与、実測、デジタルトレースの流れで行った。石器実測の一部は業務委託した。金属製品の保存処理は、透過エックス線撮影後にメスを用いて錆取りを行いベンゾトリアゾール溶液に数秒浸した。処理完了後はチャック袋に収納しデシケータ内で保管している。また、炉跡や焼土・炭化物分布でサンプリングした炭化物について、遺構の年代を推定するため放射性炭素年代測定を業務委託した（第Ⅷ章）。出土した黒曜石製石器について、センターの蛍光 X 線分析器を用いた産地推定を実施した（第Ⅷ章）。

Ⅳ. 縄文時代の遺構と遺物

１．遺構

（１）炉跡（ＳＬ）（図 7）

調査区中ほどの Gr9 のⅢ層上面で炉跡 1 基が検出された（SL1）。はじめ焼土・炭化物の分布を確認し精査したところ、平面円形を呈する直径 30cm ほどの焼土集中部と、そこから楕円形状の範囲に焼土・炭化物がまばらに分布する状況が認められた。被熱痕跡が明瞭で炉跡と考えられる。周辺は緩斜面となっており大小の溶岩が露出している。SL1 はこの岩の隙間に位置しており、岩を風除けとして利用されたとも見て取れる。SL1 内部での出土遺物はないが、検出された炭化物のうち 1 点について放射性炭素年代測定を行ったところ、2560 ± 30yrBP（2 σ の暦年代で 805 calBC ～ 750 calBC、684 calBC ～ 667 calBC、637 calBC ～ 621 calBC、616 calBC ～ 590 calBC、576 calBC ～ 571 calBC）の年代値で、縄文時代晩期に相当する（分析は第Ⅶ章）。

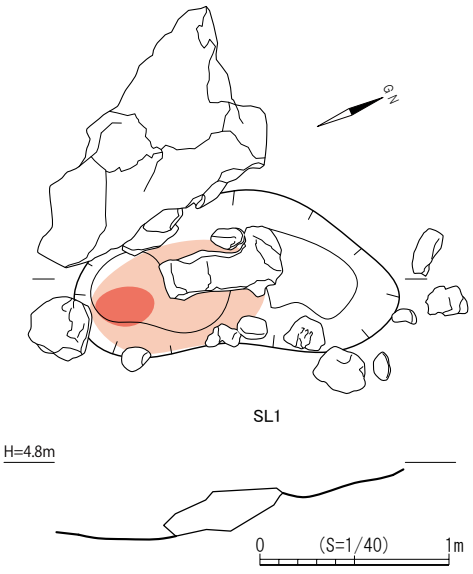


図 7　SL1 実測図（S=1/40）

２．遺物

（１）土器（図 8 ～ 12、表 2 ～ 4）

① 前期・中期

前期に属する土器は極少数で 1 の曽畑式口縁部片のみである。2 の口縁部はあまり類例を見ない形態で器種は不明であるが滑石を多量に含む。3 は横凹線文が施され端部は鉤状を呈する。

② 後期前葉

今回の調査で最も出土量が多い。広義の阿高系の一型式である坂の下式に相当するものが主体で、次いで南福寺式（47、48 など）や出水式（50 ～ 60）に相当するものが一定量出土している。口縁部小片がほとんどで胴部までつながるものがなく厳密な型式分類が難しいため、口縁部文様帯で大まかに分類し、凹点文・縦凹線文、横凹線文、斜凹線文の順で掲載する。また底部は鯨底が多数出土しているが各期を一括して掲載する。

③ 後期中葉、後期後葉

出土量的には少ない。62 は鐘崎式に相当すると考えられるもので、貝殻腹縁刺突文を地文とし沈線による渦文を施す。64 は口縁部内外に貝殻条痕を施し口唇部にW字状の粘土紐を貼り付ける。65・66 は太郎迫式の鉢で口縁部文様帯に 2 条の沈線を施す。

④ 晩期

晩期の粗製土器片が一定量出土している。75 の浅鉢口縁部形態やリボン状突起を有する 76 などから黒川式期が主体と考えられる。

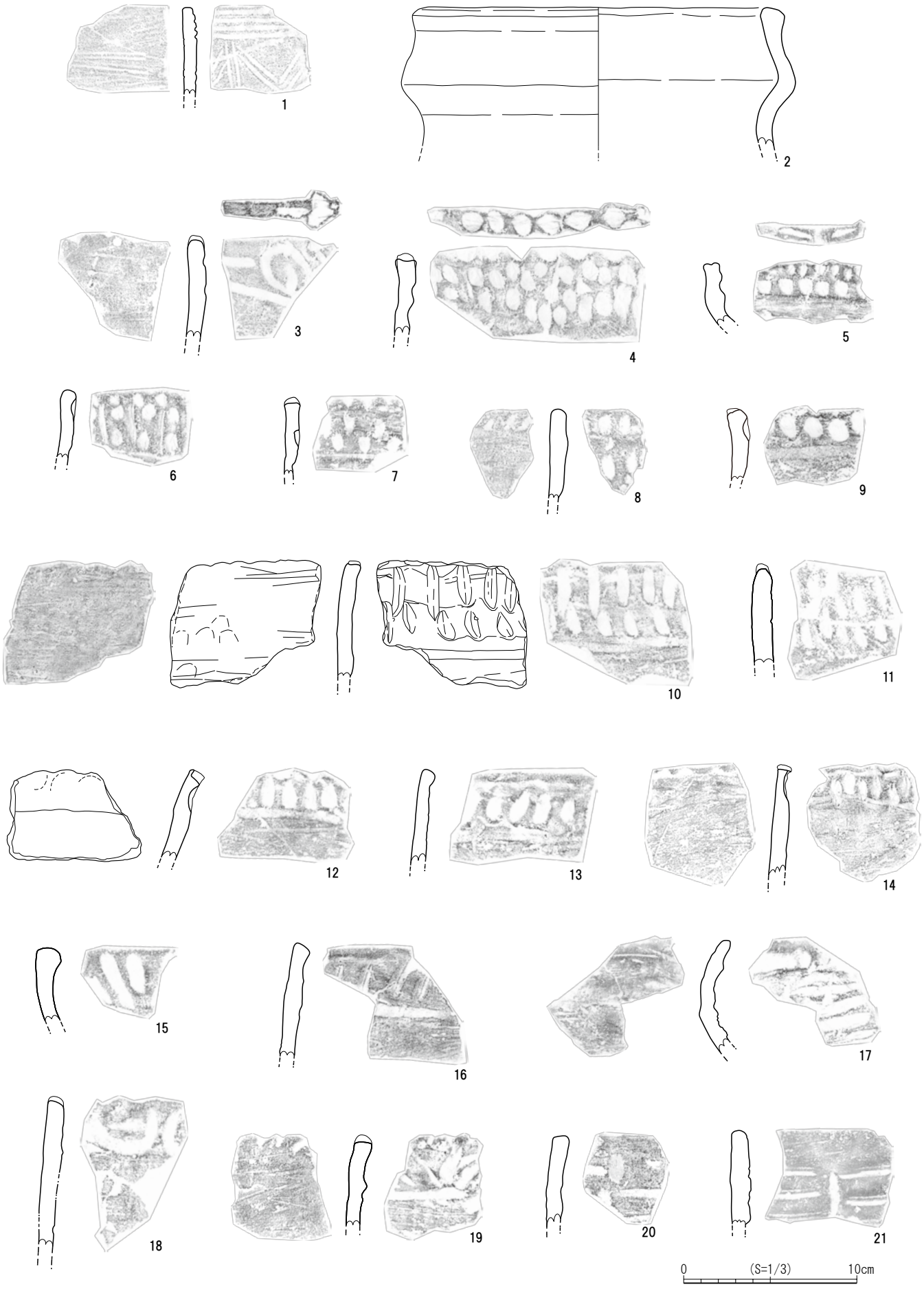


図 8　遺物実測図［縄文時代］(S=1/3)

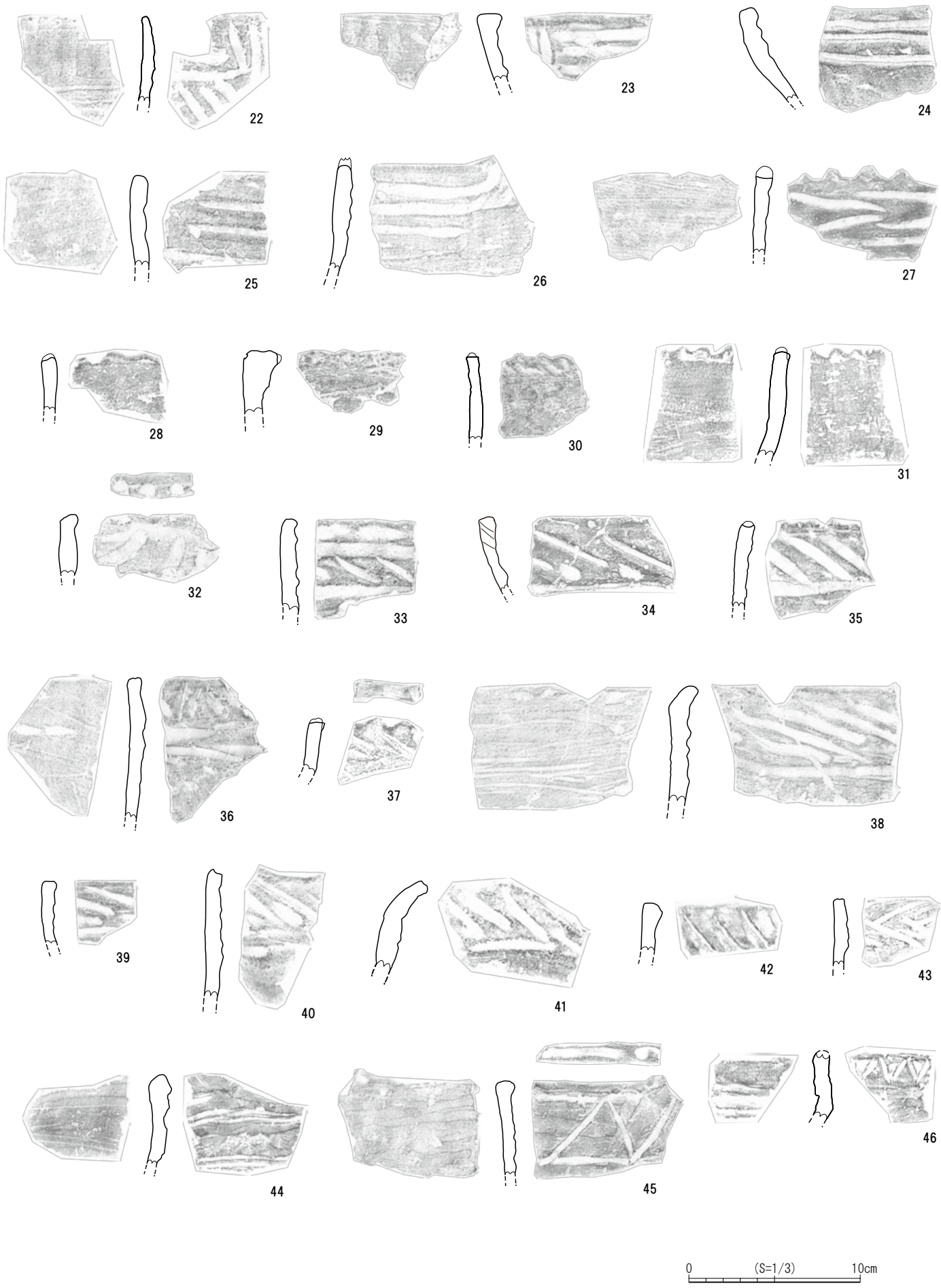


図 9　遺物実測図［縄文時代］(S=1/3)

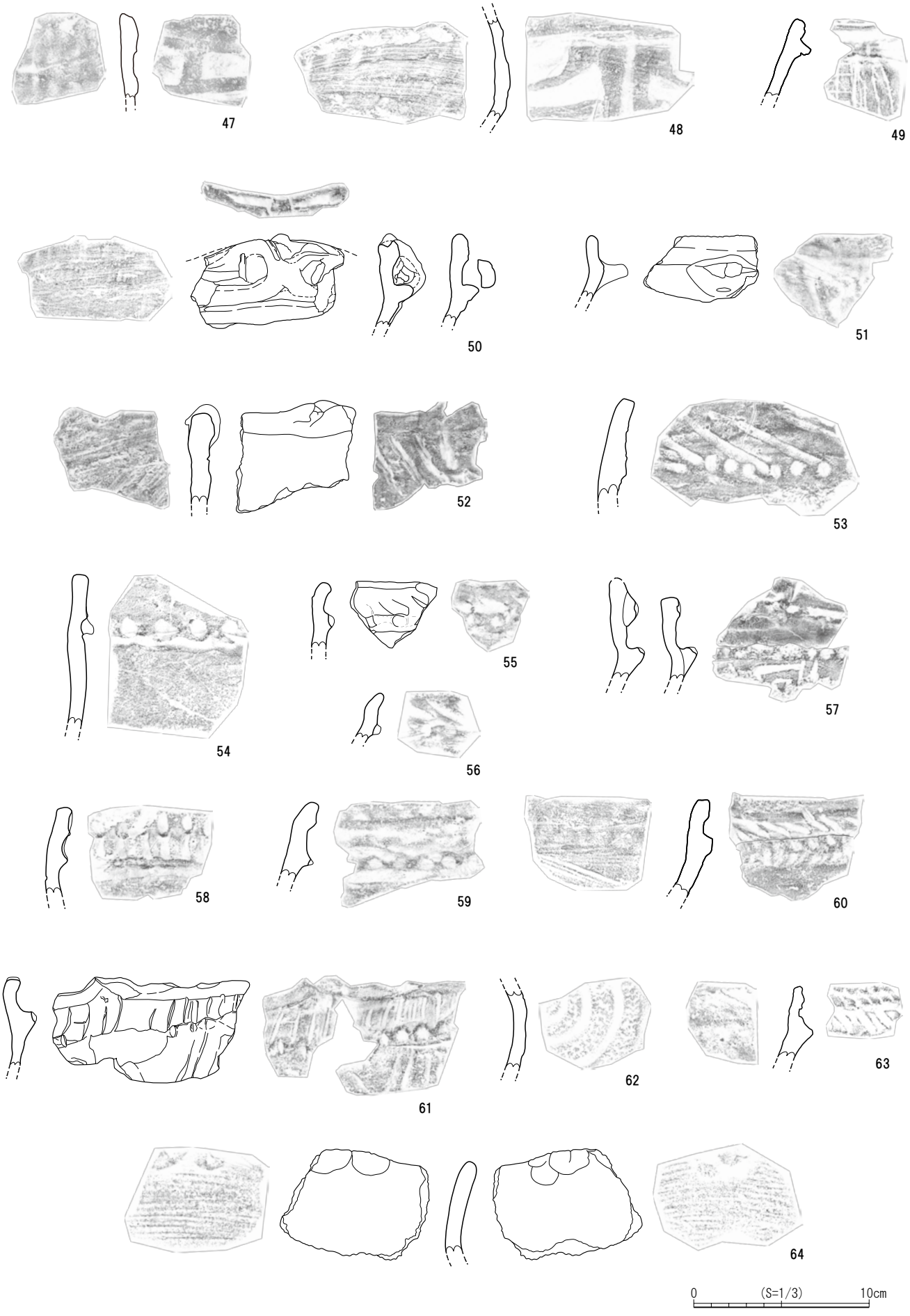


図 10　遺物実測図［縄文時代］(S=1/3)

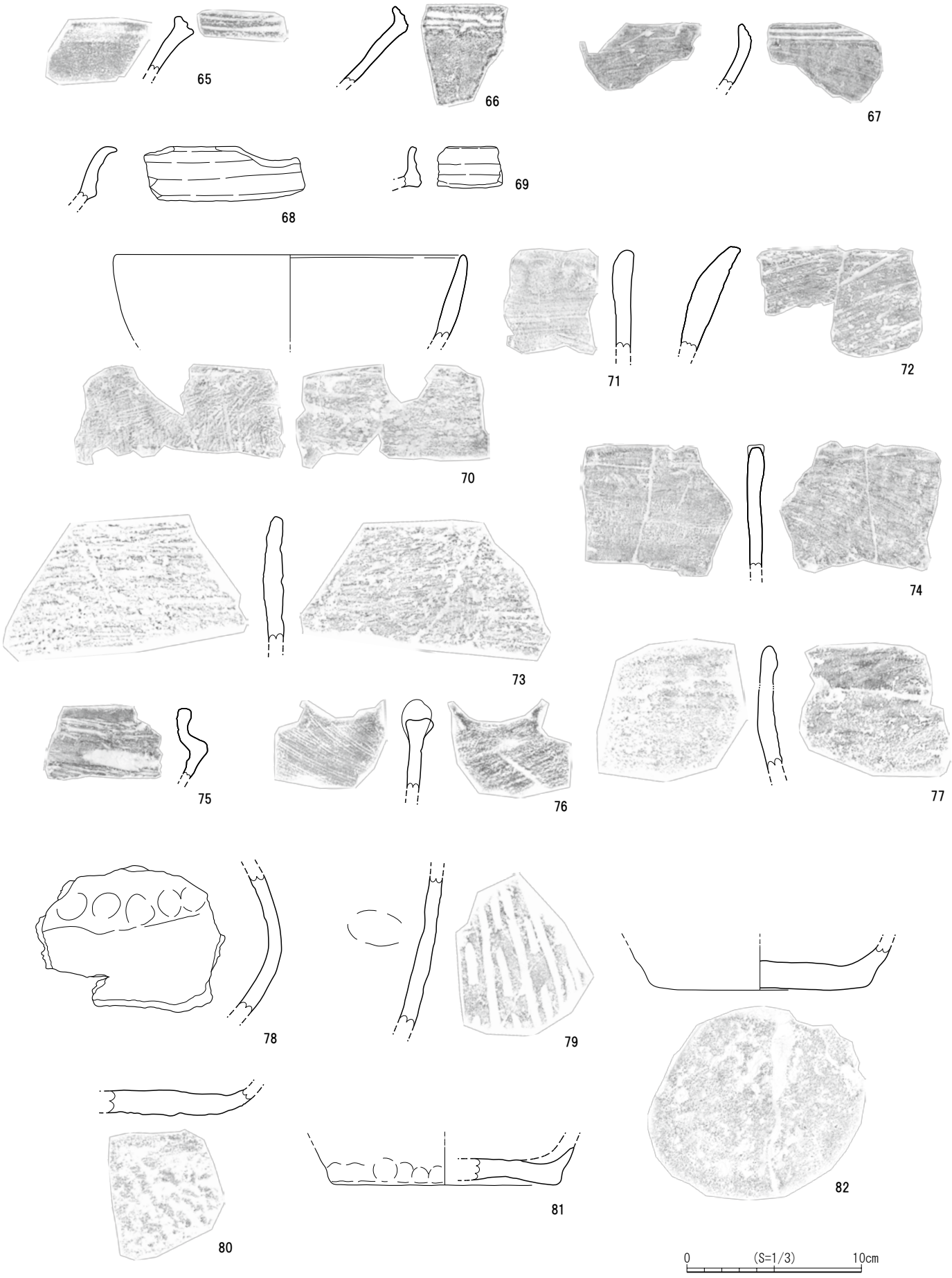


図 11　遺物実測図［縄文時代］(S=1/3)

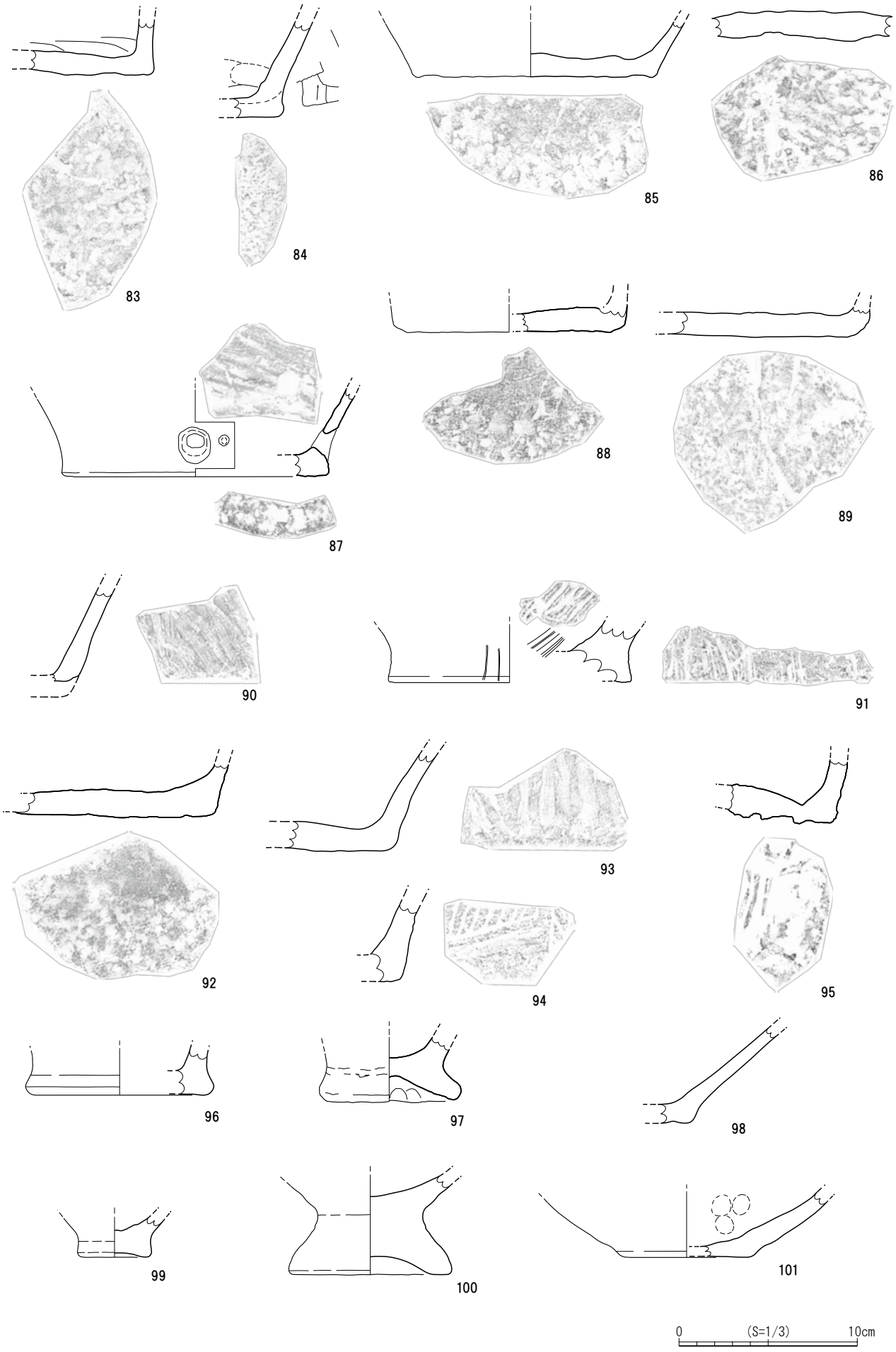


図 12　遺物実測図［縄文時代］(S=1/3)

（２）石器（図 13 ～ 22、表 6・7）

Gr8 を中心に多くの石器が出土した。敲石・磨石・台石の堅果類加工石器や石斧、それらの準備礫が多数を占める。そのほか打ち欠き石錘や礫器スクレイパー、剥片鏃、石核等も少量出土した。

① 敲石・磨石・台石

102 ～ 118 は敲石、119 ～ 127 は磨石で、両方の機能を有した磨敲石も含まれる。128 ～ 140 は台石である。石材では敲石に安山岩等のやや硬質の石材が用いられ、磨石・台石では砂岩が主である。

敲石では全体形状や敲打痕のある部位でいくつかのタイプが認められる。102 や 108 等は、縦に長い円礫の端部あるいは両極に敲打痕が認められる。顕著なものは円礫の側縁全てに敲打痕が形成されている。敲打痕は側縁だけでなく円礫の扁平な面に認められるものもある（107・113・121）。169 ～ 171 は石斧に近い細長の形状で、堅果類加工とは別の使用または併用された可能性がある。

敲石にはいびつな形状の円礫が用いられるのに対し、磨石は扁平で整った円礫を素材としている。磨り痕の程度はまちまちで、122 や 123 等のように両面が顕著に磨り減り扁平化するものがある一方で磨り痕の弱いものも少なくなかった。

台石は磨り痕が顕著で皿状に窪むもの(135･137 等)が認められる。また磨り方向が一定のもの(131･134 等）も見受けられる。サイズ的に大きなものは少なく長さ 15cm 前後が多い。131・135 等は窪み形状から見て割れた後も使用されたと考えられる。

これら石器のなかで被熱によるとみられる赤化痕やコゲ痕の認められるものが少数あった（121・134 等)。堅果類加工において火や熱の使用をうかがわせる。

② 石斧

刃部付近のみ研磨痕のある石斧が主で一定程度の厚みを有する（158・159 等)。既往調査では堅果類採取における枝打ち等の使用方法が想定されているが再検討の余地はあろう（村川 1987)。164・165 の全面研磨のものは蛇紋岩製で小振りの鑿形を呈するタイプで、工具としての機能が考えられる。

③ 礫器

147 ～ 149 ははやや大型の礫器で厚み・重量ともに石斧を超える。円礫の一側縁に簡単な剥離を施し刃部とするもので、敲打して切る・潰す等の使用方法が想定される。

④ 石錘

141 ～ 144 は石錘で扁平な円礫の側縁 2 か所を打ち欠くか敲打により潰して紐掛かりとしている。結晶片岩製の 145・146 は、阿高系土器等の混和材である滑石とともに素材または製品として搬入されたと考えられ興味深い。漁網錘等の使用方法が想定され、キラキラと光る石質に機能性が見い出されたと考えられる。

⑤ 掻器、石錐、二次加工剥片

174 は中島遺跡に特有の石器とされたもので（村川 1987・川道 1997)、円礫の表皮を剥出し先端部や側縁に簡便な加工を施し刃部とする。磨石・敲石のなかで使用中に片面が剥落したようなものが見受けられており、そうした剥片を利用したとも考えられる。172 は短角状石器で下端を尖らせており石錐としての機能が考えられる。176 は使用痕ある剥片で鈴桶技法による縦長剥片を素材としている。

⑥ 石鏃

178・181 は腰岳系黒曜石製の剥片鏃である。178 は再加工によるものか先端を尖らせている。

⑦ 大珠未成品

150 は大珠の未成品と考えられるもので翡翠に似た緑白色を呈する不明石材である。全面研磨が施されているが複数の研磨面は未だ丸みに乏しく穿孔も施されていない。

図 13　遺物実測図［縄文時代］(S=1/3)

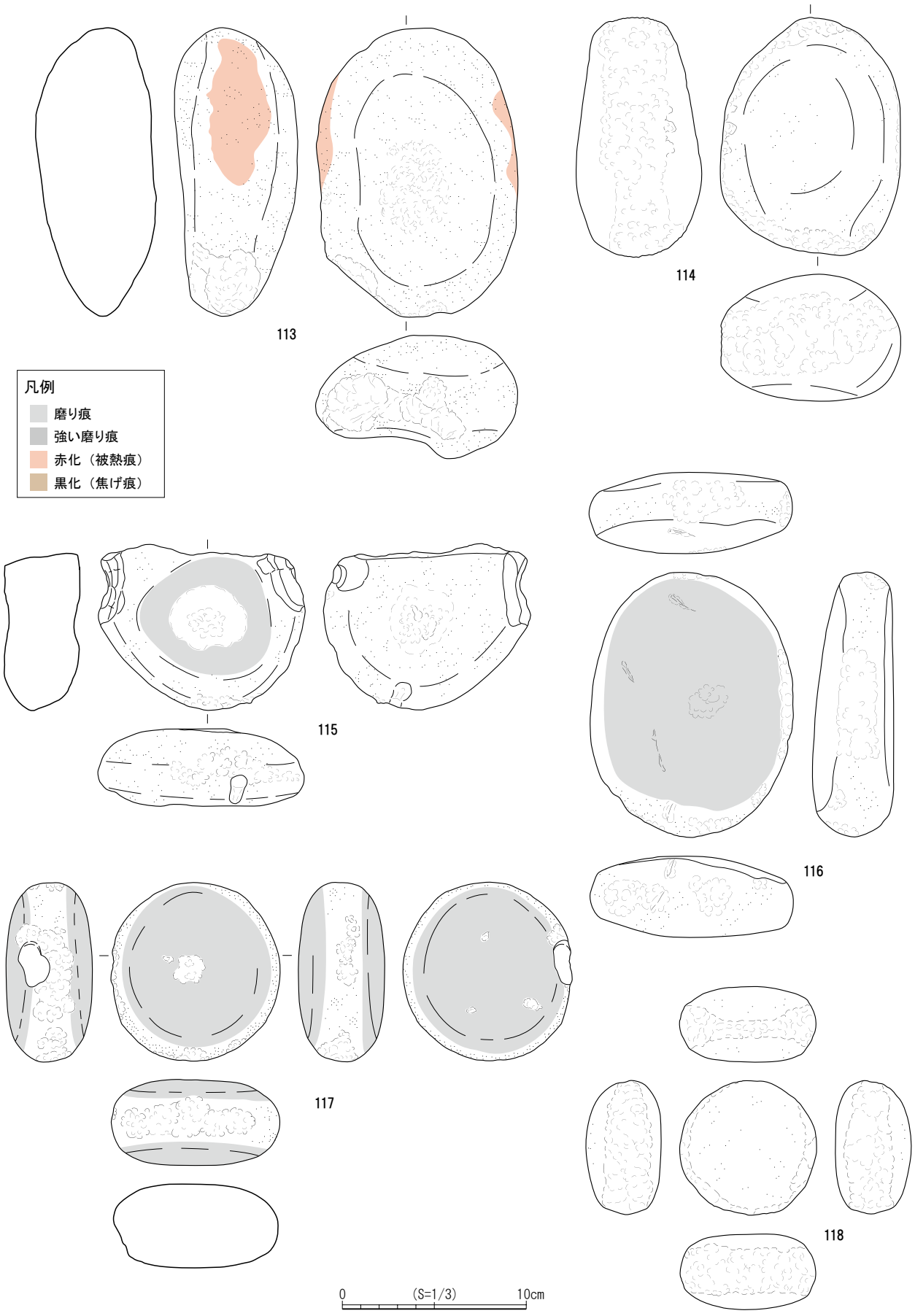


図 14　遺物実測図［縄文時代］(S=1/3)

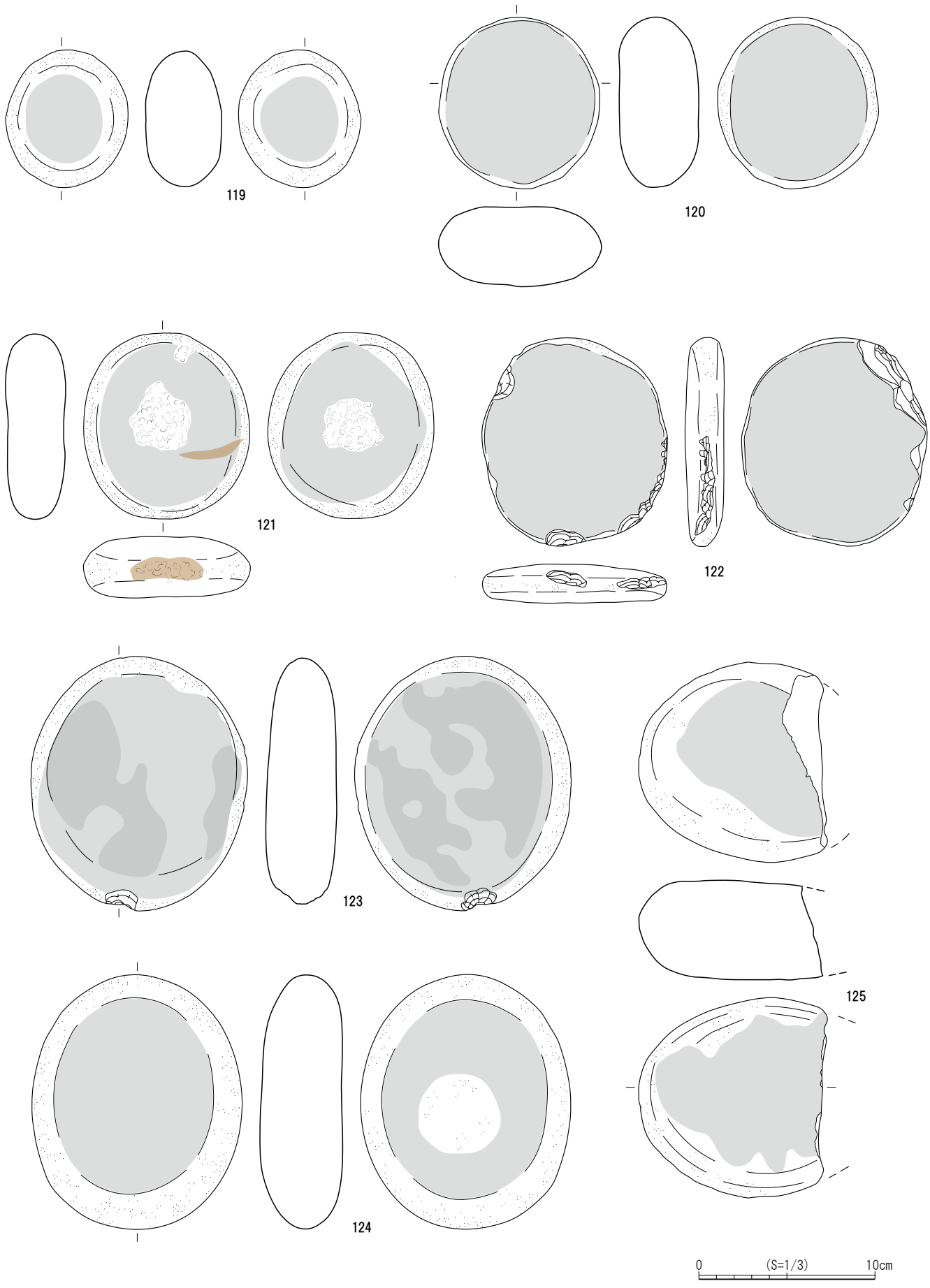


図 15　遺物実測図［縄文時代］(S=1/3)

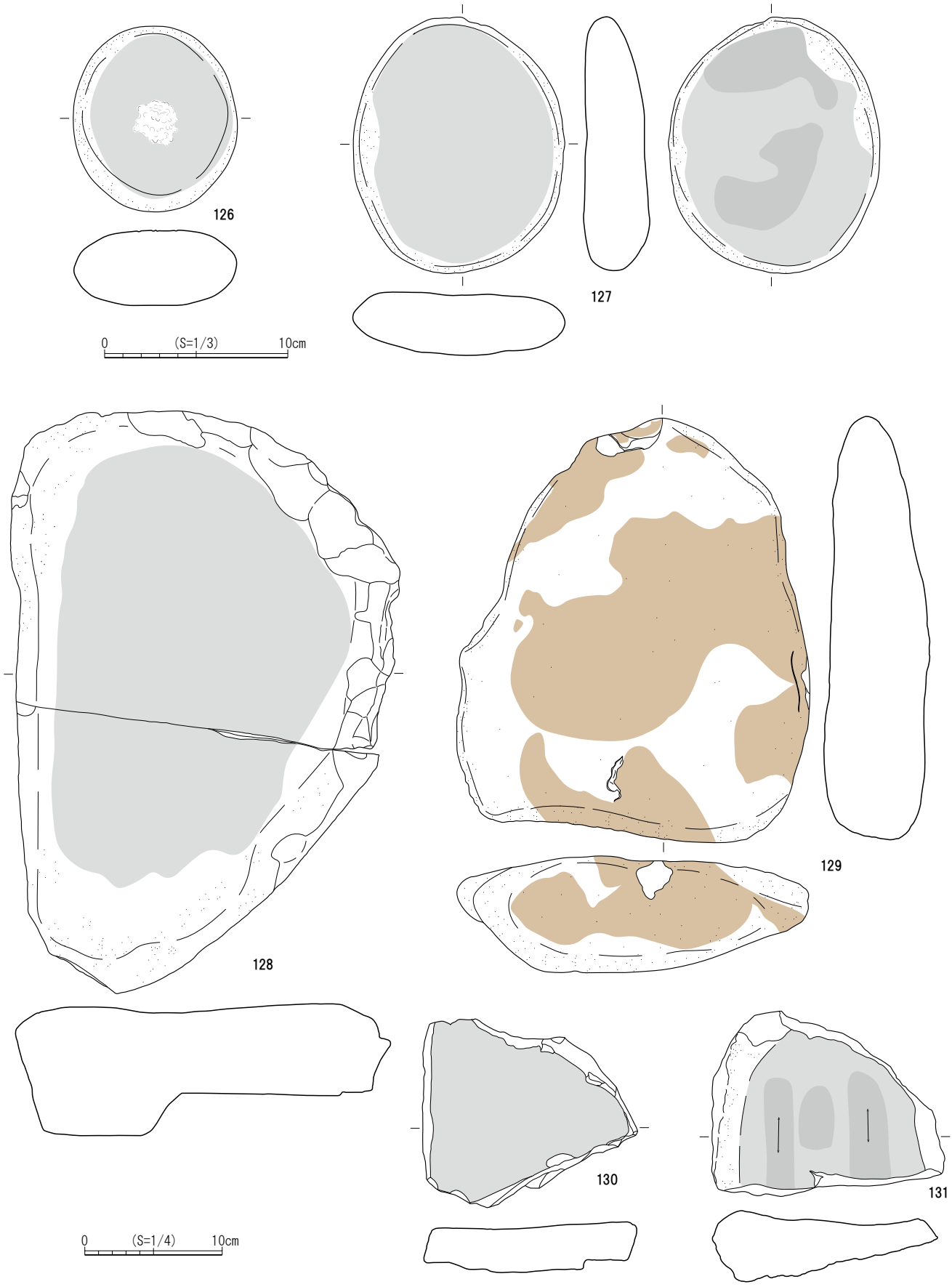


図 16　遺物実測図［縄文時代］(S=1/3、1/4))　　1/3（126・127）、1/4（128 ～ 131）

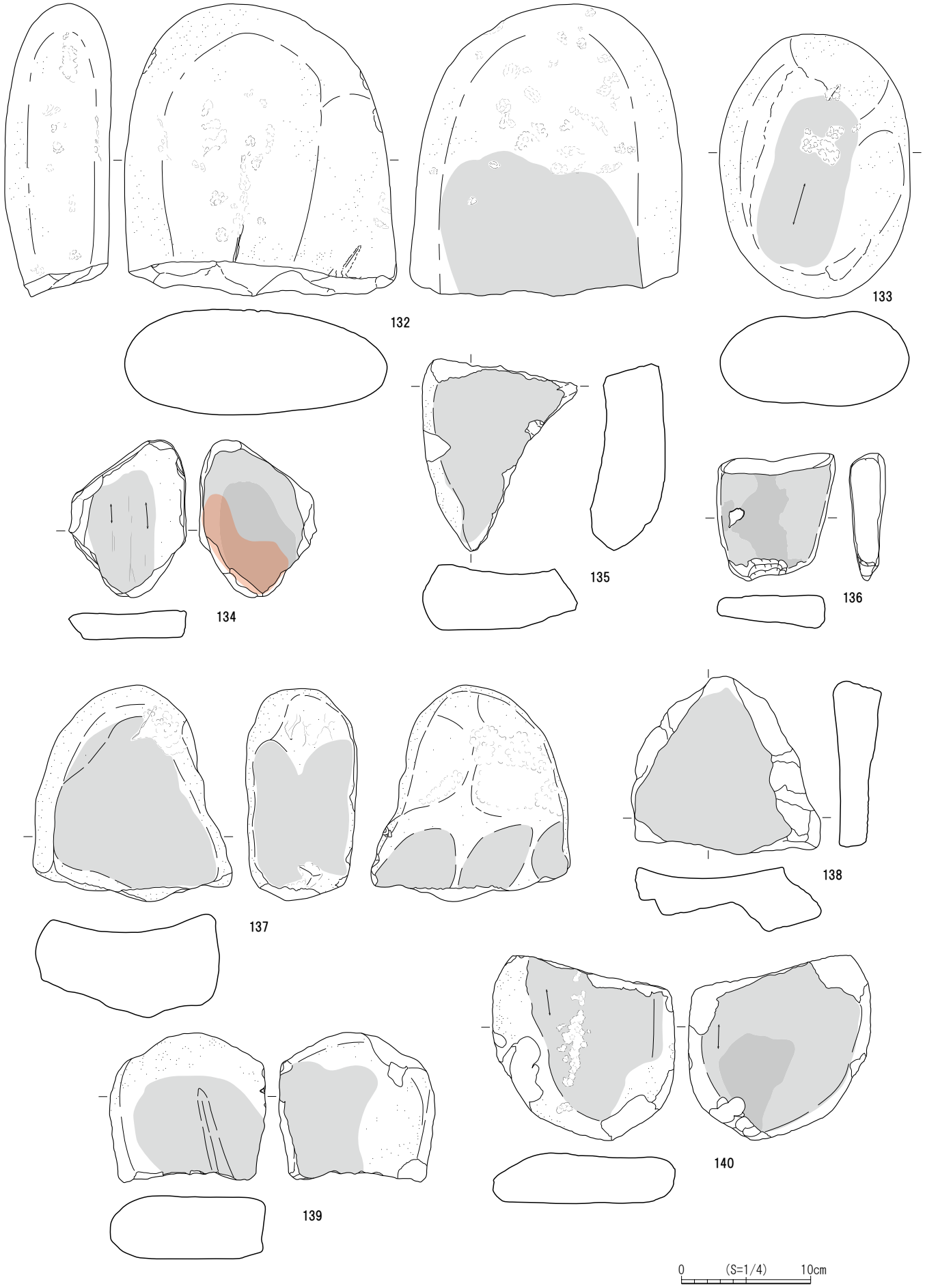


図 17　遺物実測図［縄文時代］(S=1/4)

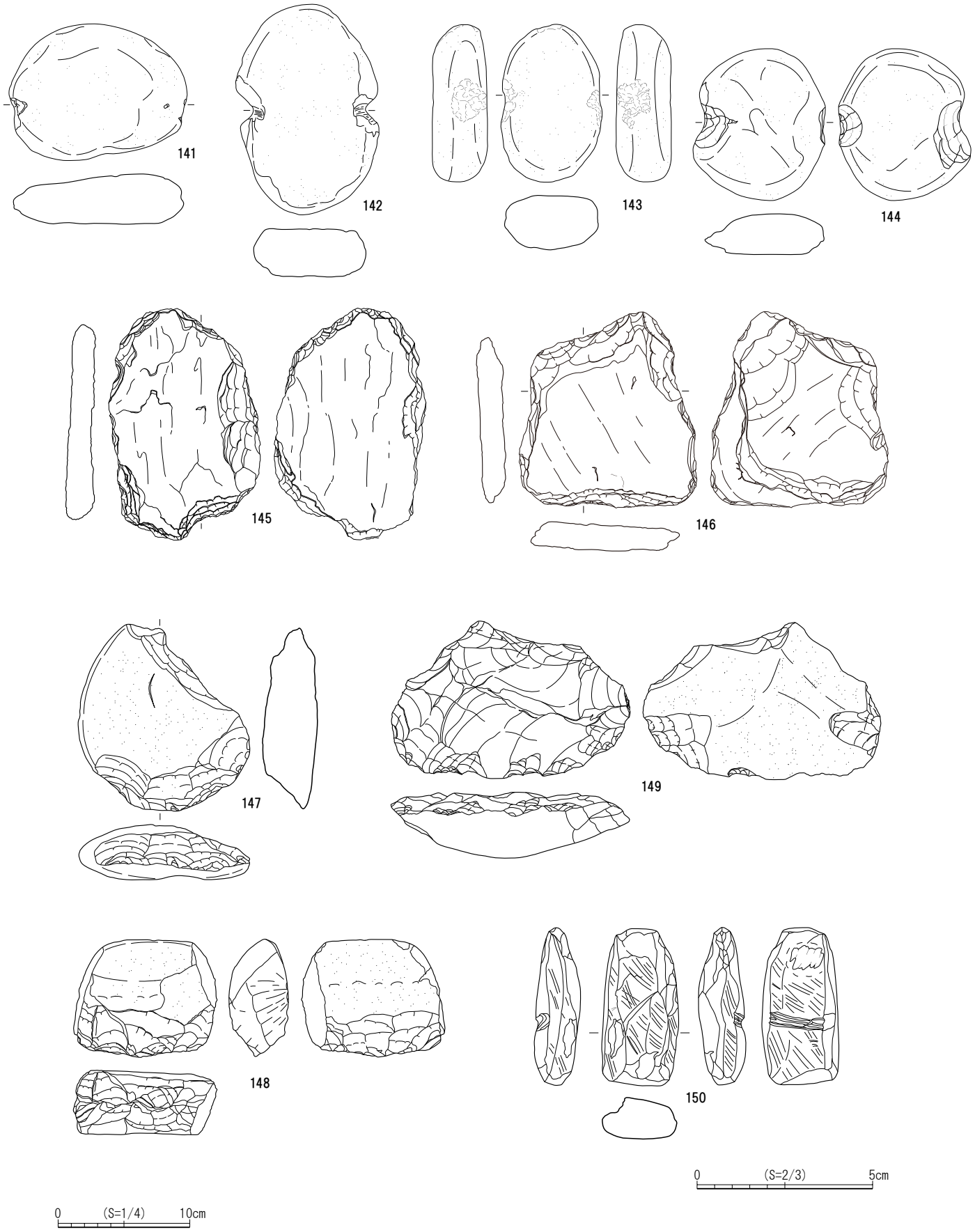


図 18　遺物実測図［縄文時代］(S=1/4、2/3)　　150 のみ 2/3

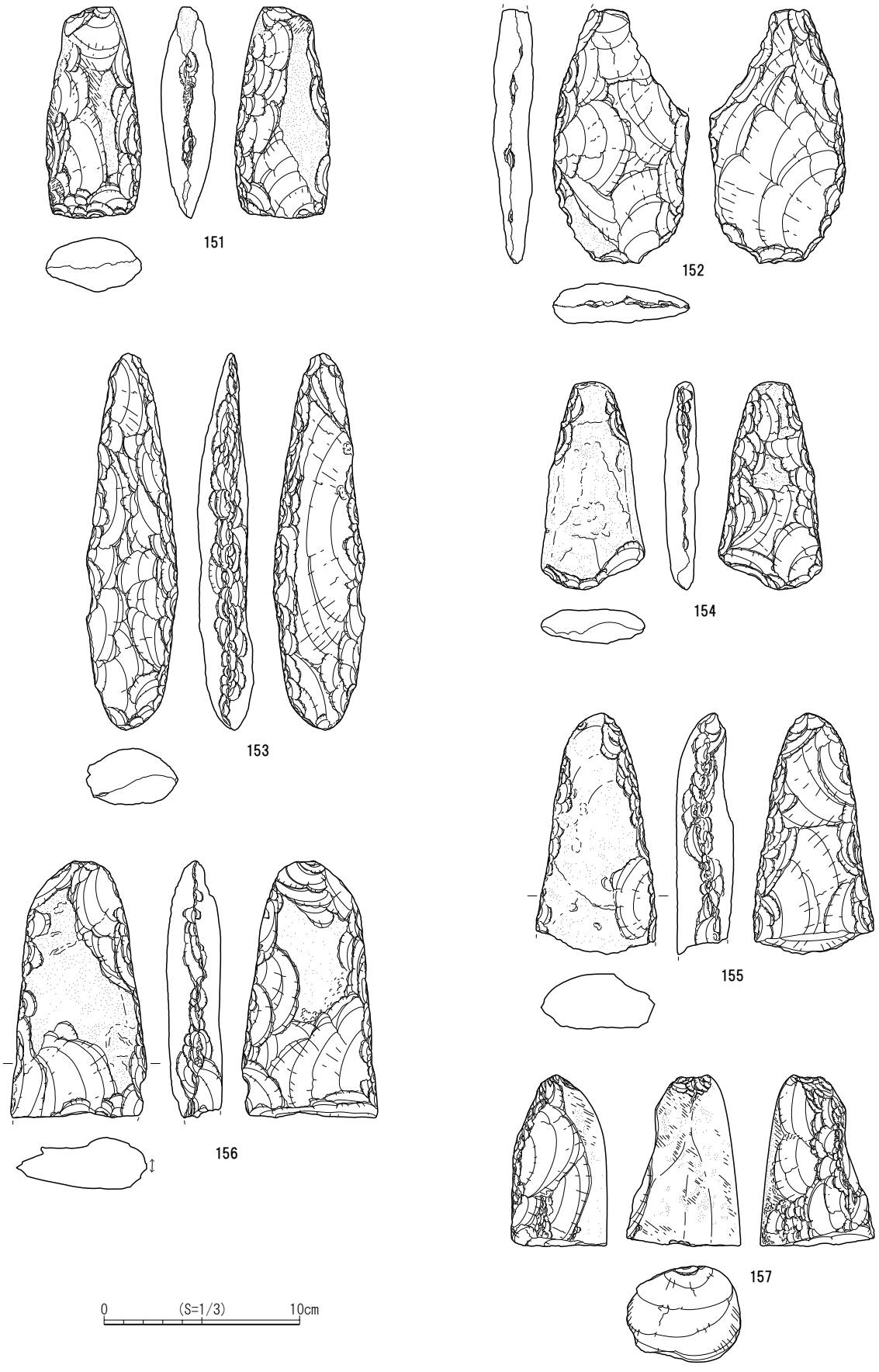


図 19　遺物実測図［ 縄文時代 ］(S=1/3)

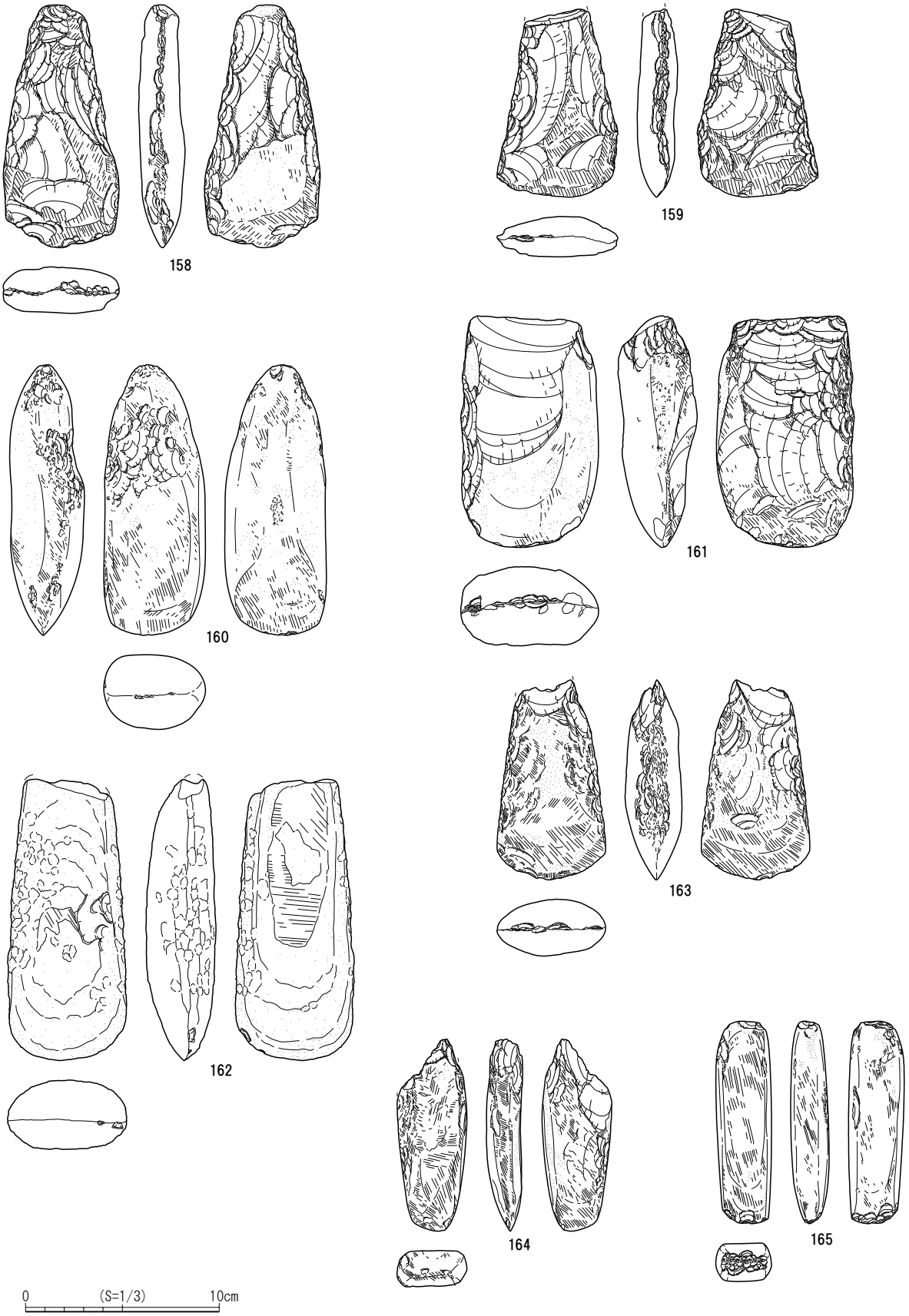


図 20　遺物実測図［縄文時代］(S=1/3)

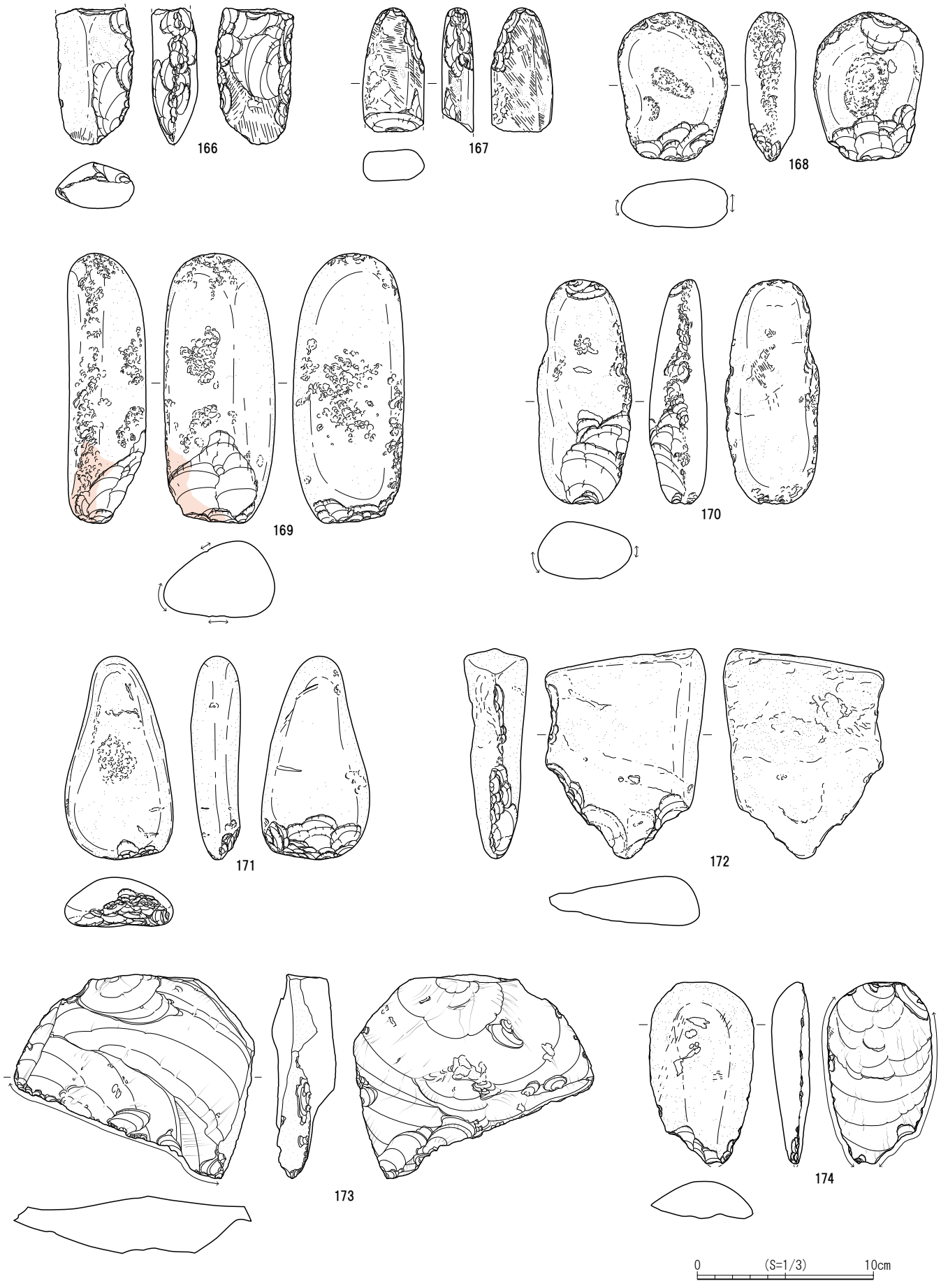


図 21　遺物実測図［縄文時代］(S=1/3)

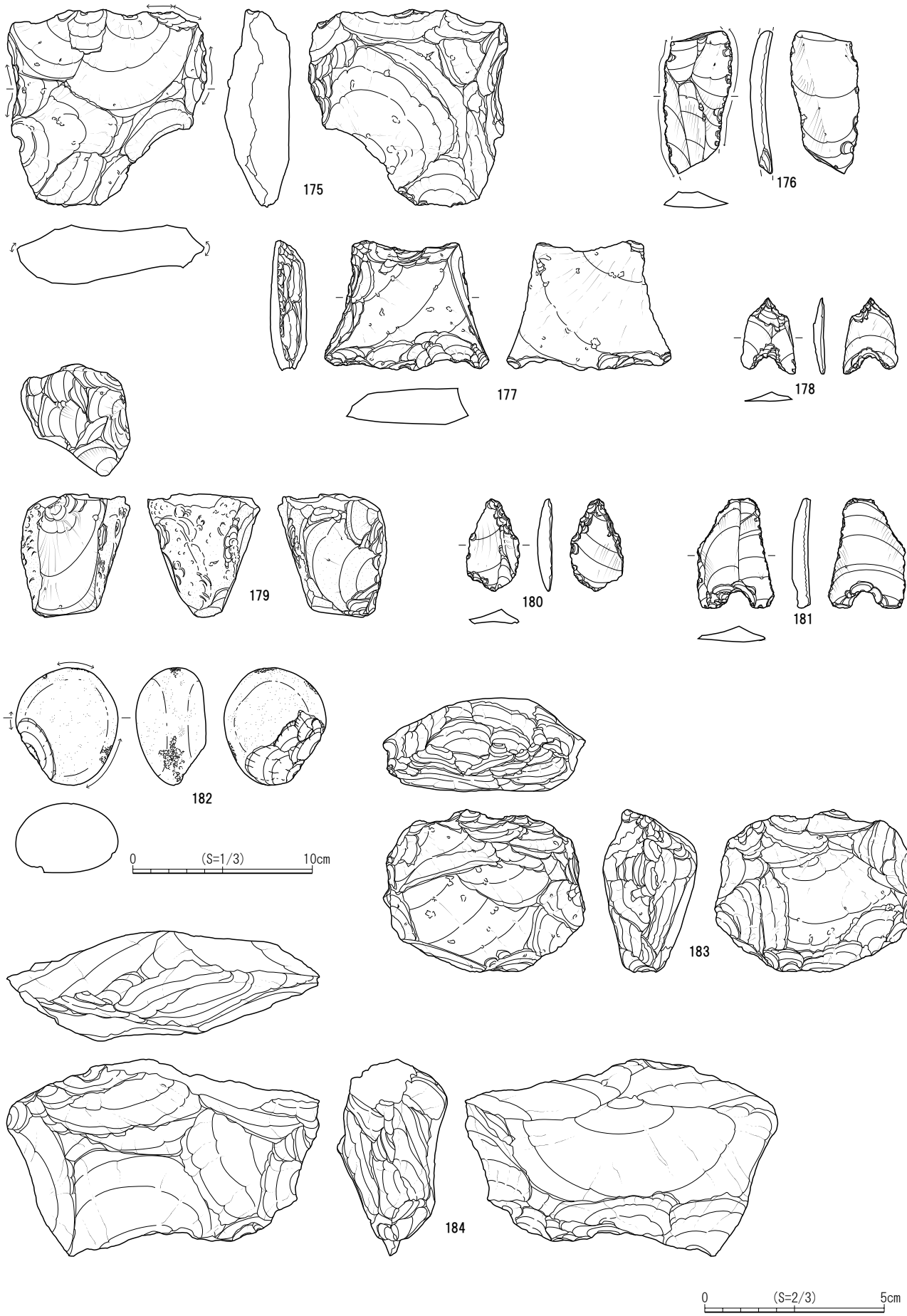


図 22　遺物実測図［縄文時代］(S=2/3、1/3)　　182 のみ 1/3

Ⅴ．弥生時代の遺物

１．遺物

（１）土器（図 23・24、表 4）

弥生時代の土器片が一定量出土しており、ほとんどがⅡｂ層での出土である。中期の須玖Ⅰ式及び後期前葉の高三潴式に相当する。

① 中期

185・186 は須玖Ⅰ式の甕で鋤先形口縁はあまり長く伸びない。188 は広口壺口縁で内外面に赤彩が施される。口縁端部内面はミガキ状のナデでやや光沢がある。187 は高坏の脚部で風化が著しいが、坏部と脚部の境には突帯を意識したような盛り上がりが認められる。

② 後期

190 ～ 195 の甕は小型・中型の二種が認められる。口縁部形態にもくの字に折れ曲がる角度に二種が認められるが、口唇端部はいずれも面取りされる。196 は壺の口縁部か。内外面に赤彩を残す。197・198 は二重口縁壺の口縁部片である。一次・二次口縁の境は角をなすが稜は甘くやや丸みを帯びる。200 ～ 203 は甕・壺の底部である。いずれも平底であり中・後期のものである。

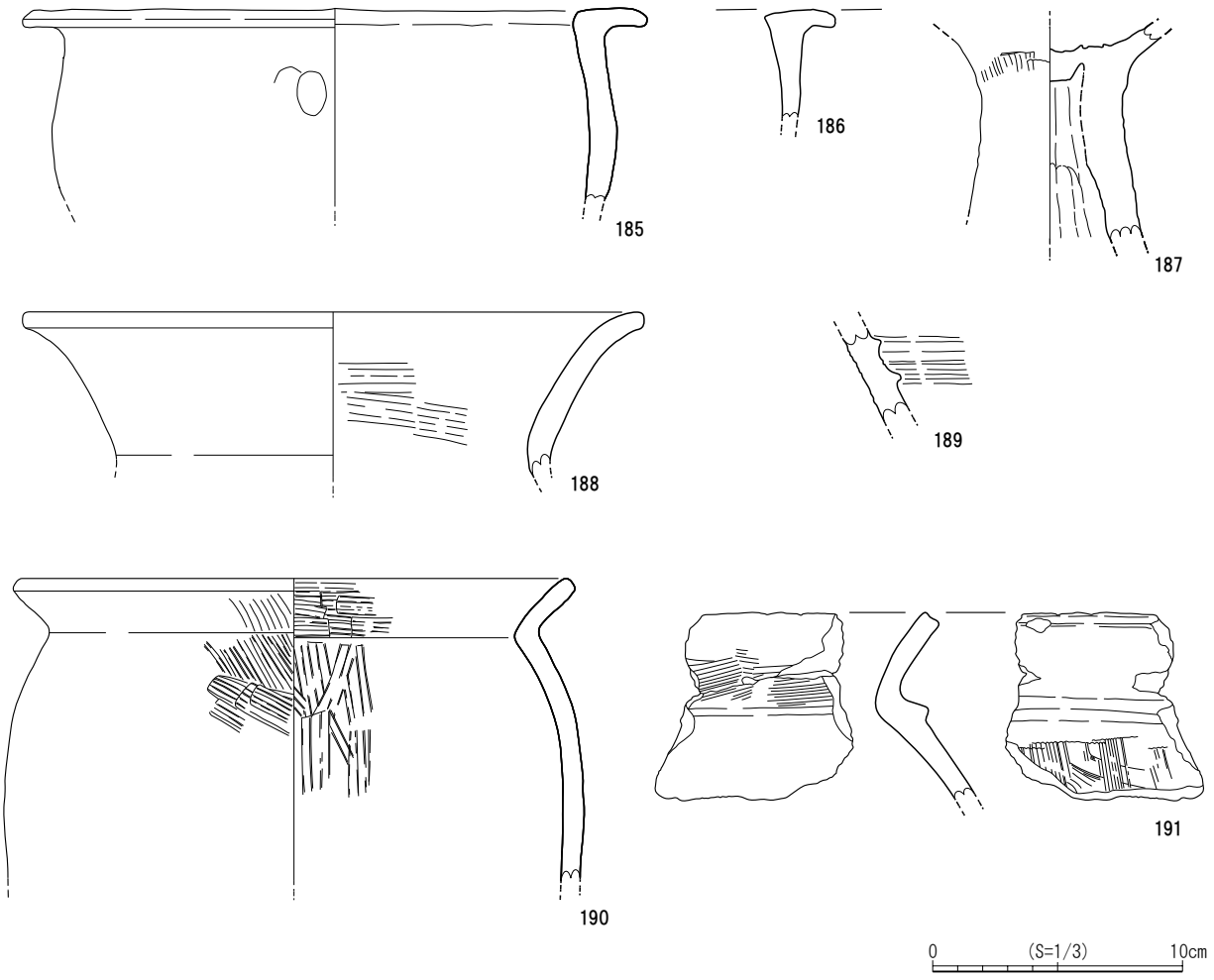


図 23　遺物実測図［弥生時代］(S=1/3)

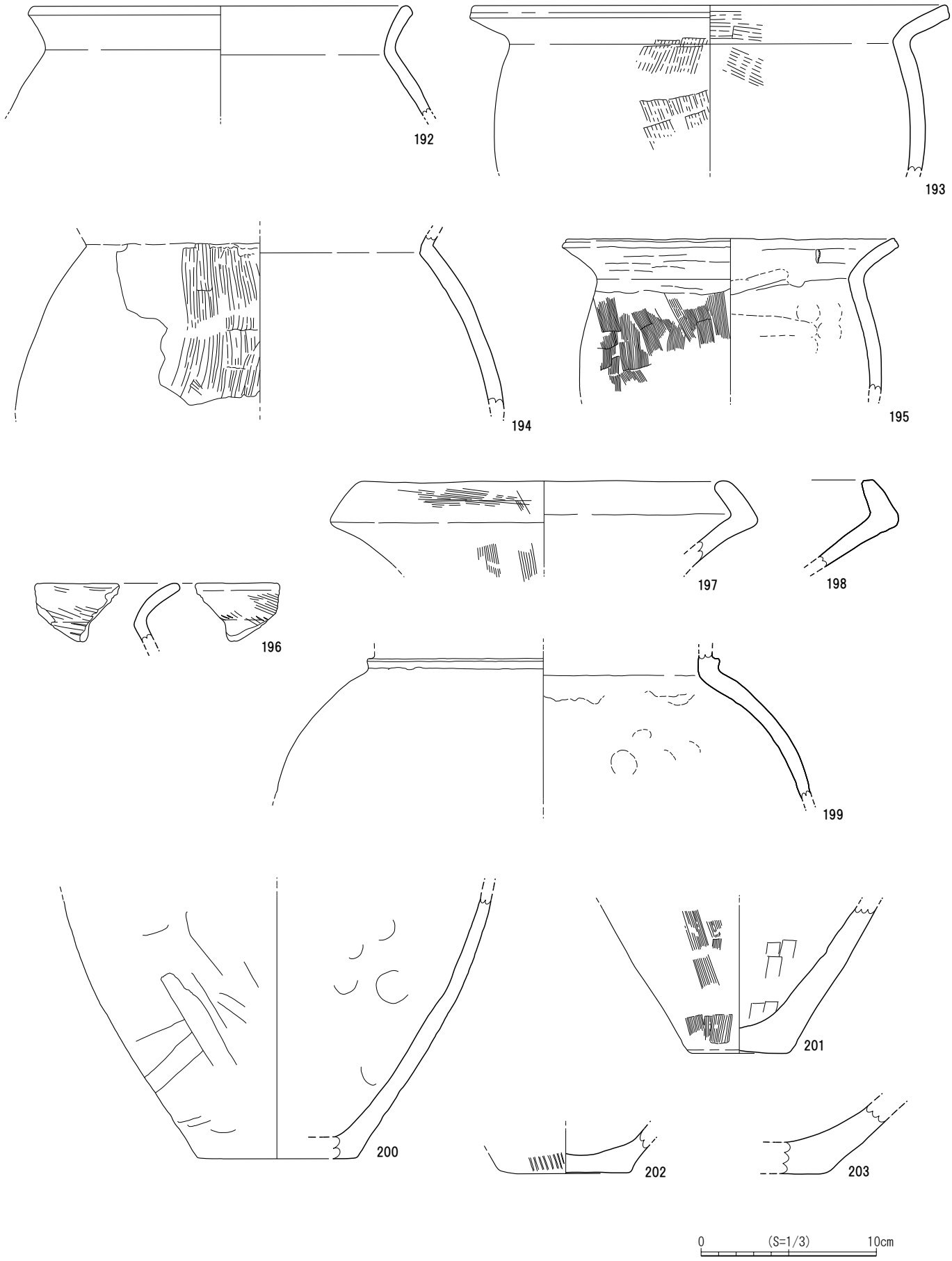


図 24　遺物実測図［ 弥生時代 ］(S=1/3)

Ⅵ. 古墳時代・古代・中世の遺構と遺物

１．遺構

（１）焼土・炭化物分布（ＳＬ）

調査区中ほどのGr5のⅡb層上面で焼土・炭化物の分布する範囲が検出された（SL2)。焼土ブロックの比較的多い中心部は認められるが、被熱面や掘り込み等の炉跡としての要素は看取できない。SL2内部での出土遺物はないが、検出された炭化物のうち1点について放射性炭素年代測定を行ったところ、1,040 ± 20yrBP（同969 calAD ～ 1026 calAD）の年代値で、古代後半頃に相当する（分析は第Ⅶ章)。

２．遺物

（１）土器（図25、表5）

① 土師器

204・206は甕の口縁部である。204の口唇内側は稜をなすが外側はやや丸みを帯びる。206は口唇内側が若干摘まみ上げられ、口縁中ほどがやや肥厚する。どちらも器壁は厚ぼったく在地的要素が強い。205は二重口縁壺の口縁部で一次口縁がやや外開きとなる。これらはいずれも小片で時期の特定は難しいが、弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけてのものと考えられる。

208は須恵器模倣の土師器坏蓋のつまみ部である。8世紀前半頃のものか。

② 須恵器

207はハソウである。体部上半に小振りのくの字状の刺突文が縦列に連続して施され一周する。文様帯の上端・下端は沈線で区画される。また内部上半にはとぐろを巻くように索状の鉄塊で満たされており特筆される。上下複数方向からエックス線写真を撮影したが、この鉄塊が何であるか不明である。形態からは6世紀代の可能性が考えられる。

209は蓋のつまみ部で焼成が悪い。210・211は蓋の見受け部の小片で、210は焼成不良のため鈍い赤褐色を呈する。7世紀後半から8世紀前半のものと考えられる。

212 ～ 213は壺・甕の破片である。214・215は壺の高台とみられる。216は須恵質・陶質だが他の須恵器とは質の異なっており器壁も薄い。壺か甕の胴部と見られ沈線が3周する。

③ 青磁

表土で中世の貿易陶磁器片を採集した。217は龍泉窯系の青磁碗底部である。218は青磁椀の底部で畳付以外は施釉されている。産地は不明だが朝鮮半島産の可能性がある。219は雷文を有する青磁椀で15世紀初頭の所産とみられる。

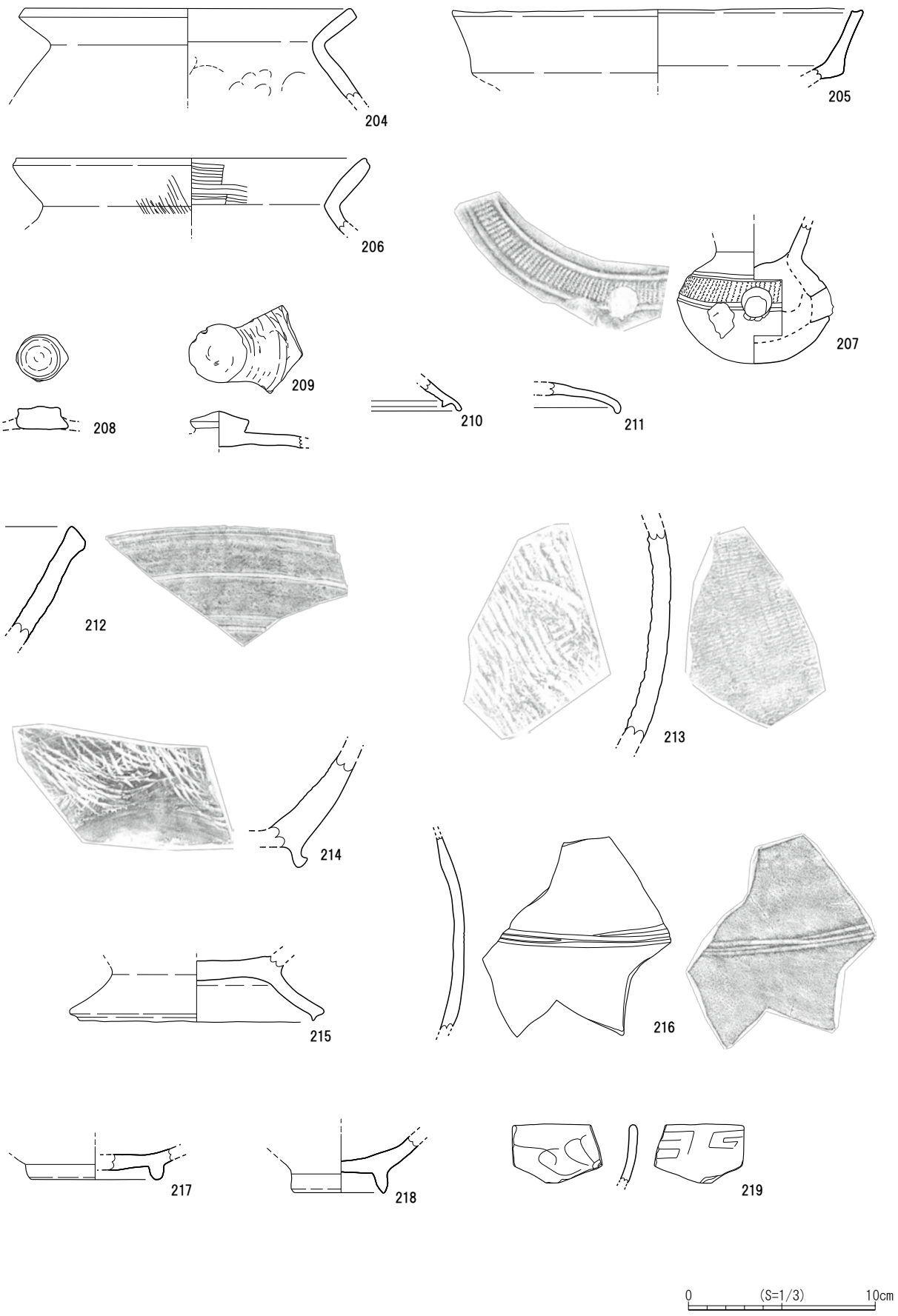


図 25　遺物実測図［古墳時代・古代・中世］(S=1/3)

表 2　遺物一覧 1（土器・陶磁器）

番号	ID	出土位置	種別　器種 型式・時期	部位	法量(cm)			調整ほか特徴	色調 上段：外面 下段：内面	備考
					器高	口径	底径			
1	1028	Gr6　Ⅱb層	縄文 鉢 曽畑式	口	－	－	－	外】横沈線文、区画縦沈線文・X字文　内】横条痕(貝殻腹縁)、ナデ	10YR3/1黒褐 10YR5/4にぶい黄褐	
2	1016	Gr5　Ⅱ層	縄文 鉢 中期か	口	－	(21.5)	－	外】横ケズリ(貝殻腹縁か)　内】横ナデ	2.5YR4/4にぶい赤褐 7.5YR4/2灰褐	滑石多量
3	1078	Gr8　Ⅱb層	縄文 鉢 並木式か	口	－	－	－	口唇に沈線文　外】横凹線文・鉤状凹線文　内】横工具ナデ	5YR6/4にぶい橙 5YR5/4にぶい赤褐	滑石多量
4	1060	Gr8　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	口	－	(30.0)	－	小波状口縁　外】爪状凹点文2～3段　内】ナデ	5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	滑石多量。坂の下式
5	1181	南区　表土下層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	口唇に沈線文　外】凹点文2段、区画横凹線文　内】横ナデ	5YR4/6赤褐 2.5Y3/1黒褐	
6	1189	Gr7　Ⅱab層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】口唇外縁に連続凹点文、区画縦沈線文、爪状縦凹点文2段　内】横工具ナデ	2.5YR6/6橙 2.5YR6/6橙	滑石多量
7	1188	Gr7　Ⅱab層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	小波状口縁　外】工具凹点文2段、区画横沈線文　内】ナデ	10YR5/2灰黄褐 10YR6/4にぶい黄橙	
8	1034	Gr7　Ⅱab層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】爪状縦凹点文2段　内】横ナデ、爪状縦凹点文1段	5YR5/6明赤褐 7.5YR5/6明褐	滑石。坂の下式か
9	1054	Gr8　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	小波状口縁　外】爪状凹点文1段、区画横凹線文　内】横ナデ	5YR5/6明赤褐 5YR5/6明赤褐	滑石多量
10	1077	Gr8　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	小波状口縁　外】長短凹線文2段、区画横凹線文　内】ミガキ状のナデ	5YR5/6明赤褐 7.5YR5/6明褐	滑石。坂の下式
11	1185	排土	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	波状口縁　外】爪状縦凹線文2段　内】	7.5YR5/6明褐 10YR5/4にぶい黄褐	坂の下式か
12	1002	Gr4　Ⅱa層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	小波状口縁　外】爪状縦凹点文1段・横凹線文　内】横ナデ	5YR6/6橙 7.5YR6/4にぶい橙	滑石。坂の下式
13	1164	Gr11	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】爪状縦凹線文　内】横ナデ	5YR6/6橙 5YR6/6橙	滑石
14	1010	Gr5　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	小波状口縁　外】爪状縦交互凹点文　内】横ナデ	10YR4/2灰黄褐 7.5YR6/6橙	滑石。坂の下式
15	1117	Gr10　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】爪状縦凹線文　内】横ナデ	5YR5/6明赤褐 5YR6/6橙	滑石多量
16	1120	Gr10　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】爪状縦凹線文、区画横凹線文　内】ナデ	2.5YR5/6明赤褐 2.5YR5/6明赤褐	滑石多量。坂の下式
17	1121	Gr10　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】凹点文、横沈線文　内】ミガキ状のナデ	2.5YR4/6赤褐 2.5YR4/6赤褐	外反口縁
18	1118	Gr10　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	小波状口縁　外】爪状縦沈線文　内】横ナデ	5YR4/6赤褐 5YR4/6赤褐	滑石。坂の下式か
19	1157	Gr11　Ⅱ・Ⅲ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	小波状口縁　外】弧状沈線文、区画横凹線文　内】横工具ナデ	2.5YR4/4にぶい赤褐 2.5YR4/3にぶい赤褐	
20	1049	Gr8　Ⅰ層カクラン	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】爪状縦凹点文、横沈線文　内】横ナデ	5YR4/3にぶい赤褐 5YR4/3にぶい赤褐	滑石
21	1023	Gr6　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系か	口	－	－	－	外】縦横沈線文　内】ナデ	10YR5/3にぶい黄褐 7.5YR5/4にぶい褐	滑石。擬口縁か
22	1146	Gr11　Ⅱ層	縄文 阿高系	口	－	－	－	外】縦横沈線文、斜沈線文　内】横工具ナデ	2.5YR4/4にぶい赤褐 2.5YR5/6明赤褐	南福寺式か
23	1018	Gr6　Ⅱa層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】縦横沈線文　内】ナデ、縦ミガキ状	10YR4/2灰黄褐 10YR4/1褐灰	西和田式か
24	1040	Gr7　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】横沈線文　内】ミガキ状の横ナデ	5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	坂の下式か
25	1080	Gr8　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】横凹線文　内】工具ナデ	5YR4/2灰褐 10YR4/3にぶい黄褐	滑石
26	1019	Gr6　Ⅱa層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】横沈線文	7.5YR4/3褐 7.5YR5/4にぶい褐	波状口縁。岩崎式か
27	1025	Gr6　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	口唇に刻目、小波状口縁　外】横沈線文　内】横条痕(貝殻腹縁か)	5YR5/6明赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	滑石。西和田式か
28	1085	Gr8　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	小波状口縁　外・内】ナデ	2.5YR4/6赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	
29	1142	Gr11　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】口唇外端に刻目　内】ナデ	5YR4/3にぶい赤褐 5YR4/4にぶい赤褐	
30	1149	Gr11　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	小波状口縁　外・内】ナデ	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR5/4にぶい褐	坂の下式
31	1158	Gr11　Ⅱ・Ⅲ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	小波状口縁　外】横ナデ　内】ミガキ状の横ナデ	5YR4/1褐灰 2.5YR4/4にぶい赤褐	滑石
32	1024	Gr6　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	口唇外角に刻目、小波状口縁　外】斜沈線文	10YR3/3暗褐 10YR5/4にぶい黄褐	滑石。坂の下式か
33	1043	Gr7　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】横沈線文、斜沈線文1段、横沈線文　内】横ナデ	7.5YR4/6褐 7.5YR6/6橙	滑石多量
34	1071	Gr8　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】長・短斜沈線文、区画横沈線文　内】ミガキ状のナデ	2.5YR5/6明赤褐 5YR4/6赤褐	滑石
35	1147	Gr11　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	小波状口縁　外】斜凹線文、区画横凹線文　内】横ナデ	2.5YR4/6赤褐 2.5YR4/6赤褐	滑石。坂の下式
36	1075	Gr8　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】縦・斜沈線文、横凹線文　内】斜工具ナデ	7.5YR5/6明褐 7.5YR5/4にぶい褐	南福寺式か
37	1012	Gr5　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	小波状口縁　外】斜沈線文　内】ナデ	7.5YR4/4褐 7.5YR3/3暗褐	滑石。南福寺式か
38	1017	Gr6　Ⅱa層	縄文 鉢 阿高系	口	－	(32.0)	－	外】斜沈線文、区画横沈線文　内】横条痕(貝殻腹縁か)	10YR4/2灰黄褐 7.5YR5/4にぶい褐	
39	1011	Gr5　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】斜沈線文　内】横ナデ	2.5YR5/4にぶい赤褐 2.5YR5/4にぶい赤褐	滑石多量。南福寺式か
40	1131	Gr11　Ⅱb・Ⅲ層	縄文 阿高系	口	－	－	－	口唇に沈線文　外】爪状長短斜凹線文、横凹線文　内】ナデ	5YR4/4にぶい赤褐 5YR3/3暗赤褐	南福寺式か

表3　遺物一覧2（土器・陶磁器）

番号	ID	出土位置	種別 器種 型式・時期	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	調整ほか特徴	色調 上段：外面 下段：内面	備考
41	1090	Gr8・9　中間TP一括	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】斜沈線文、区画横沈線文　内】ナデ	10YR5/4にぶい黄褐 7.5YR5/4にぶい褐	南福寺式か
42	1180	南区　表土下層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】斜沈線文　内】横ナデ	5YR5/6明赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	滑石。南福寺式か
43	1111	Gr10　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】矢羽根状沈線文　内】横ナデ	5YR4/3にぶい赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	南福寺式か
44	1081	Gr8　Ⅱb層	縄文 阿高系	口	－	－	－	外】凹点文2段、横工具凹線文　内】横工具ナデ	5YR4/6赤褐 5YR4/3にぶい赤褐	滑石
45	1044	Gr7　Ⅱ層	縄文 阿高系	口	－	－	－	口唇に凹線文・凹点文　外】沈線文鋸歯状文　内】ミガキ状の横ナデ	5YR4/4にぶい赤褐 7.5YR4/4褐	滑石
46	1159	Gr11　Ⅱ・Ⅲ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】ハの字沈線文　内】横ナデ	2.5YR6/6橙 2.5YR6/6橙	南福寺式か
47	1061	Gr8　Ⅱb層	縄文 鉢か 阿高系	口	－	－	－	外】幅広の横凹線文	7.5YR5/4にぶい褐 5YR5/6明赤褐	滑石。南福寺式
48	1127	Gr10　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	胴	－	－	－	外】幅広の凹線文、縦凹線文　内】横工具ナデ	2.5YR4/6赤褐 2.5YR4/4にぶい赤褐	滑石。南福寺式
49	1182	南区　表土下層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】横沈線2条、刻目突帯文、縦沈線文、格子状沈線文　内】ナデ	5YR5/6明赤褐 7.5YR5/3にぶい褐	南福寺式／出水式か
50	1143	Gr11　Ⅱ層	縄文 阿高系	口	－	－	－	口唇に沈線文　外】X字状粘土紐貼付文、沈線文　内】横工具ナデ	5YR6/6橙 5YR6/6橙	出水式か
51	1129	Gr10　Ⅱ・Ⅲ層一括	縄文 阿高系か	口	－	－	－	外・内】ナデ	7.5YR2/1黒 7.5YR3/3暗褐	滑石。把手状突起
52	1186	排土	縄文 鉢 後期中葉か	口	－	－	－	外】斜沈線文　内】横ナデ	5YR4/4にぶい赤褐 5YR4/6赤褐	
53	1115	Gr10　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】斜沈線文、刻目突帯文　内】横ナデ	5YR4/4にぶい赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	滑石。出水式
54	1079	Gr8　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】ナデ、刻目突帯文、風化　内】横ナデ	5YR5/6明赤褐 2.5Y3/2黒褐	
55	1050	Gr8　Ⅰ層カクラン	縄文 阿高系	口	－	－	－	外】短斜沈線文、刻目突帯文　内】横ナデ	5YR6/4にぶい橙 7.5YR5/4にぶい褐	出水式か
56	1086	Gr8　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】短斜沈線文、刻目突帯文　内】指オサエ	2.5YR4/6赤褐 2.5YR4/8赤褐	出水式
57	1082	Gr8　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】口縁端に沈線文、刻目突帯文、沈線文　内】横ナデ	7.5YR6/6橙 10YR5/3にぶい黄褐	出水式
58	1119	Gr10　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】縦沈線文2段、突帯文　内】横ナデ	10YR3/3暗褐 7.5YR4/6褐	出水式
59	1133	Gr11　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	外】ナデ、刻目突帯文　内】ナデ	7.5YR6/6橙 7.5YR5/4にぶい褐	口縁肥厚。出水式
60	1145	Gr11　Ⅱ層	縄文 阿高系	口	－	－	－	外】斜沈線文、刻目突帯文　内】工具ナデ	5YR5/6明赤褐 5YR6/6橙	出水式
61	1076	Gr8　Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	口	－	－	－	口唇に粘土紐貼付文　外】口縁斜沈線文、刻目突帯文、胴部斜沈線文	5YR5/6明赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	滑石。出水式
62	1029	Gr6　Ⅱb層	縄文 鐘崎式か	胴	－	－	－	外】貝殻腹縁刺突文(地文)、沈線渦文　内】ナデ	7.5YR4/2灰褐 5YR4/6赤褐	滑石。鐘崎式か
63	1178	Gr13　Ⅱ層除去	縄文 鉢 後期中葉	口	－	－	－	外】短斜沈線文2段　内】ナデ	5YR5/6明赤褐 7.5YR6/6橙	市来式か
64	1174	Gr13　Ⅱ層	縄文 鉢 後期中葉	口	－	－	－	外・内】横工具ナデ(貝殻条痕)、粘土紐貼付文	10YR5/3にぶい黄褐 10YR6/3にぶい黄橙	北久根式か
65	1132	Gr11　Ⅱb・Ⅲ層	縄文 鉢 後期後葉	口	－	－	－	外】ナデ、沈線文2条　内】ナデ	7.5YR3/1黒褐 7.5YR3/1黒褐	太郎迫式
66	1136	Gr11　Ⅱ層	縄文 鉢 後期後葉	口	－	―	－	外】沈線2条、風化　内】ナデ	10YR6/4にぶい黄橙 10YR5/2灰黄褐	太郎迫式
67	1184	南区　表土下層	縄文 深鉢 後期後葉	口	－	－	－	外】沈線文2条、横ミガキ　内】横ミガキ	2.5Y7/3浅黄 2.5Y6/3にぶい黄	太郎迫式
68	1135	Gr11　Ⅱ層	縄文 鉢 後期後葉	口	－	－	－	外】横凹線文　内】横ナデ	10YR5/3にぶい黄褐 10YR4/2灰黄褐	鳥井原式
69	1170	Gr12　Ⅱ層上面	縄文 後期後葉	口	－	－	－	外】横凹線文　内】ナデ	10YR3/2黒褐 10YR5/4にぶい黄褐	鳥井原式
70	1026	Gr6　Ⅱb層	縄文 鉢 晩期	口	－	(20.2)	－	外】胴部縦条痕(貝殻腹縁か)、口縁横ナデ　内】横ナデ	7.5YR6/4にぶい橙 5YR6/4にぶい橙	粗製
71	1042	Gr7　Ⅱ層	縄文 鉢 晩期	口	－	－	－	外】ナデ　内】横条痕(貝殻腹縁)	7.5YR5/4にぶい褐 10YR5/2灰黄褐	粗製
72	1137	Gr11　Ⅱ層	縄文 深鉢 晩期	口	－	－	－	外・内】ナデ	10YR6/4にぶい黄橙 10YR6/2灰黄褐	粗製
73	1151	Gr11　Ⅱ層 多孔質。粗製	縄文 鉢 晩期	口	－	－	－	外・内】ナデ	10YR7/6明黄褐 10YR5/1褐灰	多孔質。粗製
74	1116	Gr10　Ⅱ層	縄文 鉢 晩期	口	－	－	－	外】ケズリ状のナデ　内】横ナデ	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR5/3にぶい褐	口唇部に突起文
75	1160	Gr11　Ⅱ・Ⅲ層	縄文 浅鉢 晩期	口	－	(16.0)	－	外】ナデ　内】横工具ナデ	7.5YR5/6明褐 10YR5/3にぶい黄褐	黒川式新段階
76	1134	Gr11　Ⅱ層	縄文 鉢 晩期	口	－	－	－	外・内】斜工具ナデ、風化	10YR6/8明黄褐 10YR6/6明黄褐	リボン状突起。黒川式
77	1167	Gr12　Ⅱb層	縄文 深鉢 晩期	口	－	－	－	外・内】ナデ	10YR3/1黒褐 10YR3/2黒褐	多孔質。粗製
78	1113	Gr10　Ⅱb層	縄文 阿高系か	胴	－	－	－	外】ナデ　内】横工具ナデ、指オサエ	7.5YR4/2灰褐 5YR4/6赤褐	滑石
79	1155	Gr11　Ⅱ層	縄文 鉢 阿高系	胴	－	－	－	外】縦凹線文(竹管状の工具)　内】ナデ	5YR4/6赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	坂の下式か
80	1030	Gr6　Ⅱb層	縄文 鉢	底	－	－	－	内】ナデ	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙	滑石多量。鯨底

表 4　遺物一覧 3（土器・陶磁器）

番号	ID	出土位置	種別 器種 型式・時期	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	調整ほか特徴	色調 上段: 外面 下段: 内面	備考
81	1013	Gr5 Ⅱ層	縄文 鉢	底	–	–	(13.0)	外】指オサエ	10YR4/2灰黄褐 2.5YR5/6明赤褐	滑石多量。接合痕明瞭。鯨底
82	1015	Gr5 Ⅱ層	縄文	底	–	–	(12.2)	外・内】風化	2.5YR6/8橙 10YR6/3にぶい黄橙	鯨底か
83	1014	Gr5 Ⅱ層	縄文 鉢	底	–	–	(14.0)	外】工具ナデ　内】指ナデ	10YR4/2灰黄褐 2.5Y4/2暗灰黄	鯨底
84	1031	Gr6 Ⅱb層	縄文 鉢 阿高系	底	–	–	–	外・内】ケズリ状工具ナデ	7.5YR5/4にぶい褐 10YR5/3にぶい黄褐	滑石
85	1037	Gr7 Ⅱab層	縄文 鉢	底	–	–	(13.3)	内】ナデ	2.5Y5/3黄褐 5YR5/4にぶい赤褐	滑石多量。鯨底
86	1046	Gr7 Ⅱ層	縄文 鉢	底	–	–	(10.0)	内】指ナデ	5YR5/6明赤褐 10YR4/2灰黄褐	鯨底
87	1056	Gr8 Ⅱb層	縄文	底	–	–	(15.0)	外・内】ナデ	5YR5/4にぶい赤褐 2.5Y4/1黄灰	滑石多量。鯨底。補修孔1
88	1124	Gr10 Ⅱ層	縄文	底	–	–	(11.4)	内】風化	5YR5/6明赤褐 2.5Y6/4にぶい黄	滑石。鯨底。粘土接合痕明瞭
89	1047	Gr7 Ⅱ層	縄文 鉢	底	–	–	–	内】指ナデ	2.5YR5/6明赤褐 10YR5/4にぶい黄褐	鯨底か
90	1084	Gr8 Ⅱb層	縄文 阿高系	底	–	–	–	外・内】ミガキ状のナデ	5YR4/6赤褐 2.5YR4/6赤褐	粘土接合痕明瞭
91	1140	Gr11 Ⅱ層 鯨底か	縄文	底	–	–	(13.6)	外・内】縦工具ナデ	2.5YR5/8明赤褐 10YR7/4にぶい黄橙	鯨底か
92	1141	Gr11 Ⅱ層	縄文 鉢	底	–	–	–	内】ミガキ状のナデ	5YR5/4にぶい赤褐 7.5YR6/3にぶい褐	滑石。鯨底
93	1045	Gr7 Ⅱ層	縄文 鉢	底	–	–	(16.6)	外】縦工具ナデ　内】ミガキ状のナデ	5YR4/6赤褐 10YR6/2灰黄褐	滑石。鯨底か
94	1088	Gr8 Ⅱb層	縄文 阿高系	底	–	–	–	外】区画横沈線文、斜沈線文　内】工具ナデ	7.5YR5/6明褐 7.5YR5/6明褐	細沈線
95	1161	Gr11 Ⅱ・Ⅲ層	縄文	底か	–	–	–	外】ナデ。粘土紐付着　内】ナデ	5YR5/6明赤褐 5YR6/6橙	内面は粘土紐残る
96	1087	Gr8 Ⅱb層	縄文	底	–	–	(10.5)	外・内】ナデ	2.5YR4/4にぶい赤褐 2.5YR2/1赤黒	
97	1171	Gr12 Ⅱ層	弥生 鉢 晩期	底	–	–	8.0	外】風化　内】ハケメ	10YR5/3にぶい黄褐 2.5Y6/3にぶい黄	上げ底
98	1162	Gr11 Ⅱ・Ⅲ層	縄文	底	–	–	–	外】横ナデ　内】風化	10YR3/2黒褐 10YR7/4にぶい黄橙	
99	1172	Gr12 Ⅱ層	縄文 鉢	底	–	–	4.2	外】ナデ　内】風化	10YR7/4にぶい黄橙 2.5Y4/1黄灰	やや上げ底
100	1173	Gr12 トレンチ	縄文 晩期か	脚台	–	–	9.2	外・内】ナデ	5YR5/6明赤褐 2.5Y4/1黄灰	
101	1089	Gr8 Ⅱb層	縄文	底	–	–	(7.4)	外】ミガキ　内】ナデ	2.5YR5/8明赤褐 10YR7/6明黄褐	
167	1187	排土	弥生 二壺 高三潴式	口	–	(21.0)	–	外】横ハケメのち横ナデ　内】横ナデ	5YR6/6橙 5YR6/6橙	
185	1153	Gr11 Ⅱ層	弥生 甕 須玖Ⅰ式	口～胴	–	(25.0)	–	外・内】ナデ、風化	5YR6/6橙 10YR5/4にぶい黄褐	
186	1057	Gr8 Ⅱb層	弥生 甕 須玖Ⅰ式	口	–	(15.6)	–	外・内】ナデ、赤彩	7.5YR6/4にぶい橙 2.5YR5/6明赤褐	
187	1091	Gr8・9 中間 TP一括	弥生 高坏	脚	–	–	–	外・内】風化	10YR8/3浅黄橙 10YR8/3浅黄橙	絞り痕明瞭
188	1101	Gr9 Ⅱb層	弥生 広口壺 須玖式	口	–	(24.3)	–	外】横ナデ　内】横ハケメ、ナデ	2.5YR6/8橙 2.5YR5/8明赤褐	赤彩
189	1059	Gr8 Ⅱb層	弥生 壺か 須玖式か	胴	–	–	–	外】縦ハケメ、風化	7.5YR6/6橙 7.5YR6/6橙	突帯文2条
190	1190	Gr9 Ⅱb層	弥生 甕 後期	口～胴	–	(22.5)	–	外】斜ハケメ　内】縦ハケメ、口縁横ハケメ	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR5/4にぶい褐	
191	1066	Gr8 Ⅱb層	弥生 甕	口～頸	–	(32.2)	–	外】横ナデ　内】ハケ、横ナデ	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR6/6橙	口縁屈曲部下に突帯文1条
192	1102	Gr9 Ⅱb層	弥生 甕 後期	口	–	(21.0)	–	外】縦ハケメ、ナデ　内】ナデ	5YR6/8橙 5YR6/8橙	
193	1096	Gr9 P2 Ⅱb層	弥生 甕 後期	口～胴	–	(28.8)	–	外】縦ハケメ　内】斜ハケメ、口縁横ハケメ	7.5YR6/6橙 7.5YR7/4にぶい橙	
194	1058	Gr8 Ⅱb層	弥生 甕	頸～胴	–	–	–	外】縦ハケメ　内】ナデ	7.5YR6/6橙 7.5YR6/6橙	
195	1074	Gr8 Ⅱb層	弥生 甕 後期	口～胴	–	(22.5)	–	外】縦ハケメのちナデ　内】ナデ	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙	
196	1032	Gr6 Ⅱb層	弥生 壺か 後期か	口～頸	–	–	–	外・内】斜ハケメ	10YR6/4にぶい黄橙 10YR7/4にぶい黄橙	赤彩か
198	1103	Gr9 Ⅱb層	弥生 二壺 高三潴式	口	–	–	–	風化	10YR6/6明黄褐 7.5YR6/6橙	
199	1105	Gr9 Ⅱb層	弥生 壺	口～胴	–	–	–	外】縦ハケメのちナデ　内】風化	10YR6/4にぶい黄橙 10YR7/4にぶい黄橙	
200	1128	Gr10 Ⅱ層	弥生 甕 後期後葉	胴～底	–	–	9.1	外】ナデ　内】工具ナデ	10YR7/3にぶい黄橙 10YR5/2灰黄褐	
201	1069	Gr8 Ⅱb層	弥生 甕壺	底	–	–	(6.0)	外】工具ナデ、風化	5YR6/6橙 5YR5/6明赤褐	
202	1052	Gr8 Ⅱa層	弥生 甕壺	底	–	–	7.6	外】縦ハケメ　内】ナデ	2.5YR6/6橙 5YR6/6橙	
203	1033	Gr6 Ⅱb層	弥生 甕壺 後期か	底	–	–	(10.0)	外・内】ナデ	2.5YR6/8橙 5YR6/8橙	

表5　遺物一覧4（土器・陶磁器）

番号	ID	出土位置	種別 器種 型式・時期	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	調整ほか特徴	色調 上段：外面 下段：内面	備考
204	1001	Gr4	土師器 甕 古墳初頭	口～胴	–	(18.1)	–	外・内】ナデ	7.5YR5/2灰褐 7.5YR6/6橙	
205	1097	Gr9　表土	土師器 二壺 古墳初頭	口	–	(22.0)	–	外】工具ナデ、ナデ　内】ナデ	10YR6/6明黄褐 10YR6/6明黄褐	
206	1009	Gr5　Ⅱ層	土師器 甕 古墳初頭	口～頸	–	(19.2)	–	外】斜ハケ後ナデ、内】横ハケ	2.5YR6/6橙 2.5YR7/6橙	
207	2047	Gr9 P1　Ⅱ層最下部	須恵器 ハソウ 後期・6C代	頸～底	–	–	–	外】刺突文、沈線2条　内】	2.5Y6/1黄灰 –	内部に鉄
208	1138	Gr11　Ⅱ層	土師器 坏蓋 8世紀前半	つまみ	–	–	–	外・内】風化	10YR7/6明黄褐 10YR7/6明黄褐	焼成不良
209	2052	Gr11　Ⅱ層	須恵器 坏蓋	つまみ	–	–	–	外】回転ナデ　内】回転ナデ、静止ナデ	5YR5/4にぶい赤褐 7.5YR7/6橙	
210	2001	Gr6　Ⅱa層	須恵器 坏蓋 7C後半	身受	–	(15.2)	–	外・内】回転ナデ	5YR5/3にぶい赤褐 2.5YR5/3にぶい赤褐	
211	2005	Gr10　栗石カクラン	須恵器 坏蓋 7C末～8C前半	身受	–	(17.0)	–	外・内】回転ナデ	7.5Y6/1灰 10Y6/1灰	
212	2004	Gr10　Ⅱ層・Ⅲ層一括	須恵器 広口壺	口	–	–	–	外】回転ナデ、沈線文　内】回転ナデ	5Y4/1灰 5Y4/1灰	
213	2006	Gr10　Ⅱb層	須恵器 壺・甕	胴	–	–	–	外】平行タタキ、ナデ　内】平行タタキ	N5/0灰 5Y5/1灰	
214	2007	Gr11　Ⅱ層	須恵器 壺	高台	–	–	–	外】回転ナデ　内】同心円タタキ	10YR6/4にぶい黄橙 5Y5/1灰	
215	2049	Gr8　Ⅱb層	須恵器 壺か	高台	–	–	(12.6)	外・内】回転ナデ	2.5Y7/4浅黄 2.5Y7/3浅黄	
216	2048	Gr6　Ⅱb層	須恵器か 壺甕	胴	–	–	–	外】ナデ、沈線3巡　内】同心円タタキ、ナデ	10YR5/2灰黄褐 10YR5/2灰黄褐	
217	2009	Gr9　表土	青磁 碗 龍泉窯Ⅳ類か	高台	–	–	(7.0)	外】高台内面無釉	10Y6/2オリーブ灰 10Y6/2オリーブ灰	
218	2010	Gr9　表土	青磁 碗	高台	–	–	5.0	外・内】畳付無釉	7.5Y7/2灰白 5Y7/2灰白	
219	1322	Gr4　Ⅱa層	青磁 椀 15C初	口	–	–	–	外】雷文　内】草花文		

表6　遺物一覧5（石器）　　敲打痕・磨り痕の度合い（a：強い、b：やや強い、c：やや弱い、d：弱い）

番号	ID	出土位置	器種	石材	法量(cm・g) 長さ	幅	厚み	重量	調整ほか特徴	備考
102	4055	Gr11・12　Ⅲ層	敲石	安山岩	9.0	6.9	4.0	337	敲打痕c(片極、1側縁)・d(片極)	
103	4022	Gr8　Ⅱb層	敲石	安山岩	5.4	6.2	3.4	175	敲打痕b(3側縁)	
104	4006	Gr5　Ⅱ層	敲石	安山岩	14.3	5.6	4.7	625	敲打痕c(2側縁、両極)、剥離(片極)	
105	4044	Gr10　Ⅱb層	敲石	安山岩	7.3	3.3	3.0	100	敲打痕d(片極)	
106	4026	Gr9　Ⅱa層	敲石	砂岩	9.6	8.2	5.2	550	敲打痕c(3側縁、両面)	
107	4005	Gr5　Ⅱ層	敲石	安山岩	5.65	7.0	4.0	200	敲打痕b(1側縁、両面)	被熱による赤化・黒化か
108	4014	Gr8 撹乱　Ⅰ層	敲石	凝灰角礫岩	10.0	7.8	7.1	800	敲打痕a(両極)	
109	4037	Gr9　Ⅱb層	敲石	安山岩	9.4	6.9	5.9	570	敲打痕b(両極)、剥離	
110	4027	Gr9　Ⅱa層	敲石	安山岩	7.4	6.4	4.3	310	敲打痕a(両極)・c(両面)	
111	4029	Gr9　Ⅱa層	敲石	安山岩	9.2	7.6	4.6	480	敲打痕c(片極)	
112	4043	Gr9　Ⅱb層	敲石	安山岩	8.0	9.8	6.7	740	敲打痕b(片極)	先端の横の面を使用
113	4015	Gr8 撹乱　Ⅰ層	磨敲石	砂岩	15.7	11.0	6.7	1530	敲打痕a(片極、片面)、磨り痕b(片面)、赤化(2側縁)	
114	4032	Gr9　Ⅱa層	敲石	安山岩	13.0	10.0	6.9	1390	敲打痕a(全側縁)	
115	4023	Gr8　Ⅱb層	磨敲石	砂岩	9.2	11.3	4.2	618	敲打痕b(3側縁、両面)、磨り痕c(片面)、剥離(2側縁)、やや黒化(片面)	剥離箇所での敲打による折断か
116	4108	Gr11　Ⅱ層	磨敲石	砂岩	14.4	11.1	4.5	1250	敲打痕b(全側縁)、磨り痕b(両面)	
117	4074	Gr8　Ⅱb層	磨敲石	花崗岩	9.8	9.2	4.7	670	敲打痕b(全側縁)・d(両面)、磨り痕b(両面)	
118	4075	Gr7　Ⅱa・b層	敲石	安山岩	7.3	7.4	4.1	360	敲打痕a(全側縁)	
119	4110	Gr11　Ⅱ層	磨石	安山岩	7.9	7.0	4.3	341	磨り痕c(両面)	
120	4133	Gr13　Ⅱ層	磨石	花崗岩	9.8	9.2	4.5	590	磨り痕c(両面)	
121	4077	Gr8　Ⅱa層	磨敲石	硬質砂岩	10.6	9.5	3.5	575	敲打痕c(1側縁、両面)、磨り痕(両面)、黒化	敲打痕と磨り面が黒化
122	4121	Gr12　Ⅱb層	磨敲石	砂岩	11.9	10.5	2.2	360	敲打痕b(全側縁)、磨り痕a(両面)、剥離	
123	4093	Gr9　Ⅱa層	磨敲石	硬質砂岩	14.5	12.3	4.0	1006	敲打痕c(片極)、磨り痕a・b(両面)	
124	4130	Ⅱ層一括	磨石	砂岩	14.5	12.0	4.7	1206	磨り痕c(両面)	
125	4099	Gr9 石積栗石	磨石	砂岩	10.1	11.2	5.6	1020	磨り痕b・c(両面)	敲打による折損か
126	4070	Gr3　Ⅱb層	磨敲石	硬質砂岩	10.2	8.9	4.1	550	敲打痕d(両面)、磨り痕d(両面)	
127	4090	Gr9　Ⅱb層	磨石	砂岩	14.1	11.5	3.8	825	磨り痕d(両面)	
128	4143	Gr8　Ⅱa層	台石	砂岩	42.7	28.3	10.7	14350	磨り痕a(片面)	
129	4150	Gr8　Ⅱb層	台石	玄武岩	31.0	25.7	10.5	6950	黒化顕著	

表 7　遺物一覧 6（石器）　　敲打痕・磨り痕の度合い（a：強い、b：やや強い、c：やや弱い、d：弱い）

番号	ID	出土位置	器種	石材	法量(cm・g)				調整ほか特徴	備考
					長さ	幅	厚み	重量		
130	4142	Gr8　Ⅱb層	台石	砂岩	13.8	15.7	3.7	1000	磨り痕b(片面)	
131	4141	Gr8　Ⅱb層	台石	砂岩	13.1	17.0	5.2	1240	磨り痕a(片面)	
132	4137	Gr5　Ⅱb層	台石	砂岩	22.7	21.2	8.3	5750	敲打痕d(両面)、磨り痕b(片面)	
133	4139	Gr8　Ⅱb層	台石	砂岩	20.4	14.9	7.3	3120	敲打痕d(両面)、磨り痕a･b(両面)	
134	4155	Gr13	台石	砂岩	12.2	9.1	2.3	330	磨り痕a･b(両面)、赤化(片面)	
135	4147	Gr11　Ⅱ層	台石	溶結凝灰岩	14.4	12.0	5.1	730	磨り痕a(片面)	
136	4153	Gr12　表土下層	台石	硬質砂岩	9.9	9.2	2.8	310	磨り痕b･c(両面)、剥離(両極)	
137	4152	Gr12	台石	砂岩	16.8	15.5	8.6	2484	敲打痕c(片面)、磨り痕a(両面、1側縁)	
138	4149	Gr12　ⅡbⅢ層	台石	砂岩	13.9	14.7	5.0	1005	磨り痕a(片面)	
139	4148	Gr12　Ⅱb層	台石	砂岩	10.8	12.0	4.9	1100	磨り痕b･c(両面)、線状磨り痕	線状磨り痕
140	4145	Gr8　Ⅱb層	台石	砂岩	14.4	14.1	4.1	1220	敲打痕c(片面)、磨り痕b(両面)	
141	4159	Gr11　ⅡbⅢ層	石錘	多孔質玄武岩	10.4	13.5	3.8	620	短軸の2側縁に打ち欠きによる抉り	
142	4160	Gr13	石錘	安山岩	15.9	10.9	3.7	830	長軸の2側縁に打ち欠きによる抉り。紐擦れ痕	碇石か
143	4157	Gr5　Ⅱ層	石錘	砂岩	12.0	7.7	4.2	510	長軸の2側縁に敲打による抉り	
144	4158	Gr9　Ⅱb層	石錘	硬質砂岩	11.5	10.0	3.8	535	2側縁に打ち欠きによる抉り	
145	4306	Gr11　Ⅱ層	石錘	結晶片岩	17.6	11.5	2.3	614	側縁の3か所に打ち欠きによる抉り	
146	4309		石錘	結晶片岩	14.9	13.5	2.2	605	4側縁に打ち欠きによる抉り	
147	4265	Gr3　Ⅱb層	礫器	泥質砂岩	14.2	13.1	4.2	866	扁平な円礫の片側縁部を一方向から剥離し刃部形成	
148	4269	Gr5　Ⅱ層	礫器	斑レイ岩	8.9	10.9	4.9	720	身厚な円礫の片側縁部を両面から剥離し刃部形成	
149	4279	Gr8　Ⅱb層	礫器	安山岩	12.0	13.2	4.0	1178	大型の円礫表皮剥片の長側縁を一方向から打ち欠き刃部形成	
150	4318	Gr9 H29TP1	大珠未製品	不明	4.5	2.2	1.3	20	全面研磨により多面体をなす。裏面に線状痕	
151	4319	Gr8　Ⅱb層	打製石斧	ホルンフェルス	10.8	4.9	2.8	177	完形、側面に敲打痕	
152	4320	Gr8　Ⅱb層	打製石斧	ホルンフェルス	(13.0)	7.0	2.1	195	上部欠損、腹面に第一次剥離面	
153	4321	Gr8　Ⅱb層	打製石斧	ホルンフェルス	19.3	4.7	2.9	285	完形、腹面に第一次剥離面	
154	4325	Gr13　Ⅱ層	打製石斧	ホルンフェルス	10.6	5.3	1.8	119	刃部欠損後再加工か、両面に自然面、風化顕著	
155	4331	Gr9　Ⅱa層	打製石斧	ホルンフェルス	(12.3)	(6.2)	2.9	282	下部欠損、両側縁に敲打痕、素材に分割礫	
156	4323	Gr9　Ⅱb層	打製石斧	ホルンフェルス	(13.1)	(7.0)	2.9	343	下端部欠損、両面に自然面	
157	4333	Gr9　Ⅱb層	打製石斧	安山岩	8.8	5.8	4.9	348	棒状礫を上下に分割し、断面を三角形状に加工	三角錐形石器か
158	4322	Gr8･9中間、TP一括	磨製石斧	ホルンフェルス	12.5	6.0	2.4	229	完形、器体下半に顕著な研磨、先端に使用痕	
159	4324	Gr11　Ⅱb層	磨製石斧	ホルンフェルス	(9.7)	6.2	2.1	147	上部欠損、器体下半に顕著な研磨、刃部蛤刃状	
160	4346	Gr9　Ⅱa層	磨製石斧	斑レイ岩	14.0	5.2	3.9	432	完形、剥離･敲打の後に研磨整形、刃部蛤刃状	
161	4347	Gr8　Ⅱb層	磨製石斧	凝灰角礫岩	12.0	7.1	4.1	500	完形、背面に自然面、器体下半に研磨顕著、刃部蛤刃状	
162	4350	Gr8、攪乱　I層	磨製石斧	ホルンフェルス	(14.5)	6.1	3.6	495	上部欠損、風化顕著、敲打整形の後に研磨、刃部蛤刃状	
163	4351	Gr9　Ⅱa層	磨製石斧	ホルンフェルス?	(10.3)	5.6	2.9	212	上端欠損、剥離･敲打の後に研磨整形、刃部蛤刃状	
164	4349	Gr8　Ⅱb層	磨製石斧	蛇紋岩	(9.9)	3.6	1.9	86	上部欠損、剥離の後に研磨整形、刃部蛤刃状	
165	4352	Gr9　Ⅱb層	磨製石斧	蛇紋岩	10.5	2.9	2.0	107	完形、丁寧な研磨により鑿状に整形、刃部に敲打痕	
166	4326	Gr4　Ⅱ層	磨製石斧	ホルンフェルス	(7.8)	4.4	(2.6)	121	上部欠損、器体下半に顕著な研磨、刃部蛤刃状	
167	4348	Gr8　Ⅱb層	磨製石斧	ホルンフェルス	(7.0)	3.5	9.9	72	下部欠損、棒状礫の上方を加工後全体を研磨整形	
168	4334	Gr9　Ⅱb層	敲石	砂岩	8.5	6.2	2.9	192	周縁に敲打による剥離や敲打痕、両面に凹あり	
169	4335	Gr12　Ⅱ層	敲石	砂岩	15.3	6.3	4.5	621	器体全体に敲打による剥離や敲打痕、下端に被熱による赤化範囲あり	
170	4332	Gr9　Ⅱa層	敲石	安山岩	12.7	5.4	3.3	269	上下両端･側縁を敲石に使用	
171	4329	Gr8　Ⅱa層	敲石	安山岩	11.6	6.1	2.8	284	下端に敲打による剥離、背面に微かな敲打痕	
172	4327	Gr8　Ⅱb層	単角状石器	安山岩	11.9	9.1	3.6	439	下端を尖頭状に加工、廃棄後の風化顕著	
173	4341	Gr8　Ⅱb層	剝片	黒曜石	5.8	6.8	1.8	51	下辺に使用痕	
174	4328	Gr8　Ⅱb層	ドリル/スクレイパー	安山岩	(10.3)	6.0	2.2	156	下端に二次加工、両側縁に使用痕	
175	4342	Gr10、栗石攪乱	石核	ガラス質安山岩	5.5	5.6	1.8	52	残核の周縁の一部に二次加工	
176	4340	南側排土	剝片	黒曜石	(4.0)	1.9	0.6	3	上下両端欠損、両側縁に使用痕	
177	4336	Gr11　Ⅱ層	掻器	ガラス質安山岩	3.6	4.6	1.0	20	大型剥片を腹面からの押圧剥離により台形状に加工	
178	4339	Gr13　Ⅱb層	剝片鏃	黒曜石	2.1	1.5	0.3	1	石刃素材、先端が尖り、基部を凹基に加工	
179	4345	Gr8　Ⅱb層	石核	黒曜石	3.4	3.0	3.1	28	小型な礫を分割して打面を作出	
180	4337	Gr13　Ⅱ層	剝片鏃	黒曜石	2.6	1.5	0.4	1	剥片の周縁を加工	
181	4338	Gr13　Ⅱ層	剝片鏃	黒曜石	3.1	2.2	0.5	2	石刃素材、基部を凹基に加工	
182	4330	Gr8　Ⅱb層	敲石	安山岩	6.6	5.7	3.9	188	周縁に敲打による剥離や敲打痕	
183	4344	Gr11　Ⅱb層	石核	ガラス質安山岩	4.5	5.6	2.6	75	肥厚な剥片を石核に利用し、周縁から剥片剥離	
184	4343	Gr8　Ⅱb層	石核	ホルンフェルス	5.5	8.7	3.1	137	上下左右より剥片剥離	

Ⅶ. 自然科学分析

１．放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

（１）はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素（14 C）の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌さらには土器付着炭化物などが測定対象となり、約 5 万年前までの年代測定が可能である（中村 ,2003）。今回の分析調査では、中島遺跡の発掘調査で出土した遺構等の年代に関する情報を得る目的で、放射性炭素年代測定を実施した。

（２）試料と方法

試料は、中島遺跡の遺構等から出土した炭化材 2 点である。表 8 に、測定試料の詳細と前処理・調整法および測定法を示す。

試料の付着物を取り除いた後、酸－アルカリ－酸（AAA:Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後､超純水で中性になるまで希釈し､乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には｢AAA｣、1M 未満の場合は「AaA」と結果表に記載する。

化学処理後の試料を燃焼させ､二酸化炭素（CO2）を発生させ､真空ラインで二酸化炭素を精製する。精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

測定方法は､加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置を使用し､14C の計数、13C 濃度（13C/12C）、14C 濃度（14C/12C）の測定を行う。測定では､米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。δ 13C は、試料炭素の 13C 濃度（13C/12C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である。

表 8　測定試料及び処理

試料番号	出土位置	資料	前処理・調整	測定法
NKS201902-№1	Gr9 Ⅲ層上面 SL1	炭化材	酸－アルカリ－酸処理（AAA）	ＡＭＳ
NKS201902-№2	Gr5 Ⅱb層 SL2	炭化材	酸－アルカリ－酸処理（AaA）	ＡＭＳ

※AMS（Accelerator Mass Spectrometry）は加速器質量分析法

（３）結果

加速器質量分析法（AMS：Accelerator Mass Spectrometry）によって得られた 14 C濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素（14 C）年代および暦年代（較正年代）を算出した。表 9 にこれらの結果を示し、図 26 に暦年較正結果（較正曲線）を示す。

14C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 14C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach,1977）。14C 年代はδ 13C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を結果表に示す。14C 年代と誤差は､下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、

14C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の 14C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。

暦年較正年代とは、年代が既知の試料の 14C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の 14C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ ＝ 68.2%）あるいは 2 標準偏差（2 σ ＝ 95.4%）で表示される。グラフの縦軸が 14C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ 13C 補正を行い、下 1 桁を丸めない 14C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース（Reimer et al.,2013）を用い、OxCalv4.3 較正プログラム（BronkRamsey,2009）を使用する。暦年較正年代は、14C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」・「cal BP」という単位で表される。

表 9　測定結果

試料番号	測定No. (IAAA-)	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (年BP)	^{14}C年代 (年BP)	暦年代（西暦） 1 σ （68.2%確率）	 2 σ （95.4%確率）
NKS201902-No.1	191726	-26.10±0.34	2563±25	2560±30	797 calBC-769 calBC (68.2%)	805 calBC-750 calBC (82.4%) 684 calBC-667 calBC (4.8%) 637 calBC-621 calBC (2.0%) 616 calBC-590 calBC (5.7%) 576 calBC-571 calBC (0.5%)
NKS201902-No.2	191727	-26.86±0.30	1043±23	1040±20	990 calAD-1017 calAD (68.2%)	969 calAD-1026 calAD (95.4%)

BP：Before Physics (Present)，BC：紀元前，AD：紀元

（4）所見

加速器質量分析法（AMS）による放射性炭素年代測定の結果は、以下のとおりである。

Gr-9 Ⅲ層上面 SL1 出土の炭化材は、2560 ± 30yrBP（2 σ の暦年代で 805 calBC ～ 750 calBC、684 calBC ～ 667 calBC、637 calBC ～ 621 calBC、616 calBC ～ 590 calBC、576 calBC ～ 571 calBC）の年代値で、縄文時代晩期に相当する。Gr-5 Ⅱ b 層 SL2 出土の炭化材は、1,040 ± 20yrBP（同 969 calAD ～ 1026 calAD）の年代値で、古代後半頃に相当する。

参考文献

Bronk Ramsey, C.,2009,Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), p.337-360.

中村俊夫,2003,放射性炭素年代測定法と暦年代較正．環境考古学マニュアル，同成社，p.301-322.

Reimer, P.J. et al.,2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), p.1869-1887.

Sakamoto,M.,Imamura,M.,van der Plicht,J.,Mitsutani,T.,Sahara,M.:: Radiocarbon calibration for Japanese wood samples.Radiocarbon,45(1), 81-89,200p.

Stuiver, M. and Polach, H.A.,1977,Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363.

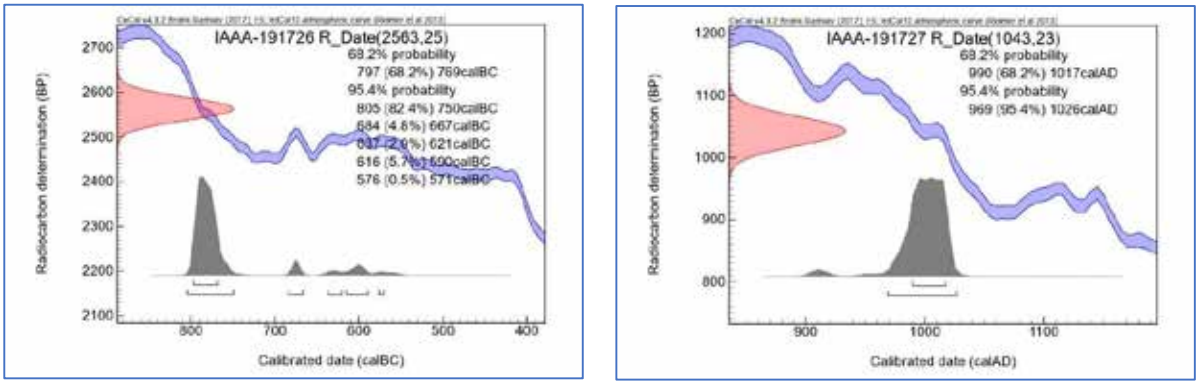


図 26　暦年較正図

２．黒曜石産地推定

長崎県埋蔵文化財センター　岩佐朋樹

（１）はじめに

今回、中島遺跡出土黒曜石 85 点について長崎県埋蔵文化財センターが所有するエネルギー分散型蛍光 X 線分析装置(SII　ナノテクノロジー社製 SEA1200VX)を用いた非破壊による産地推定を行った。本稿ではその分析結果を報告するとともに五島列島内の出土事例を踏まえて若干の考察を行いたい。

（２）黒曜石産地推定

長崎県埋蔵文化財センターでは 2014 年から黒曜石産地推定のため各地の原石データを蓄積し、都度その成果を公開してきた（片多・今西 2014 ほか)。現在、九州全域の原産地のデータセットが整備されつつあり、既に 6,400 余りのデータを得ている。今回は当センターが作成した判別図を用いて黒曜石の産地を推定した。その結果を図 28、表 10 に示す。

分析した 85 点のうち、産地を推定できたものが 80 点、その他が 5 点であった。

最も多かったものは腰岳系で 70 点を数えた。次に淀姫系が 8 点あり、さらに川棚大崎①と針尾Ⅲ群が 1 点ずつあった。今回の分析では真空引きをしていなかったことと判別図にまだ改善の余地があることから「?」を付しているものもあるが､腰岳系が突出して多く出土していることに変わりない。

その他とした 5 点について、黒曜石ではあるが産地不明のものが 2 点、サヌカイト、チャート、玄武岩がそれぞれ 1 点ずつあった。

（３）五島列島の黒曜石出土遺跡

図 27 は五島列島内の縄文遺跡および黒曜石出土遺跡をプロットし、5km グリッドごとの遺跡密度を表したものである。五島列島（小値賀島や宇久島等を含む）では黒曜石を産出しないとされながら、列島内の縄文遺跡などからは普遍的に黒曜石が出土している。このことは列島の島嶼性を考えれば、それらが海を越えてもたらされたことは確実であり、黒曜石の産地推定によって島外との交流圏復元にあたっては有利な状況だと言える。しかし、これまで五島列島出土の黒曜石について黒曜石の産地推定を行った事例は小値賀町・野首遺跡（長岡ほか 2003）のみである。

長岡らは野首遺跡出土石器(黒曜石ほか 19 種の石材)について破壊を伴う詳細な分析を行っている。特に従来の考古学者による肉眼観察だけではなく、主な原岩産地の地質調査、石器と原岩の光学顕微鏡観察、波長分散型蛍光 X 線分析装置による分析およびそれらの統計学的解析を行っており、地質学の裏付けを得ている科学的な分析である点で非常に精度の高い分析である。その結果、腰岳や針尾島などの西北部九州から、最も遠い産地で大分県姫島産の石器・石材が流入していることが分かっている。

分析した黒曜石は腰岳系や淀姫系など西北部九州産ばかりで遠方のものは見られなかった。今回の調査区は溶岩台地縁辺部にあたる丘陵部であり、集落の中心部からやや外れ（川道ほか 1997)、すり潰す等の機能を有した堅果類加工石器が多く出土していることから、ドングリピットが出土した低湿地部を含めて調査区周辺が堅果類加工の場であり、切断等の機能を持つ黒曜石の必要性が低かった可能性が考えられる。しかし、黒曜石の分析事例が十分ではないため、事例の増加が待たれる。

（４）おわりに

今回は中島遺跡出土黒曜石の産地推定を行った。五島列島出土黒曜石としては数少ない分析事例の

一つとなったが、今後は既報告分も含めて五島列島内出土の黒曜石の産地推定を進めることで列島内外の黒曜石の流通ルートや拠点等の縄文社会システムの解明に努めたい。

なお今回の蛍光 X 線分析では下条紗地、出口美由紀の協力を得た。記して感謝したい。

参考文献

片多雅樹・今西亮太　2014 「判別図法を用いた黒曜石の産地推定」『日本文化財科学会第 31 回要旨集』
川道寛・塩塚浩一　1997 「中島遺跡」『県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅴ』長崎県文化財調査報告書第 133 集　長崎県教育委員会
川道寛・桝田祐三・片多雅樹　2020 「佐世保市針尾島における新発見の黒曜石原産地」『長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第 10 号』
塚原博　2003 「五島列島遺跡一覧表」『野首遺跡』小値賀町文化財調査報告書第 17 集　小値賀町教育委員会
長岡信治・角縁進・宇都宮恵・田島俊彦　2003 「野首遺跡における石器の石材と原産地の推定」『野首遺跡』小値賀町文化財調査報告書第 17 集　小値賀町教育委員会

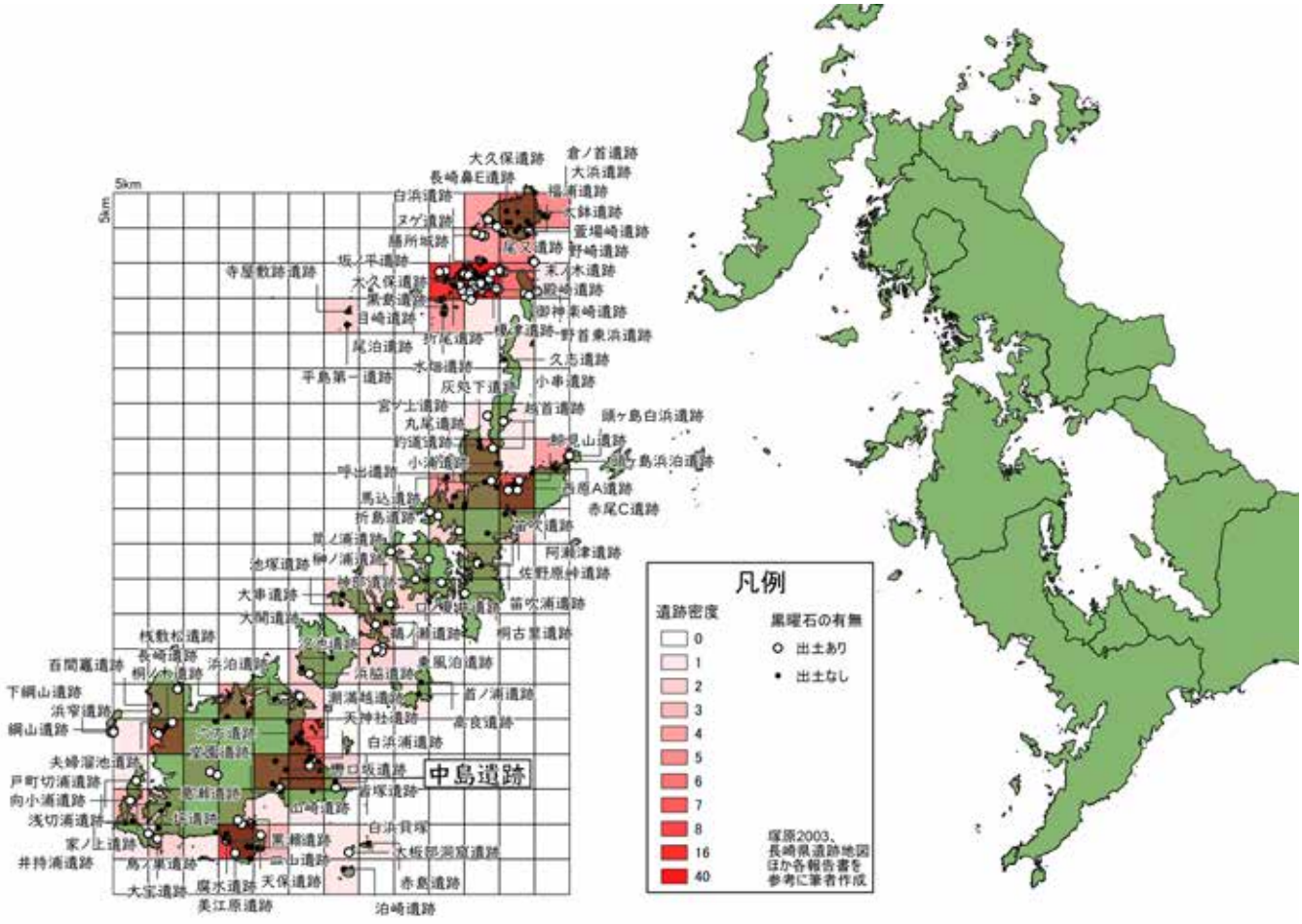
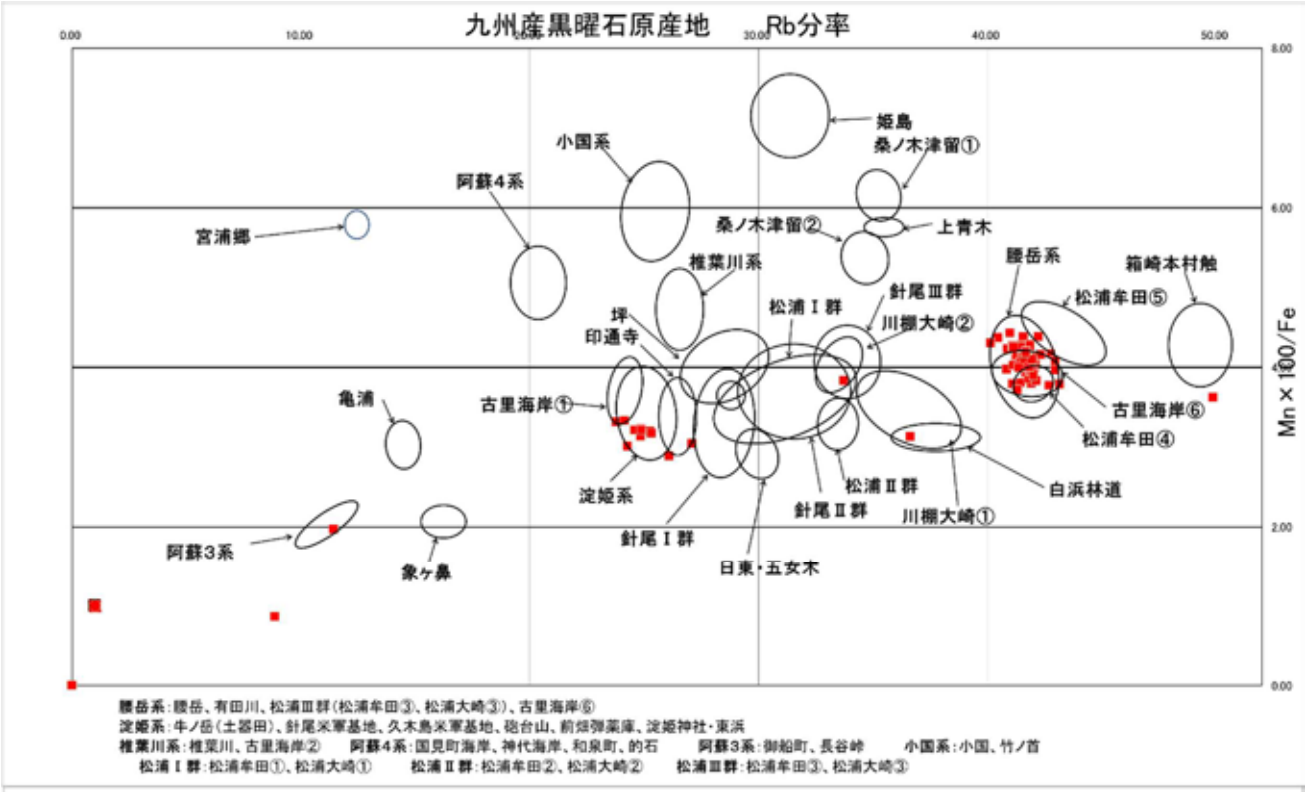


図 27　五島列島内縄文遺跡と黒曜石出土遺跡



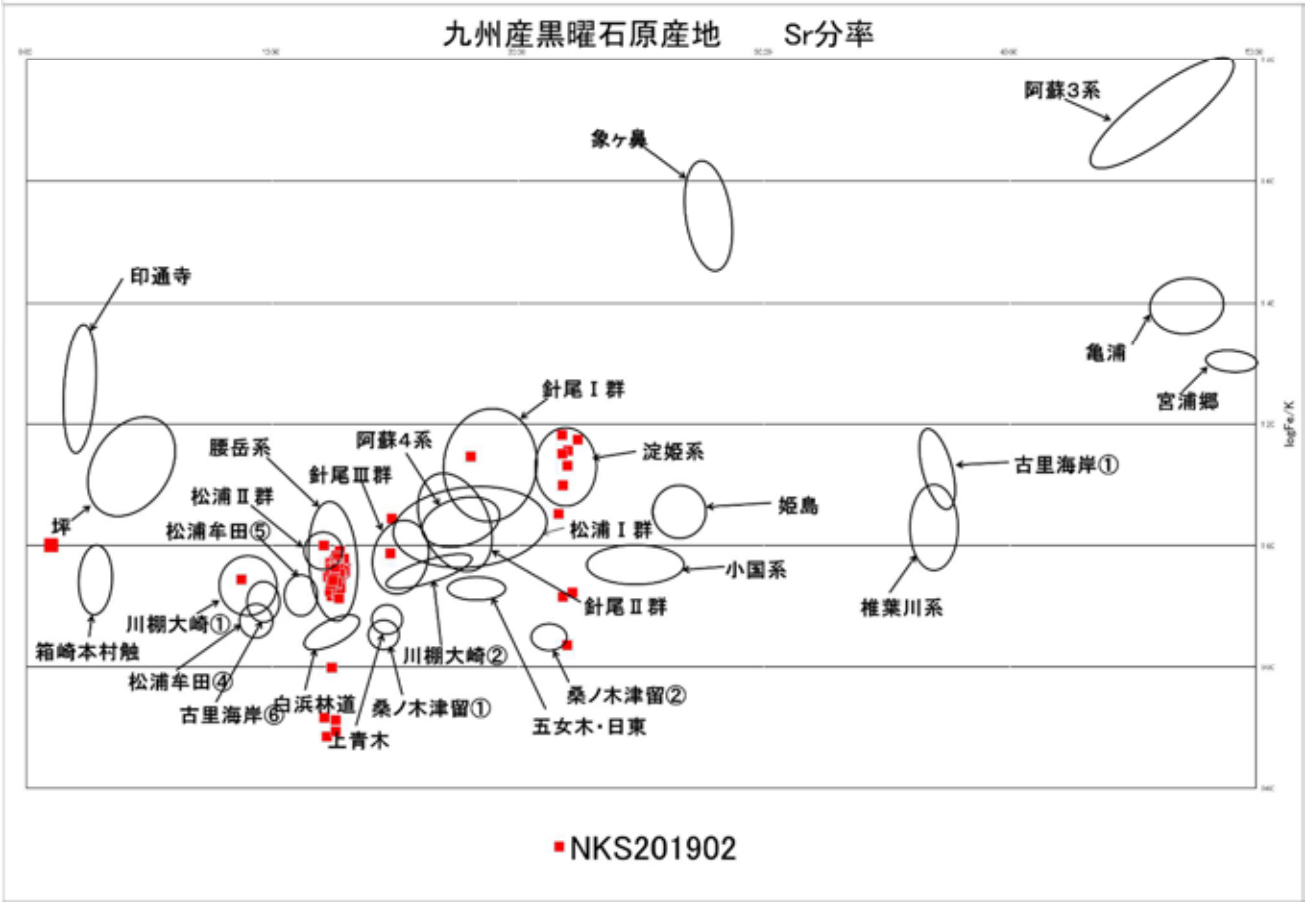


図 28　中島遺跡出土黒曜石の判別図

表 10　黒曜石分析結果一覧

No.	計測ＩＤ	判定	K	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Rb分率	Mn×100/Fe	Sr分率	logFe/K
1	NKS201902-4178	腰岳系	63.860	24.171	614.172	305.148	92.451	125.013	209.560	41.68	3.94	12.63	0.98
2	NKS201902-4179	淀姫系	55.900	25.571	849.156	206.154	185.131	94.027	364.081	24.27	3.01	21.80	1.18
3	NKS201902-4180	腰岳系	65.948	24.042	604.999	309.345	98.326	128.761	221.033	40.84	3.97	12.98	0.96
4	NKS201902-4181	不明	69.415	27.815	767.747	301.977	90.010	12.312	201.396	49.86	3.62	14.86	1.04
5	NKS201902-4182	腰岳系	58.036	21.084	509.152	286.605	87.726	116.442	204.446	41.23	4.14	12.62	0.94
6	NKS201902-4183	腰岳系？	92.867	18.750	449.762	279.321	79.897	110.788	183.108	42.77	4.17	12.23	0.69
7	NKS201902-4184	腰岳系	59.761	20.714	544.195	294.684	88.338	121.845	206.171	41.44	3.81	12.42	0.96
8	NKS201902-4185	腰岳系	65.076	24.181	637.040	309.372	94.071	127.268	207.334	41.92	3.80	12.75	0.99
9	NKS201902-4186	腰岳系	62.628	22.507	550.018	307.265	94.615	126.665	215.560	41.29	4.09	12.72	0.94
10	NKS201902-4187	腰岳系	60.471	23.707	575.119	292.185	90.494	120.814	196.968	41.71	4.12	12.92	0.98
11	NKS201902-4188	腰岳系	63.687	22.297	544.200	299.162	90.368	120.274	201.622	42.05	4.10	12.70	0.93
12	NKS201902-4189	腰岳系	62.291	22.598	537.318	291.252	87.175	120.163	199.617	41.71	4.21	12.49	0.94
13	NKS201902-4190	サヌカイト	139.105	28.986	952.171	253.522	205.885	106.209	370.155	27.09	3.04	22.00	0.84
14	NKS201902-4191	腰岳系？	102.101	22.191	526.299	305.327	93.486	130.509	213.924	41.08	4.22	12.58	0.71
15	NKS201902-4192	腰岳系	66.656	23.481	560.138	312.190	94.448	127.370	212.476	41.82	4.19	12.65	0.92
16	NKS201902-4193	腰岳系	67.887	25.162	602.474	323.414	95.299	133.483	223.633	41.69	4.18	12.28	0.95
17	NKS201902-4194	腰岳系	64.734	22.270	554.067	299.221	89.895	121.189	203.256	41.93	4.02	12.60	0.93
18	NKS201902-4195	腰岳系	64.090	24.456	574.382	310.430	97.376	131.068	215.814	41.13	4.26	12.90	0.95
19	NKS201902-4196	欠番											
20	NKS201902-4197	腰岳系	72.038	24.456	594.225	326.485	96.358	133.112	218.972	42.13	4.12	12.43	0.92
21	NKS201902-4198	腰岳系	53.663	20.097	460.055	269.736	84.524	115.442	197.214	40.45	4.37	12.67	0.93
22	NKS201902-4199	腰岳系	91.442	32.889	829.061	396.596	116.918	155.680	253.840	42.97	3.97	12.67	0.96
23	NKS201902-4200	腰岳系	59.215	21.934	526.452	290.543	88.769	121.627	202.038	41.33	4.17	12.63	0.95
24	NKS201902-4201	腰岳系	60.438	22.013	570.531	299.028	89.527	122.623	203.976	41.81	3.86	12.52	0.97
25	NKS201902-4202	腰岳系	76.679	27.809	736.979	326.234	96.285	128.369	213.274	42.69	3.77	12.60	0.98
26	NKS201902-4203	腰岳系	62.725	23.345	526.971	292.579	89.841	121.766	209.794	40.98	4.43	12.58	0.92
27	NKS201902-4204	腰岳系	61.276	22.100	544.638	297.561	90.144	126.947	205.922	41.29	4.06	12.51	0.95
28	NKS201902-4205	腰岳系	70.439	24.415	609.239	318.132	97.514	132.626	215.267	41.67	4.01	12.77	0.94
29	NKS201902-4206	腰岳系	59.076	22.398	535.974	294.518	90.416	123.289	201.669	41.49	4.18	12.74	0.96
30	NKS201902-4207	腰岳系	59.697	22.849	540.744	293.059	90.924	124.728	205.182	41.05	4.23	12.74	0.96
31	NKS201902-4208	腰岳系	61.055	22.654	536.384	286.781	87.746	116.956	196.359	41.69	4.22	12.76	0.94
32	NKS201902-4209	チャート	8.930	9.658	1119.369	9.862	17.176	31.485	52.724	8.86	0.86	15.44	2.10
33	NKS201902-4210	腰岳系	71.106	24.859	612.395	307.651	92.241	125.920	204.638	42.12	4.06	12.63	0.94
34	NKS201902-4211	腰岳系？	108.656	22.305	535.837	304.068	92.154	126.540	209.656	41.52	4.16	12.58	0.69
35	NKS201902-4212	淀姫系	57.430	23.268	720.489	208.168	182.821	94.852	352.037	24.84	3.23	21.82	1.10
36	NKS201902-4213	腰岳系	64.210	23.778	569.242	312.195	92.996	128.385	213.877	41.77	4.18	12.44	0.95
37	NKS201902-4214	腰岳系	61.228	22.502	513.694	288.726	85.789	117.574	202.542	41.57	4.38	12.35	0.92
38	NKS201902-4215	腰岳系	71.247	24.787	621.246	333.083	99.055	133.389	226.588	42.05	3.99	12.51	0.94
39	NKS201902-4216	腰岳系	68.236	23.788	568.393	307.189	93.389	125.812	213.197	41.54	4.19	12.63	0.92
40	NKS201902-4217	腰岳系	78.147	29.002	697.461	346.944	103.283	138.395	231.331	42.31	4.16	12.60	0.95
41	NKS201902-4218	腰岳系	68.728	25.366	620.261	320.710	99.745	129.923	217.726	41.75	4.09	12.99	0.96
42	NKS201902-4219	腰岳系	67.716	24.753	625.921	313.539	94.712	128.549	211.940	41.88	3.95	12.65	0.97
43	NKS201902-4220	腰岳系	70.915	25.391	638.364	328.773	99.528	135.154	221.124	41.90	3.98	12.69	0.95
44	NKS201902-4221	淀姫系	61.245	28.023	875.463	227.760	198.699	101.073	374.547	25.25	3.20	22.03	1.16
45	NKS201902-4222	腰岳系	66.778	25.035	604.109	307.981	96.592	127.564	213.628	41.30	4.14	12.95	0.96
46	NKS201902-4223	腰岳系	72.718	25.068	653.904	337.006	100.907	135.493	226.465	42.13	3.83	12.62	0.95
47	NKS201902-4224	腰岳系？	105.596	22.402	548.740	315.524	89.056	124.989	204.903	42.96	4.08	12.13	0.72
48	NKS201902-4225	腰岳系	56.899	21.224	527.137	282.728	86.752	117.983	200.180	41.12	4.03	12.62	0.97
49	NKS201902-4226	腰岳系	72.611	25.945	625.768	333.413	99.910	138.379	227.374	41.72	4.15	12.50	0.94
50	NKS201902-4227	淀姫系？	108.772	28.057	895.285	239.407	210.392	106.854	406.948	24.85	3.13	21.83	0.92
51	NKS201902-4228	腰岳系	67.592	25.365	612.606	319.620	98.429	130.675	221.046	41.52	4.14	12.79	0.96
52	NKS201902-4229	淀姫系？	95.181	25.220	794.971	220.416	193.457	98.227	358.744	25.31	3.17	22.21	0.92
53	NKS201902-4230	腰岳系	62.149	22.903	536.000	293.063	88.082	122.454	202.990	41.48	4.27	12.47	0.94
54	NKS201902-4231	玄武岩	38.271	46.931	2381.338	105.217	489.196	64.762	261.448	11.43	1.97	53.14	1.79
55	NKS201902-4232	淀姫系	57.685	27.661	860.823	213.952	195.034	97.592	363.124	24.60	3.21	22.43	1.17
56	NKS201902-4233	淀姫系	54.342	20.289	612.014	181.246	165.038	87.178	328.574	23.78	3.32	21.66	1.05
57	NKS201902-4234	腰岳系	80.341	27.715	731.878	361.832	108.037	139.084	229.489	43.16	3.79	12.89	0.96
58	NKS201902-4235	腰岳系	63.430	23.133	570.322	292.655	88.113	122.089	203.225	41.45	4.06	12.48	0.95
59	NKS201902-4236	腰岳系	67.023	23.614	588.538	313.863	95.535	127.940	218.235	41.54	4.01	12.64	0.94
60	NKS201902-4237	川棚大崎①	65.320	17.982	573.843	256.155	61.205	116.972	265.041	36.63	3.13	8.75	0.94
61	NKS201902-4238	腰岳系	51.698	20.273	479.161	261.429	81.074	111.003	186.249	40.86	4.23	12.67	0.97
62	NKS201902-4239	腰岳系	64.977	23.080	543.201	299.647	91.329	123.825	207.077	41.51	4.25	12.65	0.92
63	NKS201902-4240	不明	60.396	24.409	845.324	222.076	154.001	97.824	377.468	26.08	2.89	18.09	1.15
64	NKS201902-4241	腰岳系	64.532	23.020	555.833	304.822	93.541	125.264	208.562	41.63	4.14	12.78	0.94
65	NKS201902-4242	腰岳系	68.741	23.660	606.993	314.210	94.151	126.584	213.144	42.00	3.90	12.59	0.95
66	NKS201902-4243	淀姫系	58.232	25.325	787.515	218.918	193.677	97.497	369.925	24.88	3.22	22.01	1.13
67	NKS201902-4244	腰岳系	66.587	23.812	590.807	321.229	96.674	128.655	216.923	42.07	4.03	12.66	0.95
68	NKS201902-4245	腰岳系	68.966	26.435	617.118	320.436	97.396	130.826	216.894	41.86	4.28	12.72	0.95
69	NKS201902-4246	腰岳系	70.341	23.072	575.335	309.730	93.918	125.693	208.891	41.96	4.01	12.72	0.91
70	NKS201902-4247	腰岳系	67.641	24.483	573.787	310.216	94.597	125.631	210.795	41.85	4.27	12.76	0.93
71	NKS201902-4248	腰岳系	60.887	21.600	569.791	292.310	87.928	124.109	207.162	41.08	3.79	12.36	0.97
72	NKS201902-4249	腰岳系	68.930	25.609	688.503	322.456	94.589	132.714	231.118	41.29	3.72	12.11	1.00
73	NKS201902-4250	腰岳系	64.247	22.851	554.512	296.384	89.975	121.602	205.689	41.53	4.12	12.61	0.94
74	NKS201902-4251	腰岳系	64.353	23.683	579.267	305.525	90.901	126.969	209.745	41.67	4.09	12.40	0.95
75	NKS201902-4252	腰岳系	68.387	24.921	609.374	313.205	96.202	128.737	214.522	41.61	4.09	12.78	0.95
76	NKS201902-4253	腰岳系	63.591	22.979	573.288	300.941	91.576	120.356	206.350	41.84	4.01	12.73	0.95
77	NKS201902-4254	腰岳系	47.152	22.239	667.106	185.158	167.154	90.579	323.807	24.15	3.33	21.80	1.15
78	NKS201902-4255	腰岳系？	72.907	19.733	458.155	261.243	80.870	115.614	193.226	40.13	4.31	12.42	0.80
79	NKS201902-4256	腰岳系	66.556	24.274	577.989	307.773	93.294	124.251	212.801	41.70	4.20	12.64	0.94
80	NKS201902-4257	腰岳系	59.802	23.875	559.002	288.573	89.255	121.857	202.642	41.09	4.27	12.71	0.97
81	NKS201902-4258	針尾皿群	59.015	21.921	571.648	231.788	101.788	96.775	256.902	33.73	3.83	14.81	0.99
82	NKS201902-4259	腰岳系	62.328	23.892	562.109	295.036	89.839	124.943	207.363	41.14	4.25	12.53	0.96
83	NKS201902-4260	腰岳系	59.432	22.587	565.854	286.776	87.983	117.875	200.755	41.36	3.99	12.69	0.98
84	NKS201902-4261	腰岳系	66.503	23.489	573.460	303.896	89.777	123.205	207.510	41.95	4.10	12.39	0.94
85	NKS201902-4262	腰岳系	70.429	27.059	647.292	336.374	101.279	137.338	232.428	41.66	4.18	12.54	0.96
86	NKS201902-4263	腰岳系	71.155	27.307	622.612	338.705	99.988	133.822	229.575	42.23	4.39	12.47	0.94

Ⅷ．総括

１．調査成果

今回の中島遺跡発掘調査は道路拡幅を要因とするため、緩斜面地における狭い幅での調査範囲であったが、後期前葉を主とした縄文時代の多量の土器片や、敲石・磨石・台石等の堅果類加工石器、石斧の出土があった。また、大浜遺跡を含む調査履歴にみるように、弥生時代中・後期や古代の土器片も少量出土した。調査範囲はかつて多数のドングリ貯蔵穴が検出された範囲に近いものの、標高で1～2m ほど高いため予想通りドングリ貯蔵穴の検出はなかった。かえって縄文時代の居住遺構や弥生時代の墳墓等の遺構の存在可能性を考えていたが、炉跡や焼土・炭化物分布を検出した以外に遺構は確認されなかった。

範囲確認調査前は、1995 年のカルテ調査でのＢゾーンに該当していたため、縄文時代前・中期が主体であろうと予想されたが、調査においては阿高系等の縄文時代後期前半の土器が主体であり、Ｂゾーンでも南半の斜面裾部は、後期のドングリ貯蔵穴や貝塚の集中するＡゾーンと傾向的に近いことが分かった。

２．縄文時代の堅果類加工について

（１）低湿地での貯蔵、接続斜面地での加工

出土した石器のうち石斧はほぼ全て掲載したが、石斧素材としての準備礫であったとみられる縦長の円礫や、多量の堅果類加工石器及びその準備礫は掲載していない。これら石器、特に堅果類加工石器はドングリ貯蔵穴と直接に関係したものと評価できる。低湿地部で貯蔵した堅果類の加工を隣接する斜面地で行っていたという空間利用の在り方が復元できそうである。縄文時代後期西日本における貯蔵穴周辺の食料加工具に関する研究において、貯蔵域と加工・居住域が隣接する遺跡と離れる遺跡の 2 タイプに分かれるという（上條 2006)。また貯蔵穴の集中する低地部に隣接する斜面地に加工域が設けられるパターンにも言及されている。

（２）貯蔵穴の時期

一方で、石器群の詳細な時期に関する評価は難しい。既往調査でのドングリ貯蔵穴は、鐘崎式や北久根山式が主体的に出土したことから後期中葉の時期で捉えられている。カルテ調査では「縄文時代後期中葉の鐘崎式土器・北久根山式土器の段階になると低湿地への進出がなされる」（川道 1997）とも指摘されている。

しかし、今回の調査では後期中葉の土器は少なく阿高系等の後期前葉が主体的である。石器群を単純に後期前葉の所産とみなし得るのであれば、ひるがえってドングリ貯蔵穴の営まれた時期も後期前葉と言えるだろうが、調査範囲での土層堆積状況を勘案すると、おそらく弥生期～古代にかけての営為により撹乱されており、出土遺物は厳密には原位置を保っていないことになる。また、既往調査を含む調査範囲のみしか考慮しておらず、「縄文時代後期の中島集落」を全て見ているわけではないので、すぐに解の出る問題ではない。居住エリアが全く確認できていないので尚更のことであるが、貯蔵及びその加工等の低湿地利用が行われたのは縄文時代後期前半と広く捉えることはできそうである。

（3）石器群の使用方法

敲石・磨石・台石の堅果類加工石器が実際にどのようにして使われたかは、加工される堅果類の種類によってパターンが異なるようである（上條前掲書）。また、全てが堅果類に使用されていたかという問題もあるという。こうした視点は石器の使用痕分析などを経て明らかになるものと考えられる。今後の課題である。

加えて、多量の石斧の使用方法も未だ明確な評価はない。既往調査では、堅果類をもたらす樹木の伐採・枝落としが想定されている（村川 1997）。円礫剥片掻器についても、堅果の付く小枝部の切断が使用方法として挙げられている。さらに堅果類の獲得方法について、実の青い段階で枝ごと採集された可能性が示されている。

ただこれらの想定は、堅果類食の類例調査等を経ているものではなく未検証のイメージである。現在も残る堅果類食の類例調査や、石斧・掻器の使用痕分析等が有効な研究方法となろう。これらも今後の課題としたい。

引用参考文献
小畑弘己・塚原博 2001「五島列島の旧石器時代遺跡」『環東中国海沿岸地域の先史文化』第 5 編
上條信彦 2006「貯蔵穴周辺の食料加工具－縄文時代後期の西日本を中心に－」『九州縄文時代の低湿地遺跡と植物性自然遺物』九州縄文研究会
川道寛 1997「中島遺跡」『県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅴ』長崎県文化財調査報告書第 133 集
甲元眞之編 2000「中島遺跡第 2 次調査概要」『環東中国海沿岸地域の先史文化』第 3 編
甲元眞之編 2001「中島遺跡第 3 次調査概要」『環東中国海沿岸地域の先史文化』第 4 編
甲元眞之編 2001「中島遺跡発掘調査報告」『環東中国海沿岸地域の先史文化』第 5 編
小林達雄編 2008『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
冨井眞 2008「並木式・阿高式土器」『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
中尾篤志 2006「長崎県の貯蔵穴」『九州縄文時代の低湿地遺跡と植物性自然遺物』九州縄文研究会
平美典 2004「北部九州における中期～後期前半の土器と並行関係」『弥生中期土器の併行関係－発表要旨集－』埋蔵文化財研究会
福田一志 1998『大浜遺跡』長崎県文化財調査報告書第 141 集
水ノ江和同・前迫亮一 2010「九州」『西日本の縄文土器－後期－』真陽社
宮地聡一郎 2008「黒色磨研土器」『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
村川逸朗 1987『中島遺跡』福江市文化財調査報告書第 4 集
山本信夫 2000『大宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－』太宰府市の文化財 第 49 集

写真 11　Gr6 ベルト土層断面状況（北から）

写真 12　Gr12 ベルト土層断面状況（北から）

写真 13　Gr1 ～ 6 Ⅰ層下面検出状況（南から）

写真 14　Gr11 ～ 13 Ⅰ層下面検出状況（南から）

写真 15　Gr8 Ⅱ層掘削状況（南西から）

写真 16　Gr13 Ⅱ層掘削状況（北から）

写真 17　Ⅱ層遺物出土状況

写真 18　Ⅱ層遺物出土状況

写真図版 2

写真 19　SL2 検出状況（南から）

写真 20　SL2 検出状況（西から）

写真 21　Gr12 トレンチ焼土分布検出状況（北から）

写真 22　Gr1 ～ 6 Ⅱ層完掘状況（南から）

写真 23　Gr7 ～ 10 Ⅱ層完掘状況（北から）

写真 24　Gr11 ～ 13 Ⅱ層完掘状況（北から）

写真 25　SL1 検出状況（北から）

写真 26　SL1 検出状況（西から）

写真 27　Ⅲ層掘削状況（南から）

写真 28　Gr1 ～ 6 Ⅲ層完掘状況（南から）

写真 29　Gr7 ～ 10 Ⅲ層完掘状況（北から）

写真 30　Gr11 ～ 13 Ⅲ層完掘状況（北から）

写真 31　出土土器（縄文時代）

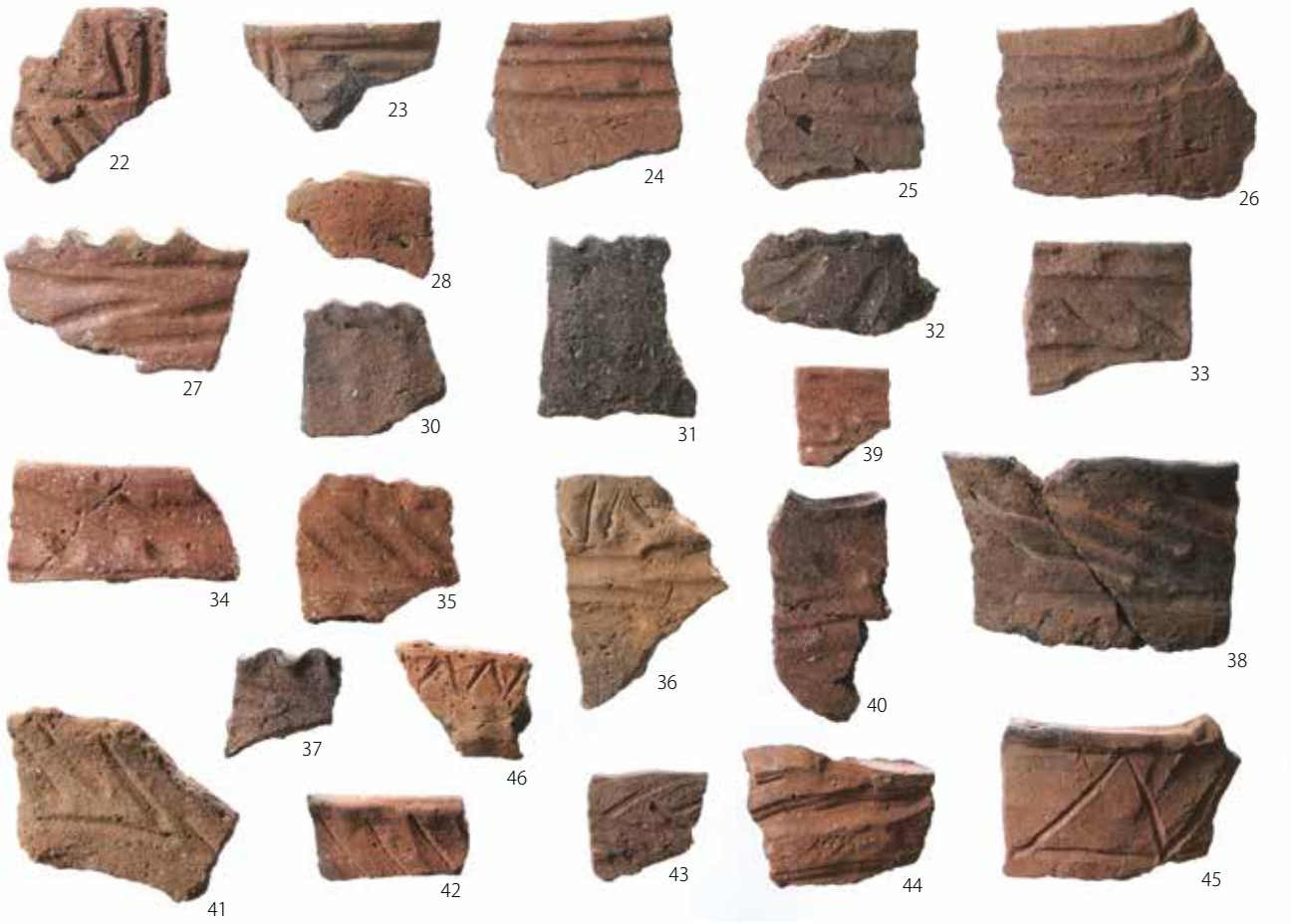


写真 32　出土土器（縄文時代）

写真 33　出土土器（縄文時代）

写真 34　出土土器（縄文時代）

写真 35　出土土器（縄文時代）

写真 36　出土石器（縄文時代）

写真 37　出土石器（縄文時代）

写真 38　出土石器（縄文時代）

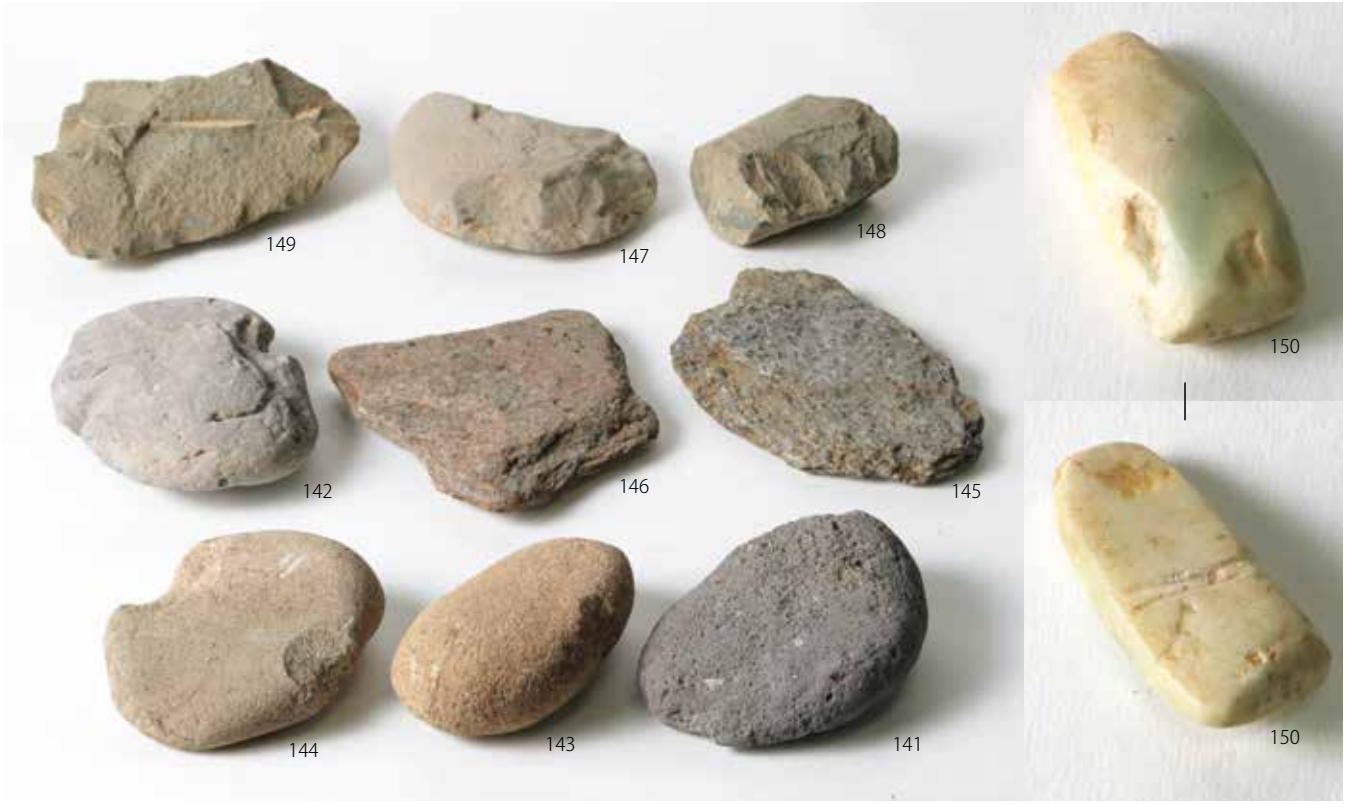


写真 39　出土石器（縄文時代）

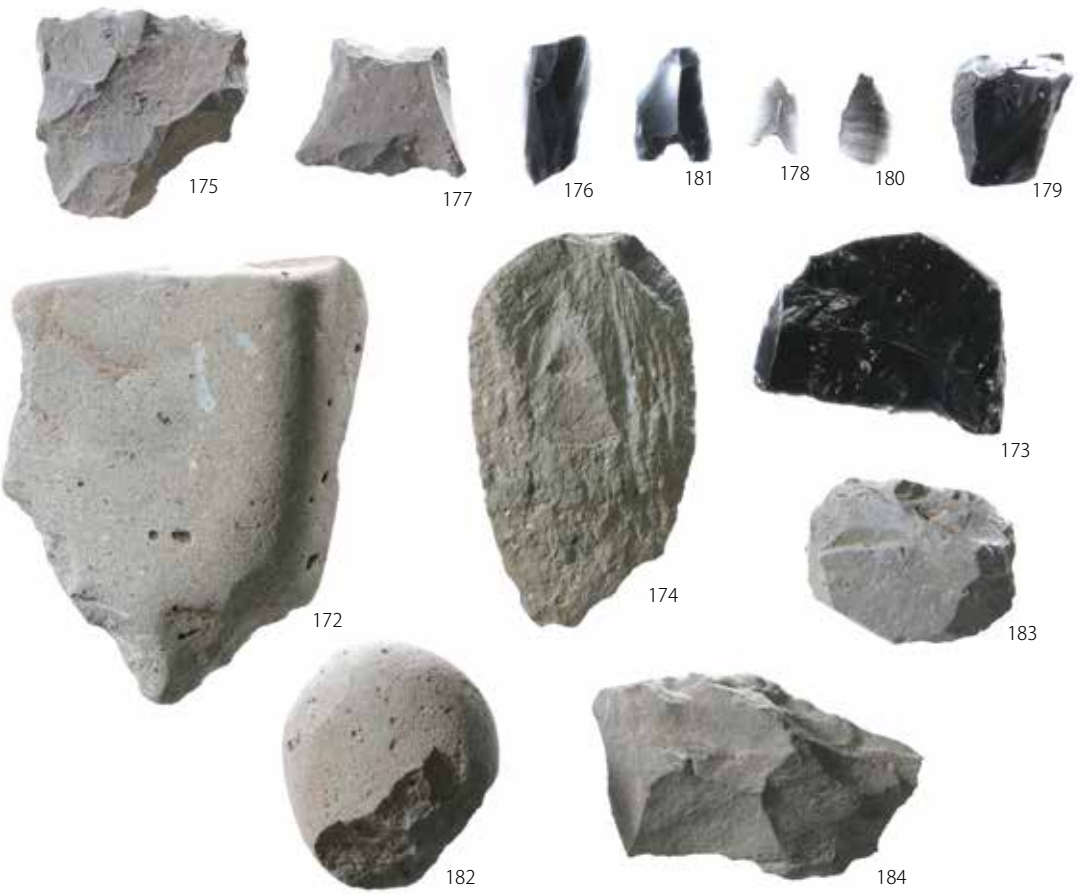


写真 40　出土石器（縄文時代）

写真 41　出土土器（弥生時代・古墳時代・古代・中世）

報 告 書 抄 録

ふ　り　が　な	なかしまいせき
書　　名	中島遺跡
副　書　名	主要地方道路福江富江線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シ　リ　ー　ズ　名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号名	第38集
編　著　者　名	松元一浩　岩佐朋樹
編　集　機　関	長崎県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒811－5322　長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触515番地1　電話0920（45）4080
発　行　年　月　日	西暦2021年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかしまいせき 中島遺跡	ながさきけんごとうし 長崎県五島市 はままち 浜町	42211	033	32° 39′ 16″	128° 48′ 46″	本調査 2019.6.27～ 2019.9.20	671㎡	道路建設

収録遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中島遺跡	遺物包含地	縄文時代	炉跡	縄文土器 （前期～晩期） 石器	阿高系 堅果類加工石器 石斧 大珠未製品
		弥生時代		弥生土器 （中・後期）	
		古墳時代～ 古代	焼土・炭化物分布	土師器・須恵器	内部に鉄の入った ハソウ
		中世		貿易陶磁器	

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第 38 集

中島遺跡

令和 3（2021）年 3 月 31 日

発行　長崎県教育委員会
　　長崎市尾上町 3 番 1 号

印刷　株式会社 昭和堂